



# スポーツ開発・支援センター 年報

2016-2017

第13巻 第14巻 合併号

びわこ成蹊スポーツ大学  
スポーツ開発・支援センター

## 2016年度 事業報告

### 自主事業

#### プログラム提供・調査研究事業

##### びわスポキッズプログラム事業報告

びわスポキッズプログラム運営会議

中山 亮 … 11

びわスポキッズプログラム巡回指導

中山 亮 … 15

びわスポキッズプログラム巡回指導一覧

びわスポキッズフェスティバル

中山 亮 … 19

第32回びわスポキッズフェスティバル in 長浜

第33回びわスポキッズフェスティバル in 東近江

第34回びわスポキッズフェスティバル in 大津

びわスポキッズリーダー研修会・登録会

山田 庸 … 27

#### 公開講座事業

第9回ホノルルマラソンを目指そう!!

藤松 典子 … 31

2016びわスポランニング教室

びわスポ水中ウォーキング教室

波多 遥 … 33

びわスポ水泳教室

波多 遥 … 35

びわスポキッズ水泳教室

波多 遥 … 37

びわスポアクアビクス教室 前期

波多 遥 … 41

びわスポ自然体験スポーツフェスティバル

中山 亮 … 43

### 共同事業

長浜市・びわこ成蹊スポーツ大学連携事業

柴田俊和 … 47

ジュニアアスリート育成プログラム

北村哲

山田庸

仲宗根森敦

### 受託事業

産官学連携事業

受託研究

「Jリーグ」が主催する公式試合のスタジアム観戦者に関する調査

吉田 政幸 … 57

「運動後の食欲変化に対する佐渡産コシヒカリ摂取の影響」

武田 哲子 … 61

委託事業

平成28年度 障害者スポーツ推進事業

「障害者スポーツボランティア育成事業」

河西 正博 … 67

## 自治体連携事業

### 指導者・学生派遣事業

大津市＜運動部活動＞外部指導者(大学生)活用事業

松井 茂孝 … 75

## 地域貢献事業

### 学生派遣事業

第4回びわ湖パノラマウォーキング

波多 遥 … 81

スポーツボランティア実習「熊本地震ボランティア」

山田 庸 … 83

### 施設開放事業 報告

2016年度施設開放事業 一般開放概要

波多 遥 … 87

施設開放事業 利用状況一覧

波多 遥 … 88

2016年度 アクアセンター報告

波多 遥 … 89

2016年度 トレーニングルーム報告

江見 亮輔 … 91

## 2016年度事業一覧

2016年度スポーツ開発・支援センター事業一覧

松井 茂孝 … 95

## 2017年度 事業報告

### アスリートプログラム

#### 課外活動強化事業

アスリート教養プログラム

本郷 宏樹 … 105

アスリート寮「MUSASHI」書道教室

本郷 宏樹 … 106

アスリート寮「MUSASHI」栄養講座

石間 寛人 … 107

壮行会(ユニバーシアード@台北、サッカー、アルティメット)

荒木 初廣 … 108

課外活動結果報告(サッカー部・硬式野球部・陸上競技部)

石間 寛人 … 109

平成29年度 滋賀県競技力向上対策事業における対象団体  
(陸上競技・ウエイトリフティング)

荒木 初廣 … 110

ミズノ(株)との連携協力協定締結

荒木 初廣 … 111

### タウンプログラム

#### プログラム提供・調査研究事業

びわスポキッズプロジェクト事業報告

びわスポキッズプログラム運営会議

中山 亮 … 119

びわスポキッズフェスティバル

中山 亮 … 120

びわスポキッズプログラム巡回指導

中山 亮 … 123

びわスポキッズプログラムリーダー研修会

中山 亮 … 125

「びわスポキッズプログラム」の開発に向けた取り組み

秋武 寛 … 127

#### 公開講座事業

第10回ホノルルマラソンを目指そう！！

藤松 典子 …135

2017びわスポランニング教室

「ホノルルマラソンを目指そう！！2017びわスポランニング教室」  
in HAWAII

藤松 典子 …136

びわスポ健やかストックウォーキング教室

藤松 典子 …137

びわスポ水中ウォーキング教室

白木 孝尚 …138

びわスポ水泳教室

村瀬 陽介 …139

びわスポキッズ水泳教室

村瀬 陽介 …140

#### 地域貢献事業

##### 学生派遣事業

びわ湖レイクサイドマラソン 走路員等ボランティア派遣

荒木 初廣 …145

第5回びわ湖パノラマウォーキング 走路員等

松井 茂孝 …146

##### 施設開放事業 報告

2017年度施設開放事業 一般開放概要

坂本 和大 …149

施設開放事業 利用状況一覧

坂本・神田 …150

2017年度 アクアセンター報告

神田 恵太 …151

2017年度 トレーニングルーム報告

坂本 和大 …152

### アカデミックプログラム

#### 産官学連携事業

##### 自治体連携事業

大津市運動部活動外部指導者(大学生)活用事業

荒木 初廣 …159

長浜市ジュニアアスリート育成プログラム 講師派遣

北村 哲 …161



ながはまスポーツキッズフェスティバル	中山 亮	…163
第70回滋賀県中学校夏季総合体育大会第1ブロック陸上競技 の部兼学年別選手権大会	中山 亮	…164

#### 受託研究

「インソールの違いが体幹及び下肢の動作と筋活動に 及ぼす影響について」	高橋 佳三	…167
「ロズマリン酸サプリメントの抗酸化作用の検証」	武田 哲子	…168
「赤しそジュースの血糖上昇抑制効果の検証」	武田 哲子	…169

#### 2017年度事業一覧

2017年度スポーツ開発・支援センター事業一覧	中山 亮	…173
-------------------------	------	------

# 2016年度 事業報告



スポーツ開発・支援センター  
**自主事業**

びわスポキッズプログラム事業  
公開講座事業



# プログラム提供・調査研究事業

びわスポキッズプログラム事業報告



## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	びわスポキッズプログラム運営会議
担当	スポーツ開発・支援センター事務課
実施期間	2016年5月31日(火)
場所	大阪成蹊学園セミナーハウス2階 会議室
対象	2016年度 びわスポキッズプログラム運営会議委員および関係者 24名
実施形態	会議

### ○ 目的

びわスポキッズプログラムの諮問会議であり、年度内1回実施している。

### ○ 内容

びわスポキッズプログラム事業に協賛・後援の団体代表者が集まり、2015年度事業実績報告および2016年度事業計画と今後の運営方針について協議した。

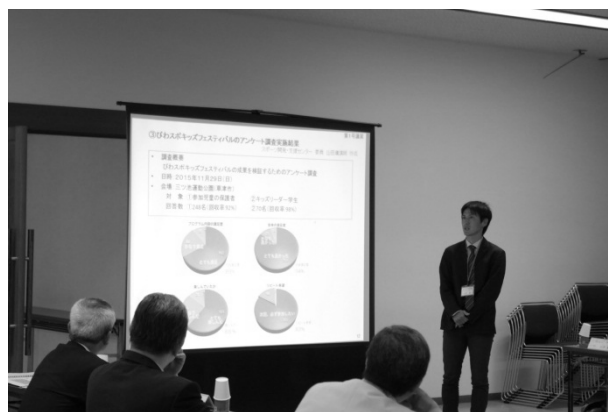


### ○ 結果と課題

びわスポキッズプログラム運営会議委員および関係者17名が出席し、本学からは学長ほか7名が出席した。

スポーツ開発・支援センター委員および事務課職員から議案「2015年度びわスポキッズプログラム事業報告」、「2015年度収支決算報告」、「2016年度事業計画(案)」、「2016年度収支予算(案)」について説明があり、承認された。

その他、会議の中では、今後の継続課題として、びわスポキッズプログラムを授業に取り込むことや、各運動遊びを効果検証し、科学的根拠に基づいたプログラムを構築し実施するよう意見があり、課題解決に向けて取り組むことを確認した。







# びわスポキッズプログラム 巡回指導



## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	びわスポキッズプログラム巡回指導
担当	中山 亮(スポーツ開発・支援センター事務課員)
実施期間	2016年5月12日(木)～2017年3月22日(水) 計58回
対象者数	4歳児・5歳児 計2,210名
実施園	大津市:志賀北幼稚園, 比良保育園, 志賀南幼稚園, 仰木の里幼稚園, 堅田幼稚園, 仰木幼稚園, 真野幼稚園, 雄琴幼稚園, 真野北幼稚園, 仰木の里東幼稚園, 下阪本幼稚園 高島市:マキノ西こども園, マキノ東こども園, 高島こども園 草津市:さくら坂保育園, みのり保育園 甲賀市:甲賀西保育園
実施形態	実技
費用	無料

### ○ 目的

滋賀県の子どもの運動能力の向上と、スポーツを好きになってもらうことを目的に 2009年度から開始した。

### ○ 内容

学生キッズリーダーが「バランス」、「リズム」、「タイミング」の3要素をキーワードに運動遊びを中心としたメニューを計画し、あいさつや、ルール説明、後片付けの時間を取り入れ「スマイル」、「自律・協調」、「フェアプレー」の3要素をキーワードにスポーツマインドを養う指導を学年別に実施した。毎年度、びわスポキッズプログラム巡回指導は湖西地域を中心に50回程度実施している。

### ○ 結果と課題

2016年度はびわスポキッズプログラム巡回指導として、滋賀県内の幼稚園・保育園を58回、計2,210名に対して指導を行った。年度末に実施した各園へのアンケートの中では、「子どもたちは毎回びわスポキッズの日を楽しみにしており、意欲的に参加させてい

ただいた」、「どんな姿も肯定的に認めていただき、子どもたちにとって運動する楽しさや自己肯定感を感じる機会になった」などの9割以上の好評価意見をいただいた。2016年度で8年目となる本プログラムは、滋賀県内、特に本学の所在する湖西地域に着実に定着してきており、アンケート結果から、各園の本プログラムへの理解度の高さと、巡回指導を楽しみにしている子どもたちの様子が伺えた。

一方で、課題としては4歳児、5歳児の成長に合わせた指導が必ずしも実施できていなかったことが上げられる。同様の指摘は毎年度数園から指摘があり、2016年度から改善策として、4歳児には「ルールが簡単で個人で遊べる運動メニューの実施」、5歳児には「複数ルールの入ったチームで遊べる運動メニューの実施」を心がけ取り組んできた。今後も課題解決のために継続して実施していきたい。

## 2016年度びわスポキッズプログラム巡回指導実績

2017.4.1

NO	日付	巡回園	時間	対象園児	メイン リーダー	サブ リーダー	備考
1	5/17(火)	志賀南幼稚園	9:30-11:30	年長 39名	原口	2名	
2	5/27(金)	真野幼稚園	9:30-11:30	年長 43名	原口	3名	
3	5/30(月)	真野北幼稚園	10:45-11:30	年少 18名	河野	2名	
4	5/31(火)	仰木幼稚園	10:30-11:10	年少・年長 14名	原口	3名	
5	6/1(水)	仰木の里幼稚園	9:30-11:30	年少・年長 40名	辻岡	2名	
6	6/3(金)	下阪本幼稚園	9:30-11:15	年長 57名	辻岡	2名	
7	6/7(火)	志賀南幼稚園	9:30-11:30	年長 39名	原口	2名	
8	6/8(水)	堅田幼稚園	9:30-10:30	年長 33名	河野	4名	
9	6/9(木)	雄琴幼稚園	9:30-11:30	年少・年長 34名	河野	3名	
10	6/10(金)	仰木の里東幼稚園	10:30-11:15	年長 36名	辻岡	2名	
11	6/13(月)	真野幼稚園	9:30-11:30	年長 43名	姫野	2名	
12	6/14(火)	志賀北幼稚園	9:30-10:40	年長 30名	原口	3名	
13	6/15(水)	比良保育園	9:30-11:30	4歳、5歳児 59名	姫野	6名	
14	6/20(月)	真野北幼稚園	10:45-11:30	年長 16名	姫野	2名	
15	6/21(火)	仰木幼稚園	10:30-11:10	年少・年長 14名	中島	4名	
16	7/6(水)	高島こども園	9:50-11:20	4歳、5歳児 24名	辻岡	4名	
17	7/26(火)	マキノ東こども園	10:00-11:30	4歳、5歳児 17名	中島	3名	
18	9/7(水)	比良保育園	9:30-11:30	4歳、5歳児 59名	姫野	3名	
19	9/8(木)	雄琴幼稚園	9:30-11:30	年少・年長 34名	河野	2名	
20	9/9(金)	マキノ東こども園	10:00-11:30	4歳、5歳児 27名	中島	3名	
21	10/6(木)	志賀北幼稚園	9:30-11:00	年長 37名	原口	2名	
22	10/11(火)	真野北幼稚園	9:30-11:00	年少・年長 39名	河野	2名	
23	10/12(水)	仰木の里幼稚園	9:30-11:30	年少・年長 40名	辻岡	2名	
24	10/13(木)	志賀南幼稚園	9:30-11:30	年長 39名	原口	2名	
25	10/17(月)	高島こども園	9:50-11:30	4歳、5歳児 24名	原口	2名	
26	10/18(火)	仰木の里東幼稚園	9:30-11:00	年少・年長 73名	河野	2名	
27	10/19(水)	仰木幼稚園	9:30-10:15	年少・年長 14名	辻岡	3名	
28	10/20(木)	仰木の里幼稚園	9:30-11:30	年少・年長 40名	中島	1名	
29	10/21(金)	比良保育園	9:30-10:30	4歳児 28名	姫野	4名	
30	10/24(月)	堅田幼稚園	9:30-10:30	年長 33名	原口	4名	
31	10/25(火)	堅田幼稚園	9:30-10:45	年少 50名	河野	3名	
32	10/26(水)	雄琴幼稚園	9:30-11:30	年少・年長 34名	河野	3名	
33	10/31(月)	マキノ西こども園	10:00-11:30	4歳、5歳児 43名	原口	1名	
34	11/4(金)	志賀南幼稚園	9:30-11:30	年少 39名	原口	2名	
35	11/7(月)	下阪本幼稚園	9:30-11:15	年長 58名	原口	2名	
36	11/9(水)	甲賀西保育園	10:00-11:00	5歳児 22名	辻岡	3名	
37	11/11(金)	仰木の里東幼稚園	9:30-11:00	年少・年長 73名	原口	4名	
38	11/14(月)	堅田幼稚園	9:30-10:45	年少 50名	北島	4名	
	11/15(火)	真野北幼稚園	9:30-11:00	年少・年長 1名	河野	1名	中止
39	11/16(水)	甲賀西保育園	10:00-11:00	4歳児 29名	辻岡	3名	
40	11/18(金)	マキノ西こども園	10:00-11:30	5歳児 27名	姫野	2名	
41	11/22(火)	さくら坂保育園	9:45-11:00	4歳、5歳児 37名	河野	4名	
42	12/1(木)	真野幼稚園	9:30-11:30	年長 43名	中島	4名	
43	12/2(金)	比良保育園	9:30-11:30	4歳、5歳児 59名	姫野	3名	
44	12/5(月)	マキノ西こども園	10:00-11:30	4歳児 27名	原口	1名	
45	12/6(火)	マキノ東こども園	10:00-11:30	4歳、5歳児 27名	原口	1名	
46	12/9(金)	志賀北幼稚園	9:30-11:00	年長 30名	原口	1名	
47	12/12(月)	高島こども園	9:50-11:30	4歳、5歳児 24名	原口	2名	
48	12/16(金)	仰木幼稚園	9:30-10:20	年少・年長 14名	姫野	2名	
49	12/19(月)	仰木の里幼稚園	9:30-11:30	年少・年長 40名	北島	3名	
50	1/11(水)	下阪本幼稚園	9:30-11:15	年長 56名	中島	4名	
51	1/13(金)	仰木の里東幼稚園	9:30-11:00	年少・年長 73名	姫野	4名	
52	1/18(水)	下阪本幼稚園	9:30-11:15	年少 48名	中島	4名	
53	2/7(火)	みのり保育園	10:00-11:30	年中 51名	中島	4名	
54	2/8(水)	みのり保育園	10:00-11:30	年長 55名	中島	4名	
55	2/17(金)	雄琴幼稚園	9:30-11:30	年少・年長 34名	原口	2名	
56	2/24(金)	志賀北幼稚園	10:45-11:15	年少30分 32名	原口	5名	
57	2/27(月)	真野幼稚園	9:30-11:30	年少・年長 69名	阪田・姫野	10名	研修会開催
58	3/22(水)	真野北幼稚園	9:30-10:20	年少 23名	辻岡	2名	
				合計 2,210名	57名	168名	

びわスポ  
キッズフェスティバル



## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	第32回 びわスポキッズフェスティバル in 長浜
担当	中山 亮(スポーツ開発・支援センター事務課員)
実施日時	2016年 9月 3日(土)17:00-19:00
天候	曇り時々晴れ 気温:25度前後
スケジュール	17:00 開会式→ 17:15 プログラム実施→ 18:45 閉会式・抽選会→ 19:00 閉会式
参加対象	年中(4歳児)～小学3年生
参加者数	4歳児37名, 5歳児47名, 1年24名, 2年26名, 3年27名 計161名
場所	神照運動公園(長浜市神照町208-1)
指導者	学生補助員(キッズリーダー):37名
実施形態	びわスポキッズプログラム
費用	無料

### ○ 目的

滋賀県の子どもの運動能力の向上と、スポーツを好きになってもらうことを目的に2009年度から開始した。

### ○ 内容

学生キッズリーダーが「バランス」、「リズム」、「タイミング」の3要素をキーワードに運動遊びを中心としたメニューを計画し、あいさつや、ルール説明、後片付けの時間を取り入れ「スマイル」、「自律・協調」、「フェアプレー」の3要素をキーワードにスポーツマインドを養う指導を学年別に実施した。毎年度、びわスポキッズフェスティバルは3～4回滋賀県各地で開催している。

### ○ 結果

長浜文化スポーツ振興事業団様と共催で実施した。開会式には、本学と包括協定を結ぶ長浜市から藤井市長にご来場いただき、挨拶をいただいた。

当日は台風の影響が心配されたが、最後まで雨が降ることもなく、参加した161名の子

どもたちは、37名の学生キッズリーダーと共に、笑顔いっぱい芝の上を走り回った。

ナイターでの実施は今回初めての試みであったが、残暑厳しいこの時期にぴったりで、琵琶湖から吹く爽やかな風がとても心地よく、運動するのに適していた。

参加された保護者の皆さまからは「とても楽しく参加している姿がみられた」「運動がより大好きになれたと思う」「すごく良いプログラムで月に1・2回のペースで実施して欲しい」「夕方、夜の開催は助かります」などのご意見をいただいた。





## 2.キッズフェスティバル様子



藤井長浜市長



鳥羽スポーツ開発支援センター長



## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	第33回 びわスポキッズフェスティバル in 東近江
担当	中山 亮(スポーツ開発・支援センター事務課員)
実施日時	2016年10月8日(土) 13:00~15:00
天候	曇り時々晴れ 気温:27度前後
スケジュール	13:00 開会式→ 13:15 プログラム実施→ 14:45 閉会式・抽選会
参加対象	年中(4歳児)~小学3年生
参加者数	4歳児37名, 5歳児58名, 1年55名, 2年45名, 3年48名 計243名
場所	布引グリーンスタジアム(東近江市芝原町1503番地)
指導者	学生補助員(キッズリーダー):49名
実施形態	びわスポキッズプログラム
費用	無料

### ○ 目的

滋賀県の子どもの運動能力の向上と、スポーツを好きになってもらうことを目的に2009年度から開始した。

### ○ 内容

学生キッズリーダーが「バランス」、「リズム」、「タイミング」の3要素をキーワードに運動遊びを中心としたメニューを計画し、あいさつや、ルール説明、後片付けの時間を取り入れ「スマイル」、「自律・協調」、「フェアプレー」の3要素をキーワードにスポーツマインドを養う指導を学年別実施した。毎年度、びわスポキッズフェスティバルは3~4回滋賀県各地で開催している。

### ○ 結果

当日は悪天候が心配されたが、空は晴れ渡り絶好のびわスポキッズプログラム日和となった。開会式では東近江市の小椋市長にご挨拶いただき、ゲストの元サッカー日本代表小村徳男氏に開会の鮮やかなキックオフを披露いただいた。

小村氏は、子どもたちと元気に遊んでいた

だき、時にはサッカーボールを使用した華麗なドリブルを披露、指導にあたる学生、子どもたちを魅了していた。

当日は、晴れ渡る空の下、243名の子どもたちが学生キッズリーダー考案の運動遊びを満喫し芝の上を笑顔一杯に駆け回っていた。

参加された保護者の皆さまからは「子ども達が楽しそうに遊んでいた」「普段人見知りしていた子どもが楽しそうに運動していた」などの感想をいただいた。



## 2.キッズフェスティバル様子



## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	第34回 びわスポキッズフェスティバル in 大津
担当	中山 亮(スポーツ開発・支援センター事務課員)
実施日時	2016年10月30日(日) 10:00~12:00
天候	晴れ 気温:20度前後
スケジュール	10:00 開会式→ 10:15 プログラム実施→ 10:45 年中・年長児は継続してキッズプログラムを, 小学1-3年生は陸上教室を実施→11:45 閉会式・抽選会
参加対象	年中(4歳児)~小学3年生
参加者数	252名
場所	びわこ成蹊スポーツ大学(大津市北比良 1204)
指導者	学生補助員(キッズリーダー):62名
実施形態	年中~年長:びわスポキッズプログラム 小学1年生~小学3年生:
費用	無料

### ○ 目的

滋賀県の子どもの運動能力の向上と、スポーツを好きになってもらうことを目的に 2009年度から開始した。

### ○ 内容

学生キッズリーダーが「バランス」、「リズム」、「タイミング」の3要素をキーワードに運動遊びを中心としたメニューを計画し、あいさつや、ルール説明、後片付けの時間を取り入れ「スマイル」、「自律・協調」、「フェアプレー」の3要素をキーワードにスポーツマインドを養う指導を学年別実施した。毎年度、びわスポキッズフェスティバルは3~4回滋賀県各地で開催している。

### ○ 結果

今回は、ゲストにリオデジャネイロオリンピック陸上競技 4×100R銀メダリストの飯塚翔太選手(ミズノ)をお招きし、キッズフェスティバルを開催した。また、特別に小学1~3年生には飯塚選手による陸上教室を実施した。

子どもたちは、飯塚選手の走りの速さを実感するとともに、速く走るコツを教わり、トップアスリートと触れ合う充実した時間を過ごしていた。参加した保護者からは、実施後アンケートの中で「親では出来ない指導をありがとうございます」「学生さんの元気な声と笑顔で、はじめドキドキの子どもも段々リラックスしていた」、「飯塚選手の本気の走りを見ることができて感動でした」「またオリンピック選手を呼んでください!」などのご意見をいただいた。また、アンケート回答者の99%から次回も参加したい、参加を検討したいとの回答を得た。



## 2.キッズフェスティバル様子



## 3. 陸上教室と全体写真



## 2016 年度 びわスポキッズフェスティバル実績

年度/回		開催日	場所	参加者 (名)	リーダー (名)
2016年度	第1回	9/3(土)	長浜市 神照運動公園	161	37
	第2回	10/8(土)	東近江市 布引グリーンスタジアム	243	49
	第3回	10/30(日)	大津市 びわこ成蹊スポーツ大学	230	62
	第4回	11/27(日)	草津市 三ツ池運動公園	雨天中止	雨天中止
合 計				634	148

以上



## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	びわスポキッズリーダー研修会・登録会
担当	山田 庸(スポーツ開発・支援センター委員 専任講師) 阪田 隼也(Liebe 代表) 中山 亮(スポーツ開発・支援センター事務課員)
実施期間	第1回 2016年4月21日(木) 第2回 2016年6月2日(木) 第3回 2017年2月27日(月)
対象者数	第1回約320名 第2回約50名 第3回11名
実施形態	講義および実技
費用	無料

### ○ 目的

びわスポキッズプログラムで指導にあたる学生キッズリーダーの募集と、指導スキルの向上を目的として実施した。

### ○ 内容

第1回、第2回の研修会・登録会は、学生キッズリーダーの募集と子どもを指導する上でのこころえについて、また、びわスポキッズプログラムの主旨やすばらしさについて動画やパワーポイントを使用し講義形式で研修会を実施した。講師は山田庸専任講師と、中山亮スポーツ開発・支援センター事務課員が担当した。

第3回研修会は、次年度に向けてキッズプログラムを主導するメインリーダーの育成に関する内容の研修会を実施した。講師は幼児体育指導専門業者の Liebe 代表阪田隼也氏を招き、天津市立真野幼稚園で実技および講義形式で実施した。

### ○ 結果と課題

研修会・登録会は約350名の学生が参加し、キッズプログラムについての内容の理解と、子どもを指導する上での心得を学ぶ場とし

て有効な研修会であった。

第3回メインリーダーに向けての研修会は、次年度のメインリーダー候補生を集めて天津市立真野幼稚園の遊戯室をお借りして開催した。講師の Liebe 代表阪田氏は本学3期卒業生で、普段は京都、大阪、滋賀などの幼稚園・保育園・こども園に出向き指導を行っている。当日は従業員の藤本氏も同伴で研修を担当いただいた。また、天津市幼児政策課から担当者1名が Liebe 指導を見学に来られた。研修方法としては、実技研修として園児69名を3グループに分け、2回(1回30分)を Liebe が指導しそれを学生が見学、1回を学生が指導し Liebe が見学する形式で行った。その後、休憩をはさみ、指導についてのアドバイスや感想等を述べあう時間を学生、Liebe、幼稚園教諭、天津市幼児政策課担当者を交えて行った。また、その後、幼児体育専門家の観点から後パワーポイントを使用した講義を Liebe 阪田氏が行った。こちらも学生キッズリーダーの指導スキル向上に大変有効な研修会となった。



① 第1回 第2回研修会



② 第3回研修会



以上

# 公開講座 事業報告



ホノルルマラソンを目指そう!!

2016びわスポランニング教室

びわスポ水中ウォーキング教室

びわスポ水泳教室

びわスポキッズ水泳教室

びわスポアクアビクス教室

びわスポ自然体験スポーツフェスティバル



## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	第9回ホノルルマラソンを目指そう!! 2016 びわスポランニング教室
担当	藤松 典子准教授
実施日時	2016年6月～11月 土曜日 全10回 9:30～12:30
参加者数	24名
場所	大学及び大学周辺
実施形態	公開講座
受講料	20,000円(保険料・Tシャツ他含む)

### ○報告○

#### 目的

地域に開かれた大学の事業の1つとしての公開講座。今年度で9回目となる。講座の目的は、①地域住民の生活に運動習慣を定着させるため。②運動習慣を定着させることによって、生活習慣の予防。③体力の向上、健康づくり。④仲間づくり、情報交換。⑤マラソンを目指すことによる各種知識と、ランニング技能の習得を目的として開催した。

#### 内容

講座の内容は表1に示したとおり、講義と実技を実施した。

#### 結果及び考察

参加者の約半数が、リピーターの参加者で半数が初心者であった。リピーターの方々は、講座期間中に積極的にマラソンの大会に参加した。初心者の方では、これまで5kmも走ったことがない方もおられゆつくりと各自のペースでジョギングから始めた。回を重ねるごとに走行距離は伸びていった。ホノルルマラソンには講座から初心者3名、経験者8名が参加した。今年度の参加率を図1に示した。全体を通しての参加率は $83.3 \pm 6.3\%$ であった。同じ目的で参加しているため、情報交換やコミュニケーションも

取りやすく仲間意識が芽生えやすいと考えられる。

第11回の「長い距離を走る」では、これまで長い距離を走った事のなかった参加者が、約19km走ることができた。1人では走れないが、仲間がいると長い距離も走れることが分り、仲間づくりが重要である。

#### 課題

参加者は現在、生活に運動習慣を取り入れることができた。この運動習慣を定着させ、継続的に実施していくことが今後の課題である。そのためのサポート体制の整備が必要だと思われる。

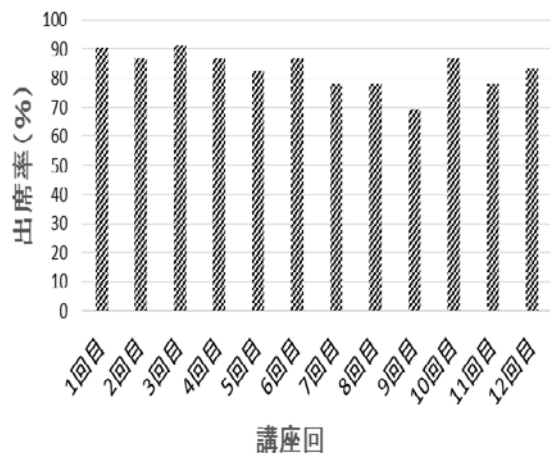


図1 各回の出席率

表 1. 講座内容

回	月 日	時 間	内 容	担当者	講座内容
1	6月4日(土)	9:00 ~ 12:30	提供講義 ランニングシューズの基 本・ジョギング	(株)ミノ 藤松 典子	講義・実技
2	6月18日(土)	9:30 ~ 12:30	マラソンの生理学・ジョギング	禰屋 光男 藤松 典子	講義・実技
3	7月2日(土)	9:30 ~ 12:30	筋カトレーニング ランニングペースの実感	江見 亮輔 藤松 典子	筋トレ・実技
4	7月23日(土)	9:30 ~ 12:30	マラソン完走のための練習方法と実 際	渋谷 俊浩	講義・実技
5	8月27日(土)	9:30 ~ 12:30	長い距離を走る	渋谷 俊浩	講義・実技
6	9月3日(土)	9:30 ~ 12:30	マラソンのための栄養学・ 筋カトレーニング	武田 哲子 江見 亮輔	講義・実技
7	9月17日(土)	9:30 ~ 12:30	ジョギング・マラソンのためのピラテ イス	藤松 典子	実技
8	10月8日(土)	9:30 ~ 12:30	マラソンのコンディショニング	佃 文子	演習
9	10月22日(土)	9:30 ~ 12:30	筋カトレーニング	江見 亮輔	実技
10	11月5日(土)	9:30 ~ 12:30	レースペースで走る	渋谷 俊浩	実技
11	11月26日(土)	9:30 ~ 12:30	長い時間ゆっくり走る	藤松 典子	実技
12	12月3日(土)	9:30 ~ 12:30	ホノルルマラソンのための栄養・諸 連絡	武田 哲子 藤松 典子	講義・実技

## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名 びわスポ水中ウォーキング教室 前期・後期  
担当 波多 遥（スポーツ開発・支援センター事務課員）  
実施日時 前期:2016年 5月6日～7月8日  
後期:2016年 10月21日～1月13日  
毎回木曜日 全10回 12:30～13:30  
参加者 前期:22名  
後期:21名  
場所 アクアセンター  
実施形態 公開講座  
受講料 8,000円（保険料含む）  
キーワード 水中運動 粘性抵抗 健康

### ○報告○

#### ○目的

本公開講座は、地域貢献を一つの目的とし、地域住民が健やかに生活を送るための健康維持・増進プログラムとして「水中ウォーキング」を提供する。

#### ○内容

2009年に開始して以来、2015年度で7年目の実施となった。参加者の中には継続して参加している人も少なくない。本講座では「股関節周辺の可動域と動き」をポイントとし、いつまでも元気に自分の足で歩くことができるよう、様々な動きを取り入れた歩行プログラムを提供している。講座を受講することで、参加者が自主的に自身の健康や体力に配慮し、継続して運動を実践する意欲を持っていただくことができたと考えられる。また、参加者の多くが本講座を社会的コミュニティの場として捉え、仲間と良好なコミュニケーションを図り、身体だけでなく精神的・社会的な健康を獲得できていることも伺えた。講座開始から4週目に開催した懇親会もそうした関係を促進したと考えられる。本講座

の参加者はリピーターが多いため、今後は広報活動などを工夫し、多くの新規参加者の募集を目指すことが望まれる。

#### ○結果及び考察

2009年に開始して以来、2016年度で8年目の実施となった。参加者の中には長年継続して参加している人も少なくない。本講座では「股関節周辺の可動域と動き」をポイントとし、いつまでも元気に自分の足で歩くことができるよう、様々な動きを取り入れた歩行プログラムを提供している。講座を受講することで、参加者が自主的に自身の健康や体力に配慮し、継続して運動を実践する意欲を持っていただくことができたと考えられる。また、参加者の多くが本講座を社会的コミュニティの場として捉え、仲間と良好なコミュニケーションを図り、身体だけでなく精神的・社会的な健康を獲得できていることも伺えた。



## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	びわスポ水泳教室
担当	波多 遥（スポーツ開発・支援センター事務課員）
実施日時	前期： 2016 年 5 月 10,17,24,31 日 6 月 7,14,21,28 日 後期： 2016 年 10 月 25 日 11 月 1,15,22,29 日 12 月 6,13 日 毎回火曜日 全 8 回 初・中級クラス 10:00～10:45 上級クラス 10:50～12:00
対象者数	前期： 初・中級 7 名 上級 4 名 計 11 名 後期： 初・中級 8 名 上級 2 名 計 10 名
場 所	アクアセンター
実施形態	公開講座
費 用	8,000 円（保険料含む）

### ○講座報告○

#### ○ 目的

本講座の開講目的は、2024 年滋賀国体に向けた県民のスポーツへの興味・関心を高めることと、地域住民の健康維持増進を図ることを目的とした。

#### ○ 内容

本講座は水深 1.0m、水温約 32℃のプールで行った。各講座時間は初・中級者は 45 分～50 分、上級者は 60 分とした。本講座における受講者の平均年齢が前期 66.3±6.0 歳、後期 63.4±5.2 歳であった。

講座の主なプログラム内容としては表 1 に示した。本講座のコンセプトは、「楽しく継続できること」とし、受講者に無理のないよう声をかけ、陽気な雰囲気の中講座を進めた。さらには、自分自身の泳ぐ姿を見ていただき、理解していただくため、第 3 回目と第 7 回目には泳法撮影(水中・水上)を行った。

#### ○ 結果及び考察

後期の教室において全 8 回の講座につい

表1. 水泳教室における講座内容

	初・中級	上級
第1回	泳力チェック・基本姿勢	泳力チェック・基本姿勢
第2回	呼吸法・基本姿勢	
第3回	泳法撮影 ①	
第4回	クロール練習	クロール・背泳ぎ
第5回	クロール・背泳練習	背泳ぎ・平泳ぎ練習
第6回	クロール・背泳練習	平泳ぎ・バタフライ練習
第7回	泳法撮影 ②	
第8回	クロール・背泳・平泳ぎ練習	4泳法練習

て受講者にアンケートを行った。その中で、受講者全員に受講前後の泳力を点数化し、評価した。その結果、受講前は 2.33 点であったが、受講後は 3.33 点と平均 25m 程度であった泳力が全 8 回(2 か月)で 50m までは満たないが 25m は完泳できるようになった。また、受講前後の水泳に対する意識については表 2 に、プログラム内容については図 2 に示した。

この結果からプログラム内容の活動量や



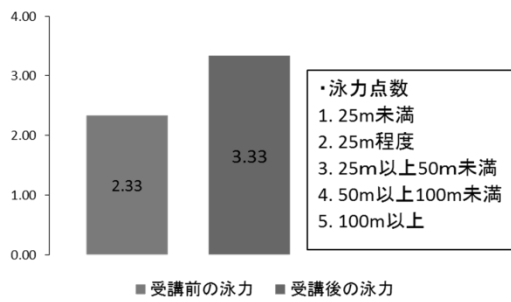


図1. 受講前後の泳力

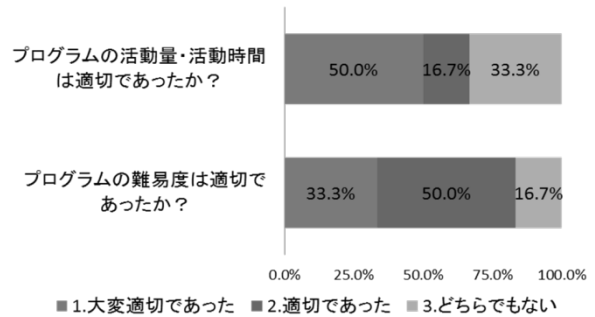


図2. プログラム内容におけるアンケート結果

難易度は適切であったことが推察できる。そして、水泳に対する意識も受講前のネガティブな意識から、ポジティブな意識に変化していることが伺える。このようにポジティブな意識になった要因としては、本講座の「楽しく継続できること」と、適切な活動量や、難易度であったからこそ、受講者の方々が積極的に取り組めるようになったためであろうと考える。

また、受講中の受講者の声から、「自分の泳ぎを知ると、上手な人の泳ぎをもっと知りたくなる。」「オリンピックの水泳で興奮した。」等があった。

このことから、本講座の目的であったスポーツへの興味・関心を高めることと、地域住民の健康維持増進を図ることは十分に貢献できたであろう。

表2. 水泳教室受講前後の水泳に対する変化

受講前	受講後
しんどい全身運動	年齢に応じた運動ができる楽しいスポーツ
1回目浮くことから始め	50m泳げるようになった
平泳ぎが出来なかった	出来るようになった(手足の使い方が分かった)
他人と比較や、足手まといにならないよう等気にして、気持ち重かった	メンバーも先生も良い方で、無理なく、気負わないで泳げて楽しかった。自分のペースを保てた。
水泳はしんどい	しっかりと息継ぎできれば楽に泳げる

## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	びわスポキッズ水泳教室
担当	波多 遥（スポーツ開発・支援センター事務課員）
実施日時	前期:2016年 4月 27日 5月 11,25日 6月 1,15,22日 7月 6,13日 後期:2016年 10月 12,26日 11月 9,30日 12月 15,22日 2017年 1月 11,25日 毎回水曜日 全8回 ①14:00～15:00 ②15:00～16:00
参加対象	4歳(年中)・5歳(年長)
参加者数	前期:①15名 ②16名 計31名 後期:①10名 ②12名 計22名
場 所	アクアセンター
実施形態	公開講座
受講料	5,000円（保険料含む）

### ○報 告○

#### ○目的

本講座の開講目的は、2024年滋賀国体に向けた県民のスポーツへの興味・関心を高めることと、地域の子どもたちへ水で遊ぶ楽しさを体験してもらい、子どもたちが泳げるようになることで、水泳というスポーツへの興味関心を向上してもらうために開講した。

素である「遊ぶ」「楽しむ」「挑戦」の3つをコンセプトとしてプログラム内容を実施した。(表1)そして毎回講座の最初に行う水慣れとして、水泳(水中動作)に重要な内容を実施した。(表2)

#### ○内容

本講座は前期・後期共に各時間の定員を15名とし、地域の幼児(4歳～6歳)を対象とし、1時間の水泳教室を行った。

場所は、本学アクアセンター2コースプール(水温約32.0℃)を利用し、水深0.6mに設定し、幼児でも安心して水の中で遊ぶことができる環境で行った。また、指導補助として学生の補助コーチが3～4名入水した。

そして、幼児水泳教室として、重要な要

表1. キッズ水泳教室における講座内容

第1回	水慣れ、泳力チェック
第2回	水中あそび
第3回	飛びつき、伏し浮き、バタ足①
第4回	飛びつき、伏し浮き、バタ足②
第5回	飛びつき、伏し浮き、バタ足②
第6回	背面浮き、バタ足、 クロールチャレンジ①
第7回	背面浮き、バタ足、 クロールチャレンジ②
第8回	背面キック、バタ足、 クロールチャレンジ③

表2. キッズ水泳教室における水慣れプログラム

1,	バブリング
2,	ボビング
3,	水中かけっこ (動物モノマネ)
4,	水没 (宝探し)

また表 1 の内容の途中には、手遊びや、歌を歌うなどを行い、子どもたちの集中力が持続できるよう工夫した。

### ○結果及び考察

全 8 回の講座の中で最初は水に顔をつけることができなかつた子どもが、最後の講座では 3m 程度バタ足で泳げるようにまで成長した。中には最初は 2~3m 泳げていた子どもはクロールで 10m 程度泳げるようにまで成長した。

後期受講者の保護者へアンケートを行ったところ参加者 22 名中 9 名の回答があり以下のような結果が得られた。

①参加した目的は達成できましたか. という回答に「とてもできた」が 55.6%「できた」が 44.4%であったことから, 回答者

これらの結果から, 受講した多くの子どもたちは, 泳ぐ(水中で遊ぶ)ことが好意的な行動になったことが推察できる.

表3. 講座受講前後の子どもの変化

受講前	受講後
お風呂のシャワーが嫌い	一人で頭が洗えるようになった
あまり水が好きでなかった	だんだん水泳が好きになっていく
レッスンを嫌いだっ	たのしく受講できた
水に入ることに消極的	積極的に自分から入るようになった
水が怖くて顔に水がかかるとも嫌がっていた	お風呂で顔付けれるで!と水とお友達になれた

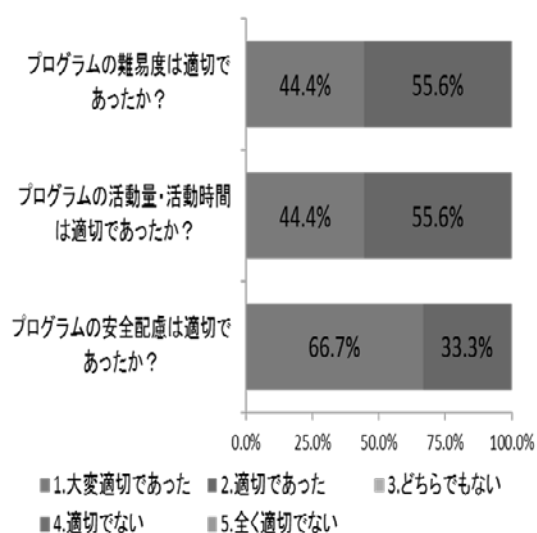


図1. プログラムに関するアンケート結果

の全員が目的達成できたと回答した. ②今後も参加したいか. という回答では全員が「参加したい」という回答であった. また, プログラムの内容についての回答は図 1. に示した. この結果から, プログラム内容に関して, 安全面・活動量・難易度に関しては受講した子どもたちにとって適切な内容なものであったことが示唆できる. さらに, 本講座を受講前後による子どもたちの変化についても回答がいくつかあった. (表 3.)

そのため, 水の中で遊ぶことが楽しくなり, バタ足など泳ぐ事に対しても積極的なチャレンジ精神が芽生え, 水泳動作の習得につながったと考えられる.

幼児期(ゴールデンエイジ)はスキューモンの発育発達曲線では, 神経系の発達が著しいことが分かっている. よって, この時期に水泳技能の基礎を習得することは, 生涯, 水泳は, 得意種目の一つとなるであろう. これは, 本講座の目的の一つである, 子どもたちが泳げるようになることで, 水泳というスポーツへの興味関心を持つきっかけとなるであろう.



## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名 びわスポアクアビクス教室  
 担当 波多 遥（スポーツ開発・支援センター事務課員）  
 実施日時 前期:2016年 5月 19日 6月 2,16,30日 7月 7,14日  
           毎回木曜日 全6回  
           13:00～14:00  
 参加者 19名  
 場 所 アクアセンター  
 実施形態 公開講座  
 受講料 5,000円（保険料含む）  
 キーワード 水中運動 粘性抵抗 健康

○報 告○

### ○目的

本講座の開講目的は、2024年滋賀国体に向けた県民のスポーツへの興味・関心を高めることと、地域住民の健康維持増進を図ることを目的とした。また楽しく・継続できるスポーツ(運動)としてアクアビクス教室を開講した。

において、股関節・肩甲骨周りの痛みを改善してほしいなどの意見が多くあったため、ウォーミングアップに股関節・肩甲骨周りの運動を多く行った。

### ○内容

本講座は、水深 1.0m、水温約 32℃のプールで行った。

主な内容は表 1 に示し、受講者の体力に合わすため、講座中は受講者の様子を随時伺いながらプログラムの内容を進めていった。また、アクアビクス(水中運動)の特徴として、水の粘性抵抗と浮力があるため、受講者各自にあった負荷で運動が行えるため、水の扱い方についても説明をし、無理のな

本講座における受講者の平均年齢が 66.5±4.3 歳であり、受講前のアンケートに

表 1. 全 6 回のプログラム概要

第1回	水中運動（歩行・脚と腕の連動）及びリズム練習①
第2回	水中運動（歩行・脚と腕の連動）及びリズム練習②
第3回	基礎水中運動及びリズム運動②
第4回	基礎水中運動及びリズム運動②
第5回	音楽に合わせてながら水中サーキット①（ジャンプ・筋コンデジショニング）
第6回	音楽に合わせてながら水中サーキット②（ジャンプ・筋コンデジショニング）

い範囲で気持ちよく受講できる内容とした。

### ○結果及び考察

本講座は、楽しく・継続的にできるスポーツとしてアクアビクス教室を開講した。その結果として、参加者19名のうち8名が皆勤、1回欠席が8名と出席率は大変高く、毎回の講座は大変盛り上がり、笑顔や笑い声が絶えない講座となった。

参加者の方からは、以下のような感想が寄せられた。

#### ○良かった点○

- ・1回受講すると3日間ほど体重が減る
- ・夜よく眠れ、翌朝の目覚めが良い
- ・肩の可動域が広がった
- ・腰の痛みが少し改善した
- ・しっかり汗かけた
- ・なんだか明るい気持ちになった

#### ○改善してほしい点○

- ・回数が少ない
- ・年間を通して行ってほしい
- ・様々なスポーツの講座を開いてほしい

これらの感想・意見から、本講座を受講したことによって、心身共に何らかの変化があった受講者が多くいたことが伺える。また、受講者がより多くの受講を望んでいることから、運動や健康に対する意識変化や、スポーツに対する興味関心が高まっていることが伺える。よって本講座の目的であった、楽しく・継続的にできるスポーツ(運動)の選択肢の一つとして、アクアビクス(水中運動)が増えたであろう。そして、受講者自らの心身に何らかの影響があったことから、地域住民のスポーツに対する興味関心の向上にも貢献できたと考える。さらには、アクアビクスの特徴として、音楽のリズムに合わせて水中運動を行うため、陸上での単純な身体運

動よりも複雑な運動を強いられる。そのため、「脳」の活動が活発になる。これによって、健康寿命の向上にも貢献できているであろう。

## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	びわスポ自然体験スポーツフェスティバル
担当	中山 亮(スポーツ開発・支援センター事務課員)
実施日時	2016年7月10日(日) 10:00~12:45
天候	曇り時々晴れ 気温:27度前後
参加対象	小学3年生~6年生 参加者数67名 ※申込者数74名
場所	びわ湖バレイ 〒520-0514 滋賀県大津市木戸 1547-1
指導者	学生補助員(キッズリーダー):19名
実施形態	実技(アイスブレイキング, 野外ゲーム, ウォークラリー)
費用	無料 ※ロープウェイ料金 大人800円, 小学生400円, 幼児200円

### ○ 目的

自然の中での各種体験を通して、子どもたちが自然のすばらしさと、野外スポーツの楽しさを感じることを目的として開催した。

### ○ 内容

本フェスティバルは、恵まれた比良山系の自然を活かした本学初の公開講座であり、比良山系打見山山頂のびわ湖バレイで開催した。計画段階からびわ湖バレイ(株)には多大なご協力をいただき、当日はロープウェイ料金の割引と、会場となるスキー場コースの場の提供をいただいた。

実施内容として、小学3年生と4-6年生の2グループに分け、難易度に合わせた2コースでウォークラリーを行い、その中でアイスブレイクゲームや野外ゲームを実施した。

### ○ 結果

子どもたちはウォークラリーと各種野外ゲームをとおして、コミュニケーションを深め合い、自然体験を活かした野外スポーツを楽しんでいた。前日までの雨がウソのように晴れた当日ではあったが、山にガス(雲)がかかり、今回のフェスティバルの目玉でもある、山頂からの琵琶湖眺望が叶わなかったこと

が残念であった。

当日、指導にあたった19名の内18名の学生が、本学野外スポーツコースに所属しており、専門コースでの日ごろの学びを活かし、フェスティバル内容の立案、子どもたちへの指導まで行い、学生にとっても良い学びの場となった。

参加した保護者への事後アンケートでは、「次の機会に、もう一度参加したいですか?」との問いに、90%以上「必ず参加をしたい」、「参加を検討したい」との回答を得た。

びわ湖バレイ山頂 7月10日

### びわスポ自然体験スポーツフェスティバル

びわ湖を一望できる比良山系の最高のロケーションで、自然と触れ合い、野外スポーツの楽しさを知ってもらえるイベントです。夏の山頂はとっても涼しく、運動するのが気持ちいいです。是非ご参加下さい。

◎ 参加費 無料  
 ◎ 駐車場 1台500円  
 ◎ 参加費 往復(幼児200円, 小学生400円, 大人800円)

日 2016年7月10日(日)  
 9:00(受付)~12:30(終了)

場 びわ湖バレイ山頂、グレンデ  
 対象 小学3年生~6年生(8歳~12歳) ※山頂への大人付き添い必要  
 定員 3~4年生 30名程度 5~6年生 30名程度  
 内容 運動しやすい服装、運動靴、タオル、飲み物  
 主催 びわこ成蹊スポーツ大学学生

2016年7月  
 9:00 受付開始(ロープウェイ乗り場前)  
 10:00 開会式(山頂)  
 10:15 アイスブレイキング  
 10:45 学年別トレーニング(無料道具体験(90分程度))  
 \*トレーニング途中の各ポイントで野外ゲームを実施  
 \*びわ湖バレイ産の無料道具体験 等  
 12:15 閉会式  
 12:30 解散(山頂)

(主催) びわこ成蹊スポーツ大学 スポーツ開発・支援センター  
 (協賛) びわ湖バレイ株式会社  
 (後援) 大津市・大津市教育委員会

申込みは、  
 要領へ▶▶



## 2 自然体験スポーツフェスティバル様子



スポーツ開発・支援センター  
**共同事業**



## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	長浜市・びわこ成蹊スポーツ大学連携事業ジュニアアスリート育成プログラム 長浜ジュニアアスリートトレーニング ～挑戦する事が夢への第1歩～
担当 (専門分野/ 専門競技)	柴田俊和 教授(体育科教育学, スポーツ運動学, 器械運動・体操競技学/ 器械体操) 北村哲 専任講師(コーチング, ゲームパフォーマンス分析, トレーニング/ テニス) 山田庸 専任講師(コーチング学, 測定評価学/ サッカー) 藤林献明 専任講師(コーチング学, トレーニング学, 実践研究/ 陸上競技) 仲宗根森敦 専任講師(スポーツ運動学, 器械運動, 体操競技/ 器械体操) 中山 亮 スポーツ開発・支援センター事務課員
実施期間	①2016年6月29日(水), ②7月13日(水), ③7月27日(水) ④8月17日(水), ⑤8月24日(水), ⑥9月28日(水), ⑦10月26日(水) ⑧11月16日(水), ⑨12月21日(水), ⑩2017年1月25日(水)
対象者数	長浜市小学3年生, 4年生 34名
場所	長浜市民体育館 アリーナ
実施形態	実技講座
費用	10回 2,000円(保険料含)

### ○ 目的

長浜の地から、日本の次世代を担うアスリートを輩出すべく、また長浜市のスポーツレベルの底上げを目的として「長浜ジュニアアスリートトレーニング」を小学3、4年生対象に実施した。長浜ジュニアアスリートトレーニングは、野球・バレー・バスケット・水泳・サッカー等あらゆるスポーツに繋がる運動適応能力の向上と強化を目的として実施した。

### ○ 内容

全10回の教室開催の内、第1回目(初回)と第10回目(最終回)に本学で作成した運動適応能力の測定テストを実施した。テストの中では①ダッシュ能力、②色々な方向に動き回る能力、③高く跳ぶ能力、④遠くに跳ぶ能力、⑤素早く移動する能力、⑥投げる能力に測定項目に分け結果数値を比較した。第2回目～9回目の教室では、本学教員5名が、各々教室を受け持ち、専門分野の知見を活かし、びわ

こ成蹊スポーツ大学監修の運動適応能力向上プログラム(調整力・敏捷性・バランス能力等の向上プログラム)を実施した。

### ○ 結果と課題

初回と最終回の測定結果として、1名を除きほぼ全ての者に数値の向上がみられた。特に、片足での測定の数値が向上しており、この要因は、測定テスト内容が片足で身をさばくメニューが多かったことがあげられる。各担当教員からは、「前にしか走れない子どもが多く、横、後ろに走るプログラムを取り入れた」、「手で身体を支えることができなかった」、「リズム運動が苦手な子どもが多く、多様なリズムのプログラムを取り入れた」などの意見があげられた。



長浜市 × びわスポ ジュニア・アスリートトレーニング体力テスト



赤マス = 前回より良い  
青マス = 前回より悪い

名前： \_\_\_\_\_

1. ダッシュ能力



説明

前方向への全力疾走と、左右方向へのサイドスキップを20m行い、そのタイムを計測します。  
サイドスキップの時は、足が前や横でクロスしないように注意してください。

	前回比
前方向： <input type="text" value="3.98"/> 秒	<input type="text" value="+ 0.11"/>
横方向： <input type="text" value="6.11"/> 秒	<input type="text" value="+ 0.26"/>

3. 高く跳ぶ能力



説明

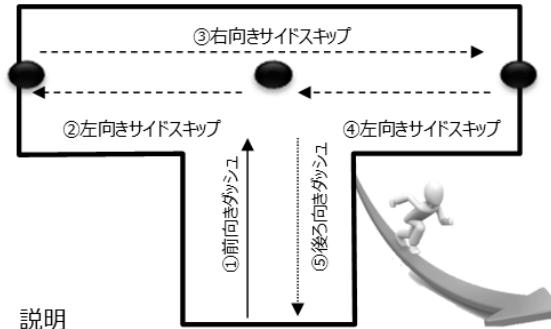
①両足で高く跳ぶジャンプと片足で高く跳ぶジャンプ（左右）を行い、跳んだ高さを自動的に計測します。  
②次に、つま先での連続6回ジャンプを両足、右足、左足で行います。このときは、体がボールになったように、できるだけ短い時間で高く跳びあがって下さい。

	垂直跳	前回比
両足：	<input type="text" value="32.00"/> m	<input type="text" value="+ 0.11"/>
片足：	<input type="text" value="15.90"/> m	<input type="text" value="+ 4.30"/>

	RSI	高さ	時間	前回比
両足：	<input type="text" value="1.17"/>	<input type="text" value="23.00"/>	<input type="text" value="0.180"/>	<input type="text" value="+ 0.18"/>
片足：	<input type="text" value="0.40"/>	<input type="text" value="10.10"/>	<input type="text" value="0.253"/>	<input type="text" value="+ 0.01"/>

2. 色々な方向に動き回る能力



説明

T字型の走路を最初は①前方向への全力疾走を行い、最初のコーンを右手でタッチします。そして、②右方向へのサイドスキップを行い、次のコーンにタッチ、さらに③左方向へのサイドスキップで反対側のコーンまで移動してタッチして、④右方向サイドスキップで1つ目のコーンをタッチしたら、後ろダッシュでスタート位置に戻って下さい。  
コーンに必ず手でタッチすること、再度スキップの時に足がクロスしないように注意してください。後ろ向きダッシュの時は転ばないでね！

合計時間：	<input type="text" value="7.67"/> 秒	前回比：	<input type="text" value="- 0.38"/>
-------	-------------------------------------	------	-------------------------------------

4. 遠くに跳ぶ能力



説明

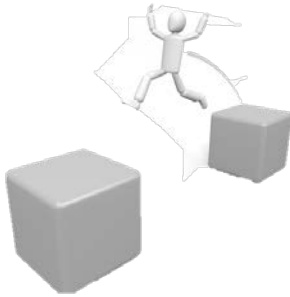
①マットの上で、両足と片足で前に遠く跳ぶジャンプと、片足で横に遠く跳ぶジャンプ（左右）を行い、跳んだ距離をメジャーで計測します。  
着地の時に足を捻ったり、尻もちをつかないように注意してください。

	前（立幅跳）	前回比
両足前：	<input type="text" value="1.65"/> m	<input type="text" value="+ 0.03"/>
片足前：	<input type="text" value="1.16"/> m	<input type="text" value="+ 0.01"/>
片足横：	<input type="text" value="1.27"/> m	<input type="text" value="+ 0.09"/>

グループ	1
------	---

氏名	
----	--

### 5. 素早く移動する能力



#### 説明

- ① 台から台に飛び移る動作を行います。台から跳び下り後に、跳びあがる時に、出来るだけ短い時間で遠くまで跳ぶことを目指してください。
- ② 次に、線を横つ跳びに跳び越えて、すぐさま元の位置に戻るジャンプを行います。この時も、出来るだけ短時間で、最初にいた位置よりも反対側に遠く跳んでいけるように行ってください。

	RLJI	距離	時間	前回比
その場 :	6.57	1.80	0.274	+ 2.34
助走付 :	11.63	2.14	0.184	+ 4.35
横移動 :	2.87	1.50	0.522	+ 2.87

### 6. 投げる能力

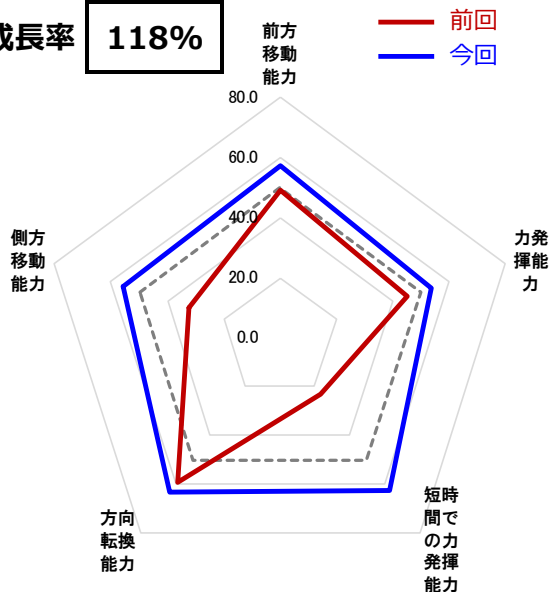


#### 説明

投げる能力を評価します。

MEMO

成長率 **118%**



#### 【トレーニング効果】

全体的にバランス良く身体能力が向上しています。特に運動を短時間でを行う能力が向上しました。

#### 【課題】

方向転換能力

#### 【トレーニング課題】

素早いジャンプや前後左右への切り返し運動などを実施してみましょう。



スポーツ開発・支援センター  
**受託事業**

産官学連携事業  
受託事業





# 産官学連携事業



# 受託研究



## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	「Jリーグ」が主催する公式試合のスタジアム観戦者に関する調査
委託費	291,600 円(消費税および地方消費税込)
担当	吉田 政幸准教授
契約期間	2016年5月11日～ 2017年3月31日
委託元	公益社団法人 日本プロサッカーリーグ
実施形態	受託調査事業

### ○報告○

#### 目的

本調査は、2016年5月28日(土)に西京極スタジアムで横浜FCを迎えて開催されたJリーグ公式戦第15節に来場した観戦者を対象に、クラブ間の比較を通じてJリーグ全体のトレンドを把握するとともに、各クラブ(この場合京都サンガF.C.)の観戦者の特徴をつかむことを目的として実施した。

#### 内容

質問項目として、(1)人口動態的特性(性別、年齢、居住地、自由裁量所得、サッカー観戦歴、サポートチームの有無、サポート歴など)、(2)行動的特性(会場への所要時間、交通費、同行者数、同行者との関係、購入チケット種別、チケット入手経路、チケット情報の入手先、チケット購入過程の評価、リーグ情報の入手先、クラブ情報の入手先、観戦頻度など)、(3)心理的特性(観戦動機、社会心理的特性、クラブへの愛着、ソーシャルキャピタルなど)を設定した。

#### 方法および分析の視点

試合(14:00 キックオフ)が開始される前に、20人の調査員がスタンド内で495票の調査票を配布し、その場で489票を回収した(回収率 = 98.8%)。本調査の分析の視点を図1に示す。

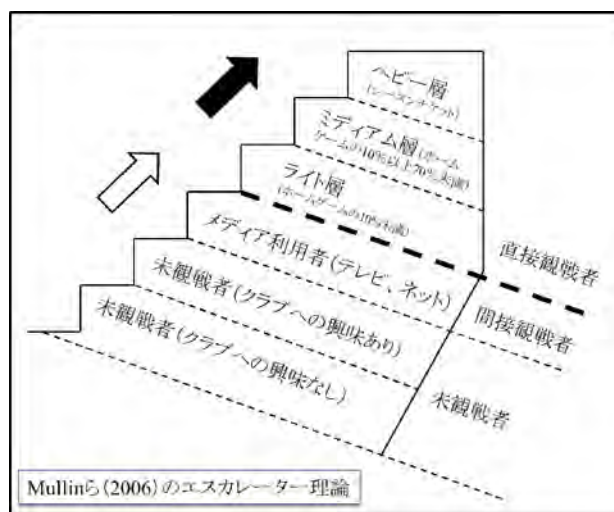


図1 本調査の分析の視点

Mullinら(2006)のエスカレーター理論によると、観戦者は(1)スタジアムにおいて試合を直接的に観戦する直接観戦者と(2)テレビやインターネットなどのメディアを通じて間接的に試合情報を入手する間接観戦者に分かれる。

スタジアム観戦者からデータを収集した今回の調査は、既に観戦に踏み切った直接観戦者を対象としており、ライト層はミディアム層へ、ミディアム層はヘビー層へと進ませるための方法を検討する目的で実施された。本報告書では、ライト層、ミディアム層、ヘビー層の3つのセグメント別に結果を集計することで、セグメント間の心理的、行動的特性における違いを明らかにし、下の階層から上の階層へと移行させるための実践的示唆を導出する。

## 結果及び考察

本調査の主な結果を表1に示す。

表1 本調査の主な結果（セグメント別の集計）

変数	ライト層	ミディアム層	ヘビー層
性別	約70%が男性	約70%が男性	約70%が男性
年齢	30代と40代に多く、逆に50歳以上は少ない。	20代、30代、40代にかけて多く、50歳以上になると少ない。	40代と50代に多い。
居住区	伏見区、上京区、下京区、南区からの来場者が最も多い。	伏見区と上京区からの来場者が多い。	伏見区と右京区からの来場者が多い。
チケット入手経路	招待券とその他(会社関係、小学校招待)	コンビニと当日券	シーズン券
試合情報の入手経路	友人、会社関係	クラブHP、クラブ携帯サイト、日程看板、サンガタイムズ、スケジュールカード、京スポなど	クラブHP、クラブ携帯サイト、メルマガ、日程看板、サンガタイムズ、スケジュールカード、クラブ公式ツイッター、京スポなど
ファンクラブ	ほとんどが非会員	会員は約60%	90%以上が会員
席種	SB自由席とホーム自由席	SM自由、サンガサポーター席、SB自由席に点在	サンガサポーター席
予定観戦回数(14試合)	0~2試合	3~13試合	全試合
試合前の過ごし方	飲食が大半	飲食が大半。また、約半数が試合前は選手のウォーミングアップを見ている。チアダンス、選手入場、マッチデープログラムについても、約25%の人たちが楽しんでいる。	飲食が大半。また、約半数が試合前は選手のウォーミングアップを見ている。応援仲間との交流に時間を費やす人も多い。フレンズスクウェアへの参加は5人に1人。
試合中の過ごし方	試合に夢中の人たちは3分の1。試合中に飲食を行っている人が半数以上。20%前後は、試合中も家族との時間を大切にしている。	半数以上が応援に夢中。20%前後は、試合中も家族との時間を大切にしている。	半数以上が応援に夢中。約10%の人たちが他会場の試合情報を確認する。
観戦動機	友人や家族から誘われて来場している。招待券の利用者も多い。	サンガ、京都、サッカーへの愛着。また、ヘビー層と異なり、クラブの成績やスケジュールに左右される。	サンガ、京都、サッカーへの愛着

前回の試合に来場した一番の理由	「友人・家族の誘い」, 「スケジュールの都合」, 「その他」	サンガへの愛着以外に、サッカーへの愛着やスケジュールの都合に影響される。	サンガへの愛着
サンガアイデンティティ	低い	高い	とても高い
勧誘行動	勧誘しない	勧誘に積極的。「よく誘う」, 「時々誘う」を合わせると50%以上	勧誘に消極的。「あまり誘わない」という人は38%に上り、「全く誘わない」と合わせると、50%を超える。
ファン同士のビジョンの共有	あまり共有していない	どちらともいえない	まずまず共有している
ファン同士の仲間意識	あまり形成されていない	少し形成されている	形成されている

### 結論

結論として、ライト層をメディアム層へと引き上げるためには外発的な理由で観戦を行う来場者を自立させる支援が有効であり、調査の結果から以下の条件を満たすことでライト層がメディアム層へと移り変わることが明らかとなった(図2)：

- 友人や会社でなく、自らクラブ HP や日程看板等で試合情報を得る
- 自分の意志でコンビニ、当日券を購入する
- SB 自由だけでなく SM 自由やサポーター一席を利用する
- 試合前は飲食以外の活動に参加する
- 試合中も飲食でなく応援に集中する
- 観戦理由がサンガへの愛着に加え、地元やサッカーへの愛着も形成する

また、メディアム層をヘビー層へと移行させるためには、サポーターのコミュニティ化を支援する必要があり、具体的には次に示す行動的特性と心理的特性を備えさせることが重要である(図2)：

- シーズン券を購入して、サポーター一席で観戦する
- 試合前にフレンズスクウェアを利用する

- (滞在時間が長い)
- 他のスケジュールよりもサンガの試合観戦を優先するだけの愛着を形成する
  - いつも会う応援仲間がいる
  - 他のサンガファンとビジョンの共有が生じ、仲間意識が形成される

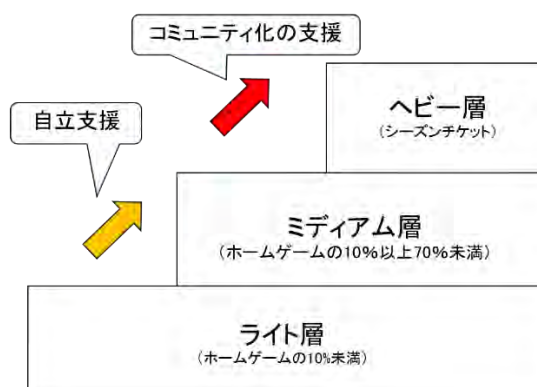


図2 本調査の結論





## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	「運動後の食欲変化に対する佐渡産コシヒカリ摂取の影響」
委託費	339,405 円(消費税および地方消費税込)
担当	武田 哲子 専任講師
契約期間	2016 年 5 月 1 日～ 2017 年 3 月 31 日
委託元	佐渡市
実施形態	受託調査事業

### ○報告○

#### 目的

耐老化性が高く、美味しさが長続きすると報告されている佐渡産コシヒカリを摂取することによる運動後の食欲への影響を、その他特A米およびパン摂取と比較することにより明らかにすること。

#### 内容

##### 1. 対象

実験は2016年10月～12月に行った。被験者はびわこ成蹊スポーツ大学に所属する運動習慣(週3日以上)のある男子学生9名とした。実験に先立ちびわこ成蹊スポーツ大学学術研究倫理専門委員会の承諾を受け、被験者に事前に研究内容について説明し、被験者として研究参加に同意した者を被験者とした。

##### 2. 測定項目

###### 1) 身体特性

身長は自己申告してもらい、体重はTANITA製BC-118Dを用いて測定した。

###### 2) 最大酸素摂取量

本試験に先立ち、本試験における運動強度の負荷を設定するために予備試験として自転車エルゴメータによる最大酸素摂取量( $\dot{V}O_{2max}$ )を測定した。最大酸素摂取量は、呼気ガス分析器(ミナト医科学製エアロモニタAE-310S)呼吸代謝モニタシステムにより測定した。

###### 3) 血糖値

血糖値の測定は、指先からの採血で行い、採取した微量の血液を自己血糖測定器(グルコカードGブラック、アークレイ株式会社)につけて測定を行った。血糖値測定は実験開始時、90分後、105分後、120分後および150分後の計5回測定した。

###### 4) 食欲

食欲調査は、Flintらの食欲調査に関する評価を日本語に訳して用い<sup>4)</sup>、「空腹感」、「満腹感」、「満足感」および「どのくらい摂取することができるのか」の4項目をvisual analogue scale(VAS)にて調査した。食欲調査は実験開始時、90分後、120分後および150分後の計4回測定した。

##### 3. 実験手順

実験日の流れを図1に示した。被験者は前日21時までには既定の夕食(カレー、白米、スープ春雨、オレンジジュース)を摂取してもらった。既定の夕食の栄養価は632kcal、タンパク質11.3g、脂質13.9g、炭水化物114.2gだった。夕食以降は実験開始まで水以外は摂取しないようにしてもらった。実験当日、被験者は朝9:00までに来室、既定の朝食(親子丼、白米、みそ汁、オレンジジュース)を摂取してもらった。朝食の栄養価は475kcal、タンパク質13.3g、脂質3.1g、炭水化物97.4g)を摂取した後、11時まで安静を保ち、その後運動試行の場合は75% $\dot{V}O_{2max}$ のペダリング運動、安静試行の場合はさらに安静を保ち、12:00より主食摂取

量の測定を行った。本実験では3種類の主食として、佐渡産コシヒカリ(米A), つや姫(米B), ロールパンを用意し、各種類に対して安静および運動条件の2試行、合計で6試行を行った。米Aおよび米Bは炊飯器により通常の炊飯を行い、約0.7%の塩分濃度で1個50gのおにぎりを複数作成した。またロールパンには必要に応じて自由に使用できるマーガリンを用意した。これらを食べたくなるまで食べてもらいその摂取量を測定した。

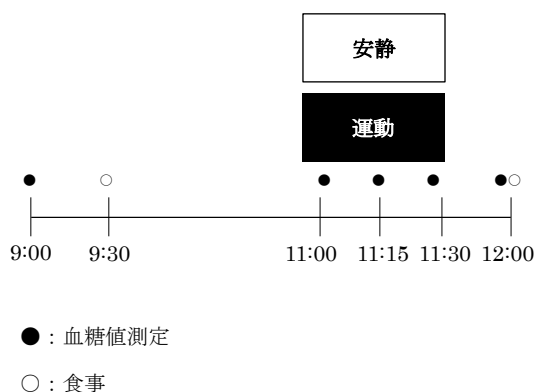


図1 実験手順

#### 4. 分析方法

データは平均値±標準偏差で示した。各項目の群間分析には、反復測定を用い対応ありの2要因分散分析を行った。また、交互作用が認められた場合に限り、単純主効果の検定を行った。有意水準は全ての項目において5%未満とした。統計解析にはSPSS Ver. 22.0を用いた。

### 結果および考察

#### 1. 対象者の身体特性

対象者の身体特性を表1に示した。

表1 対象者の身体特性

年齢	(歳)	21.8 ± 0.7
身長	(cm)	172.5 ± 3.2
体重	(kg)	64.0 ± 5.0
最大酸素摂取量	(ml/kg/min)	40.0 ± 3.0

#### 2. 食欲変化

実験開始時から終了時までの空腹感の変化を図2に示した。空腹感において、2要因分散分析の結果、有意な交互作用が認められたため、各要因の単純主効果を検討した。運動時において時間に関する有意な単純主効果が認められた。開始時と比較して90分後(p<0.01), 150分後(p<0.01)は有意な低値を示した。また90分後と比較して120分後は有意な高値を示した(p<0.01)。また、120分後に対して150分後は有意な高値を示した(p<0.01)。満腹感、満足感、どのくらい食べることができるのかについては実験開始と比較して、既定の朝食摂取後に有意な高値を示し、150分後まで継続した(図表なし)。満腹感、満足感、どのくらい食べることができるのかの調査においては運動の有無による差はみられなかった。一方で、図2に示したとおり空腹感では運動条件において時間経過による空腹感の抑制が認められたことから、先行研究同様に<sup>3)</sup>、本実験の運動条件によって空腹感の抑制が起こったと考えられる。

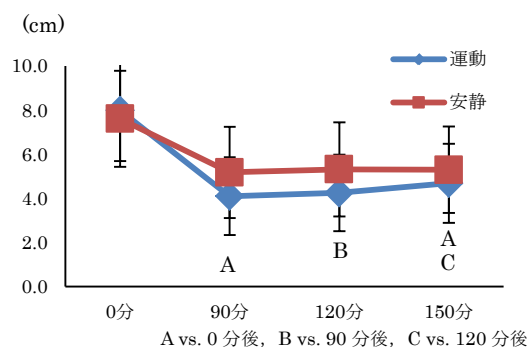


図2 空腹感

### 3. 血糖値

血糖値において2要因分散分析の結果、有意な交互作用が認められたため、各要因の単純主効果を検討した。運動時において開始時と比較して90分後( $p < 0.05$ )および150分後( $p < 0.01$ )は有意な高値を示した。また開始時と比較して105分後( $p < 0.001$ )および120分後( $p < 0.01$ )は有意な低値を示した。また90分後と比較して105分後( $p < 0.001$ )、120分後( $p < 0.001$ )、150分後( $p < 0.001$ )は有意な低値を示した。また、120分後に対して150分後( $p < 0.01$ )は有意な高値を示した。また安静時においては開始時と比較して105分後( $p < 0.05$ )、120分後( $p < 0.01$ )は有意な高値を示した。また90分後と比較して120分後( $p < 0.001$ )は有意な高値を示した。また、105分後と比較して120分後( $p < 0.001$ )は有意な高値を示した。また、120分後と比較して150分後( $p < 0.01$ )は有意な低値を示した。中強度程度の運動時には筋への糖の取り込みが亢進することが知られている<sup>5)</sup>。その結果、本実験の運動において血糖値の減少がみられ、運動後回復したものと考えられる。

### 4. 運動後の食事量

運動または安静後の各主食による総摂取エネルギー量の結果を図3に示した。2要因分散分析の結果、主食の種類および運動要因のどちらにおいても有意な主効果が認められなかった。運動による空腹感の抑制はみられたものの、実際の食事量に運動による差はみられなかったことから、実際の食事量が抑制されるほどの運動強度ではなかったことが考えられる。また、主食の種類による差も見られなかったことは、食事量に影響を受けるような食欲の変動がない場合、主食摂取量は米またはパンの違い、または米の種類の違いに大き

な影響は与えず、個人が食べられるエネルギー量が基準となり食事量が決定されることが示唆された。

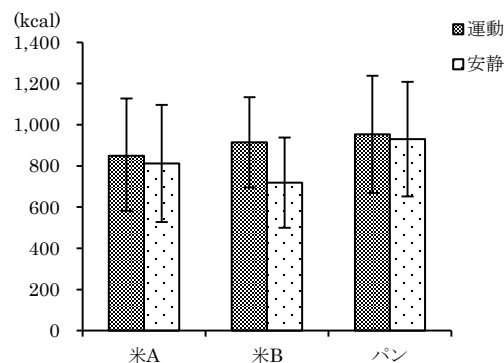


図3 エネルギー摂取量

### 5. まとめ

本研究では運動習慣のある男性を対象に運動後の食欲減少に対して、佐渡産コシヒカリを摂取することによる運動後の食事量の影響を、その他特A米およびパン摂取と比較することにより明らかにすることを目的とした。その結果以下の結論が得られた。

- 1) 運動習慣のある対象者において75%  $\dot{V}O_2\max$ のベダリング運動は空腹感を抑制するが、運動後30分時において安静時と比較して実際の主食摂取量に影響はみられない。
- 2) 上記条件において、主食の種類(米またはパン)の違いおよび米の種類(佐渡産コシヒカリまたはつや姫)の違いは摂取量に影響を与えず、エネルギー摂取量が食事量に影響を与えている可能性が示唆された。

### 課題

本研究ではいくつかの研究限界があげられる。第1に、運動条件において実施した運動強度が実際の食事量を減少させるほどに至らなかった点である。食欲調査において運動による空腹感の抑制はみられたものの、「疲れて食べたくない」というような疲労困憊状態で

はなく、また運動後食事までの 30 分の間に安静状態に近づいたことで、食事量に安静時との違いは認められなかった。今後はさらに高強度運動を行い、食事量に対する運動の影響およびその際に摂取する食品によって摂取量が異なるのかを検討する必要がある。第 2 に、本研究では事前の嗜好調査および食事調査を行っておらず、被験者が米またはパンのどちらを好むのかや、日常的にどちらを摂取しているのかを把握できていない。そのため、今回の被験者の嗜好や日常的な食事状況に偏りがあった可能性も考えられる。今後は事前に被験者の嗜好および食事調査を行い、それらに偏りがないことを確認した上で実験を行う必要がある。

## 文献

- 1) King JA, Miyashita M, Wasse LK, Stensel DJ. Influence of prolonged treadmill running on appetite, energy intake and circulating concentrations of acylated ghrelin. *Appetite*. 2010; **54**, 492-498.
- 2) Broom DR, Batterham RL, King JA, Stensel DJ. Influence of resistance and aerobic exercise on hunger, circulating levels of acylated ghrelin, and peptide yy in healthy males. *Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol*. 2009; **296**, R29-R35.
- 3) 上田真也, 吉川貴仁, 桂良寛, 臼井達矢, 藤本繁夫. 短時間・高強度の運動が消化管ホルモンの動態と食欲・エネルギーバランスに及ぼす影響. 第 25 回健康医科学研究助成論文集. 2010; 20-27.
- 4) Flint A, Raben A, Blundell JE, Astrup A. Reproducibility, power and validity of visual analoguescales in assessment of appetite

sensations in single testmeal studies. *Int J Obes Relat Metab Disord*. 2000; **24**: 38-48.

- 5) Goodyear, LJ., Hirshman, MF., Horton, ES. The glucose transport system in skeletal muscle. Effect of exercise and insulin, *Med Sport Sci*. 1992; **37**, 201-215.

# 委託事業



## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	平成28年度 障害者スポーツ推進事業「障害者スポーツボランティア育成事業」
委託費	279,968円(消費税および地方消費税込)
担当	河西 正博 専任講師
契約期間	2016年7月28日～ 2017年3月31日
委託元	滋賀県
実施形態	委託事業

### ○報告○

#### 目的

本事業は、平成27年度に引き続き、総合型地域スポーツクラブを地域の核と位置付けて県内で障害者スポーツに取り組み、課題を整理する中で、障害者スポーツに関するクラブの運営体制やノウハウづくりについて検討することを目的とした。

上記の事業目的の中で、本学では県内7か所の総合型地域スポーツクラブに学生ボランティアを派遣し、ボランティア参加学生の報告から、障害者スポーツボランティア養成やコーディネイト、参加定着等に係る課題の抽出および提言を目的とした。

#### 活動内容

##### ①レインボークラブ

- 1)平成28年12月10日(土)  
13時～15時 於:甲賀市立宇川会館  
参加学生:2名
- 2)平成29年1月21日(土)  
13時～15時 於:甲賀市立宇川会館  
参加学生:2名

##### ②高月総合型スポーツクラブピース

- 1)平成28年11月20日(日)  
9時～11時 於:高月体育館  
参加学生:2名

- 2)平成28年12月18日(日)  
9時～11時 於:高月体育館  
参加学生:2名

##### ③TSC

- 1)平成29年1月19日(木)  
17時～18時 於:安曇小学校  
参加学生:1名
- 2)平成29年2月2日(木)  
17時～18時 於:安曇小学校  
参加学生:2名
- 3)平成29年2月23日(木)  
17時～18時 於:安曇小学校  
参加学生:2名

##### ④こうかさすけらぶ

- 1)平成29年3月3日(金)  
13時半～15時半  
於:甲賀中央公園体育館  
参加学生:2名

##### ⑤奥びわ湖スポーツクラブ

- 1)平成29年3月20日(月)  
13時半～15時 於:西浅井運動広場  
参加学生:3名



## ⑥ぼぼんた倶楽部

- 1) 平成 29 年 3 月 9 日(木)  
19 時～20 時 於:信楽学園体育館  
参加学生:1 名
- 2) 平成 29 年 3 月 10 日(金)  
15 時半～16 時半 於:信楽学園体育館  
参加学生:4 名
- 3) 平成 29 年 3 月 16 日(木)  
19 時～20 時 於:信楽学園体育館  
参加学生:5 名

## ⑦きのもと eye's

- 1) 平成 29 年 3 月 14 日(火)  
13 時～15 時  
於:木之本運動広場体育館  
参加学生:1 名

## 課題および提言

### ①活動内容・参加者の適切な把握

活動が始まる時にどのような活動をしているのか、私たちにどのようなことを求めているのか分からず入ったのではじめの 30 分くらいは監視をするだけでぼーっと立っているだけの時間でした。もう少し〇〇(クラブ名 \* 筆者修正)の事業がどのような取り組みをし、ボランティアのポジションを明確にしていただければ～(筆者中略)有意義な時間が過ごせたのではないかなと思いました。

---

初めに、どんな子どもたちがくるのか、どのようなことをするのかなど大まかに説明してくれ、行動しやすかった。

\* 学生の参加レポートを原文のまま引用

上記の学生の参加レポートにみられるように、どのような活動をするのか分からず戸惑った、参加者がどのような障害を持っているのかわからず、どのように接してよいのか分からなかったという意見が挙がっており、クラブ側からのボランティア活動に対する情報伝達が十分になされていない状態で事業が実施されている場面がみられた。

その一方で、2 つ目のコメントにみられるように、教室開始前に参加者の概況やボランティアの具体的な活動内容について丁寧な説明があり、充実した活動ができたという声もあり、ボランティア参加者のモチベーション向上や、より有意義な活動をするためには、自身が行う活動内容や事業の参加者がどのような人々であるのかを事前に周知しておくことが重要であると考えられる。

ボランティア参加者への情報伝達については、大きく分けて、①ボランティア募集時/②ボランティア参加時(当日)の 2 場面が想定される。

上記①に関して、学生のボランティア参加にあたり当方と受け入れ先クラブとの連絡調整が十分ではない場合があり、日時・会場・実施プログラムのみ連絡を受けて、ボランティアを募集したケースがみられた。また、②については冒頭で挙げたように、ボランティアに対する十分な説明がないままプログラムが開始され戸惑いを感じたというコメントが残されている。

障害者スポーツに関わるボランティアのみならず、ボランティア参加にあたっては、「誰の」「何を」支援するのかを理解した上で参加することが重要であり、ボランティア受け入れ側と募集側が密に連絡を取り、募集時や参加時等にボランティアに対して明確な

情報提供が必要であろう。

## ②どのような支援を行うのか

(バドミントンの指導に関して\*筆者補足)

今回は参加者にやってもらうような形で、私も打てる人は打てる人同士打ってもらって打てない人に対して球出しをしてほしいというように言われた。私自身このようなボランティアの参加は初めてで少し戸惑いました。～(筆者中略)ルールをわかっている方もいればわかっている方も中にはいて、どうやったら楽しんでもらえるのか考えるのが難しかった。

\*学生の参加レポートを原文のまま引用

上記の場面は、種目の具体的な指導場面での難しさが表明されているが、他の教室においては、ボランティアは種目の技術的な指導のみならず準備運動の模範や参加者の付き添い等、様々な役割を担っていた。

障害者スポーツボランティアと一言で言っても、その役割は多様であり、実際のスポーツ活動に関わらない場面においても、参加者の障害の状況によっては、移動支援やお手洗いの介助、行動支援が必要な参加者であれば見守り等、参加者の障害が多用であれば、ボランティアにはより臨機応変な対応が求められ、自分自身の役割が不明確なままでは不安を感じ、活動へのモチベーション低下につながっていくのではないだろうか。これらの点は、前述の「①活動内容・参加者の適切な把握」につながるものであるが、ボランティア受け入れ側は、それぞれの適性や関心、参加者の状況等によりボランティアの役割を明確化しておくことが求

められる。

笹川スポーツ財団(2013)の障害者スポーツ指導員に対する調査によれば、約20%の指導員が活動の問題点として「指導の不安」を挙げており、活動頻度が低い、もしくは活動していない指導員の回答割合がより高くなっている。指導の不安と一言でいってもその内容は様々であると考えられるが、自分自身の役割が事前に明確になっておらず、当日にその場で対応を求められ、不安や困難性を感じるようなケースも少なからず存在するのではないだろうか。実際には専門性を求められない活動であったとしても、事前の周知が不徹底なため、具体的な活動のイメージが持てずに、「自分には専門性がない」「どのように関わってよいのか分からない」と思ってしまう、活動そのものに参加できない、参加したとしても継続的な活動につながらないという状況に陥ってしまうものと考えられる。

有資格者が「指導の不安」を抱えているということは、無資格である、これから障害者スポーツに関わりたいと考えているボランティアに対してはより丁寧な対応が必要であり、活動が直接的なスポーツ指導なのか、スポーツ場面以外の支援なのか等を明確にし、事業において適材適所のボランティア配置をすることが必要であろう。

## ③「する」から「支える」へ

音楽を使った運動で、年齢など関係なく一緒に楽しく取り組めたので良かったです。

私も普通に楽しんで遊びました。みんなすごく元気で楽しそうで笑顔いっぱいの姿に私も楽しんでいました。

\* 学生の参加レポートを原文のまま引用

参加学生のコメントから、各事業において、ボランティアとして「支える」だけではなく、参加者とともに「する」経験が多くなされてことが見受けられ、この点は非常に有意義なものであると考えられる。

上述の「②どのような支援を行うのか」でも挙げたように、「障害者スポーツボランティア」に関しては専門性が必要である、また、関わり方がわからない等により、ボランティア参加率が上がらない状況である。このような状況のなかで、先ほど述べたように、「する」ことから入り、「支える」につなげていくことで、ボランティア活動の敷居が下がり、障害者スポーツの面白さや魅力を感じる中で、継続的な参加へとつながっていくのではないだろうか。

また、数名の参加学生が、特に言葉でのコミュニケーションが難しい参加者に対して、「最初はどのように接してよいのかわからなかったが、一緒に運動を楽しむうちに打ち解けることができた」というコメントをしていた。指導者や支援者として第三者的に関わったのでは、このような関係性を作ることは難しく、参加者とともにスポーツを「する」ことで相互理解が進んだものと考えられる。

障害者スポーツとは、障害者のみが行うものではなく、障害のない人々も楽しめるものであるといえよう。ボランティア受け入れ側がこのような理解のもとに、参加ボランティアに対して「する」機会を適切に設け、参加者と関わりその魅力を体感することで、障害者スポーツボランティアがより身近なものとなり、継続的な参加へとつながっていくのではないだろうか。

スポーツ開発・支援センター

# 自治体連携事業



指導者・学生派遣事業



## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	大津市運動部活動外部指導者(大学生)活用事業
担当	松井 茂孝
実施日時	2016年5月～3月
派遣者数	15名
場所	大津市内中学校
実施形態	大津市内中学校 運動部指導補助

### ○報告○

#### 目的

大津市内の中学校運動部活動は、学校において計画する教育活動で、より高い水準の技能や記録に挑戦する中で、運動の楽しさや喜びを味わい、豊かな学校生活を経験する活動であるとともに、体力の向上や健康の増進にも極めて効果的な活動である。

運動部活動の指導に関しては、専門的な指導ができる教員の不足や高齢化などが、従前に増して顕著な状況になっており、運動部活動の振興を図るうえで憂慮すべきことになっている。

これらの状況を踏まえ、運動部活動の充実のため、専門的競技経歴を持つ大学生を外部指導者として派遣し、競技力向上を図る。

#### 内容

市内中学校が希望する運動部に、びわこ成蹊スポーツ大学、成安造形大学、滋賀大学、立命館大学、龍谷大学の大学生で、以下の条件を満たす者を公募し、大津市教育委員会が決定し派遣する。

- ◇当該運動種目の現役選手又は当該競技経験がある者
- ◇教員免許取得予定者又はスポーツ指導者等をめざす者
- ◇年間30回程度指導できる者

#### 結果及び考察

大学生を活用してよかった点。  
生徒との年齢が近いことで、関係が良好。  
生徒が生き生きと活動できた。  
専門的な技術指導で技術が向上した。  
練習試合の審判ができた。

#### 課題

日程調整(大学生が忙しく、定期的に指導にいけなかった。)  
1名なので、複数配置できるよう事業の拡大を。  
4回生は、卒論、就職活動で忙しく後期はあまり参加できなかった。  
冬季は部活時間が短く、十分指導の時間がなかった。





スポーツ開発・支援センター  
**地域貢献事業**

学生派遣事業  
施設開放事業



# 学生派遣事業



## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	第4回びわ湖パノラマウォーキング
担当	波多 遥
実施日時	2016年9月10日(土)11日(日)
参加者数	参加者 1,234名
補助学生	9月10日32名 9月11日30名 延べ62名(走路員)
場所	おごと温泉観光公園
実施形態	おごと温泉・びわ湖パノラマウォーク実行委員会

### ○報告○

#### 目的

第4回 おごと温泉・びわ湖パノラマウォーク実行委員会が実施、(おごと温泉が主な活動拠点)大津市の地域資源である歴史・文化・自然を生かし、市民参加型の全国的なウォーキングイベントとして実施。

本イベントは、(社)日本ウォーキング協会の公式認定大会「温泉リーグ」にも参画し、全国から多くの参加者を募り、観光振興につなげるものである。

本イベントは、大津市、滋賀県・雄琴観光協会・大津市ウォーキング協会が連携し、まち興しや健康増進、美化活動に繋がる施策にも取り組むことも目的としている。

#### 内容

当初の予定通り、平成26年9月21日に4コース、22日に4コースの計8コース開催

#### 結果及び考察

第4回びわこ・パノラマウォークが9/10(土)～11(日)の2日間に亘り開催された。本学は、第1回大会から後援・協力として、地域イベントの活性化に貢献している。今年度のイベント参加者は2日間で1234名であり、全国各地からの参加者が集まった。そして、本学からは吉倉講師を実行委員会副委員長として、学生がコース走路員ボランティア

として2日間で62名が参加した。

イベント当日は、猛暑の中行われたため、ウォーキング参加者、学生走路員には、熱中症対策等を十分に行うように指示を促した。その声掛けもありウォーキング参加者、学生走路員共に事故や怪我なく無事に終えることができた。

また、ウォーキング参加者から学生走路員に対して、「元気ある笑顔と声で案内していただいととても元気が出た」「若い走路員は珍しく活気があってうれしい」「挨拶が素晴らしい」等大変好評をいただいた。学生走路員ボランティア実施後にアンケートを行った。(別紙参照)その結果から、走路員を行って良かった、またやってみたい等の意見が多くあり学生たちも大変有意義な経験になったであろう。また、アンケートの中から、誘導中の注意事項等、今後参考になる意見が多くあったため改善していきたい。さらに具体的な意見として、昨年ウォーカーとして参加した学生が、今年は走路員として参加している学生や、走路員として2,3年連続で参加した学生からは、当イベントに対し、「運営側がどのような活動があるか知れてよかった」「大きな交差点等にはもっと走路員を増やすべき」等興味を高く持っている学生もいた。これらのことから、当イベントは、学生が走

路員としてボランティア参加をすることは、  
運営側にとっても、学生にとっても有意義で  
あり、連続して参加することで高い興味を持  
ち、個人のスキルアップにつながっていくこ  
とが考えられる。

2016 びわこパノラマウォーク ボランティア参加学生アンケート 結果				
			回答数	46
① 今回のボランティアに参加して				
	1 大変良かった	2 良かった	3 あまり良くなかった	4 良くなかった
	平均値	1.80		
	標準偏差	0.58		
② ①の理由				
	下記参照			
③ 今後もこのようなボランティア活動に参加したいですか				
	1 大変良かった	2 良かった	3 あまり良くなかった	4 良くなかった
	平均値	1.28		
	標準偏差	0.46		
④ 次年度への引き継ぎ事項				
	下記参照			
④ 自由記述				
	下記参照			
② ボランティアに参加しての感想				意見数
	・ 感謝の言葉がけやお疲れ様などの言葉がけがうれしかった。(元気をもらった)			24
	・ 日陰もあり休憩できてよかった			1
	・ 今度は歩きたい			1
	・ 大学がアピールできるから			1
	・ 歩いている人を見て応援したい気持ちになった			2
	・ 地域の人と関わって話すという体験が初めてでよかった。(地域交流が良かった)			10
	・ 他府県の人とあいさつを交わすことができ日本が身近に感じられた。			1
	・ 時間が長く、休憩も少なく暑かった			1
	・ 半日立っているのでトレーニングになった			1
	・ ボランティアにふれるいい機会になった			4
	・ 幅広い年齢層が参加しており、とても活気があった			1
	・ 現地集合にすると待ち時間がずくなくて済む			1
	・ 昨年は自分が歩いたので、運営側からどのような活動があるのか知れてよかった			1
④ 次年度への引き継ぎ				意見数
	・ 虫よけスプレーがあった方がよい			1
	・ 各配置場所からゴールまで何キロあるか把握すべき			1
	・ 自分がいる所に何があるか(トイレやコンビニ)を把握			1
	・ 一気に人が来ることはないので、焦らなくてよい。			1
	・ どのように人が来てどちらに流れていくのが「明確な」説明がほしい			1
	・ 水分補給(暑さ・熱中症対策)			9
	・ 笑顔であいさつ			1
	・ アンカーの通過を早目にしてほしい			1
	・ 待ち時間が長い			3
	・ 参加者ももっと明確な印がほしい			1
	・ 衣川公園は給水場だと良く間違われた			1
	・ 時間が短くてよかった			1
	・ 唐崎公園は日陰がなくとても暑かった			1
	・ 50年橋は周辺に自販機などがなく大変			1
	・ 大きな交差点などは人員を多く配置すべき			1
	・ 浮御堂へのルートが分かりにくい			1
	・ ラインはコースごとに分けてほしい			1
	・ 曲がり角が連続する等はもっと人員増加してほしい			1
⑤ 自由記述				意見数
	・ 今後もボランティアに参加したい			5
	・ おばあさんを助けた			1
				配置場所
				小野
				衣川公園
				唐崎公園
				50年橋
				下坂本
				浮御堂周辺
				柳が崎周辺

## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	スポーツボランティア実習「熊本地震ボランティア」
担当	山田 庸 専任講師
実施日時	2016年8月17日(水)～23日(火)
参加学生数	26名
参加教職員	山田 庸 田中 忍 嘉田由紀子 新宅幸憲 松井茂孝
活動場所	熊本県 益城町ボランティアセンター まごころベースキャンプ菊池市
宿泊場所	蓮華院誕生寺奥之院(玉名市)無償提供
実施形態	ボランティア実習

### ○報告○

#### 目的

2016年4月に発生した熊本地震によって被災地熊本では多くの支援が必要であり、本実習では、熊本復興支援ボランティアを通じてボランティアとしての個々の能力を向上させることをねらいとし、実習形式で実施する。

#### 内容

1.事前指導:出発までに2回実施。

(1)第1回事前指導

7月29日(金)16:20 第1ホール

スポーツボランティア手帳の説明, ボランティア活動の心得, 熊本での活動概要, 事前準備, 活動班分け

(2)第2回事前指導

8月2日(火)17:10-第1ホール

活動行程の理解, 班別行動計画の立案(目的, 達成目標, 活動内容, 役割)

2.ボランティア活動:8/17-23(6泊7日)現地

活動時間 40時間程度

(1)移動(往路)8/17-8/18

(2)現地視察及び現地ボランティア講習受講:(2日目:8/18)

(3)現地ボランティア活動

(3～5日目:8/19, 20, 21)

①学習支援活動 子供たちと合宿

②キッズキャンプ支援

③被災地ボランティアセンターで募集している活動

(4)活動のまとめ, 撤収作業(6日目:8/22)

(5)移動(復路):8/22-23

※各日, 朝の朝礼, ボランティア手帳への記入, 振り返りおよび翌日準備ミーティングが行われる

3.事後指導 8月31日(水)

4.報告会(展示)

11月12日-13日第一講義棟C102.103

#### 結果及び考察

熊本県民はもちろん, 友人実家の被災を心配する学生内に存在する「支援したい気持ち」が予想以上に存在していた。これらの「仁愛」「忠恕」の想いを前提として主体的に行動すること, 実際の活動に具現化する試行錯誤過程と実現された成果に意義がある。まさに本学園が目指すべき活動がそこにある。被災地被災者には, 「心のケア」とどまらない「自立を促す」支援が必要とされており, 一方的に「イベントを実施すること」ではなく, 共に心を重ね「生きる力」「元気」「楽しい気持ち」を引き出すことができた。





- 8/17 (水) 18:00 大阪南港フェリーターミナル集合19:50出発  
8/18 (木) 8:30 新門司港着 バス移動 フィールドワーク (益城町)  
8/19 (金) 5:00 起床 (毎日)  
5:30 朝のお勤め (毎日)  
**Aグループ 17名**  
7:20 宿舎出発 移動 (キッズ車・レンタカー)  
8:20 リバーサイドパーク・七城温泉ドーム・  
「まごころベースキャンプ」西原村小学生キャンプ 50名  
16:30 出発 17:00宿舎着  
**Bグループ 5名**  
1日 蓮華院誕生寺奥の院 小中学生学習支援活動・運動遊び
- 8/20 (土) **Aグループ 12名**  
7:00 宿舎出発 移動 (キッズ車・レンタカー)  
8:00 益城町ボランティアセンター  
16:00 出発 17:00 宿舎着  
**Bグループ10名**  
1日 蓮華院誕生寺奥の院 小中学生学習支援活動・運動遊び
- 8/21 (日) **Aグループ 12名**  
7:00 宿舎出発 移動 (キッズ車・レンタカー)  
8:00 益城町ボランティアセンター  
16:00 出発 17:00 宿舎着  
**Bグループ10名**  
1日 蓮華院誕生寺奥の院 小中学生学習支援活動・運動遊び
- 8/22 (月) 9:00 蓮華院誕生寺奥の院出発  
17:00 新門司港出発 名門大洋フェリー
- 8/23 (火) 5:30 大阪南港フェリーターミナル着 解散



# 施設開故事業 報告



## 2016年度施設開放事業 一般開放概要

スポーツ開発・支援センターでは地域住民の健康維持・増進に役立てて頂くため、大学内スポーツ施設の開放事業を行っている。また、行政やスポーツ活動団体との共同事業で使用するなど、学生の活動以外の面でもスポーツ施設を活用している。

アクアセンター(温水プール)やトレーニングルームでは個人利用を、グラウンドや体育館など他の施設についても各種スポーツ活動団体が利用しており、地域スポーツの普及に活用されている。

2016年度の利用状況は資料の通り。

事業名	施設開放事業（大学内スポーツ施設開放）
担当 及び スタッフ	江見亮輔(トレーニングルーム担当)， 波多 遥(アクアセンター担当) (スポーツ開発・支援センター事務課)
実施日	通年（但し、大学行事等の際は除く）
対象	行政、地域住民及びスポーツクラブ等の団体
開放時間	(原則) 午前の部9:00～12:00， 午後の部13:00～16:00
場所	トレーニングルーム、アクアセンター、その他スポーツ施設(グラウンド・体育館 他)
利用料	トレーニングルーム250円/1回、アクアセンター大人:500円/1回・小人:200円/1回 (上記以外の施設については学校法人大阪成蹊学園規程に従い徴収)



# スポーツ開発・支援センター 施設開放事業 利用状況一覧

2017年3月末現在

(人)

年間利用者数推移(2009年度～2016年度)			
年度	トレーニング ルーム	アクア センター	計
2009	547	637	1,184
2010	727	1,043	1,770
2011	802	1,126	1,928
2012	963	1,260	2,223
2013	1,932	1,659	3,591
2014	1,826	1,466	3,292
2015	1,568	1,543	3,111
2016	1,858	1,608	3,466
合計	10,223	10,342	20,565

(人)

2016年度 月別利用推移			
月	トレーニング ルーム	アクア センター	計
4月	135	205	340
5月	192	180	372
6月	210	195	405
7月	177	237	414
8月	93	58	151
9月	184	127	311
10月	182	180	362
11月	199	160	359
12月	150	148	298
1月	61	30	91
2月	133	42	175
3月	142	46	188
合計	1,858	1,608	3,466

## NPO法人BIWAKO SPORTS CLUB(総合型地域スポーツクラブ) スポーツ教室利用

(人)

利用日	年間 利用回数	団体名	利用人数 (延べ)	利用内容	利用施設
毎週 水曜日	44回	NPO法人 BSC	202名	バスケットボール教室	メインアリーナ
隔週 土曜日	26回		302名	フットサル教室	マルチアリーナ
毎週 土曜日	47回		1,141名	陸上スクール	陸上フィールド
毎週 水曜日	47回		138名	陸上 アスリートスクール	陸上フィールド
隔週 土曜日	19回		674名	サッカー練習	サッカーフィールド
	全183回		2,457名	全5教室	全5箇所

## 1. アクアセンターの管理内容

アクアセンターの管理として、施設管理として、プール水質(水温・残留塩素濃度・pH値)、施設の異常発見には特に気を付けるべきである。また、備品・消耗品管理なども施設を良い環境・状態で維持するには欠かせない。利用者管理としては、学生(授業、部活動)一般開放、公開講座、学外団体等の管理を行い、利用人数を把握し、施設の安全管理に努めている。

## 2. プール利用者について

2014 年度から 2016 年度におけるアクアセンターの総利用者について表 1. に示した。

### ・学生利用

学生の利用は主に、水泳部(競泳・水球)が利用している。また授業では、水中運動法や、卒業研究などでも利用され、一般学生も水泳練習・水中トレーニングや、リハビリテーションなど多岐において利用している。

2016 年度の学生利用者数が最近 3 年間では最多利用者数となり毎年利用者が増加している。この要因は、授業時間以外の一般学生利用人数の増加である。

### ・一般開放・公開講座

一般開放及び公開講座は、地域貢献事業として、地域住民の健康維持増進の貢献を目的としている。一般開放について、表 1 から最近 3 年間毎年利用者数が増加している。また、公開講座では 2015 年度から飛躍的に利用者が増加していることがわかる。これは、開講した講座数が増加したためである。公開講座の利用者が増加していること

によって、講座がない時に一般開放を利用している地域住民の方々が増加したことが伺える。

### ・学外団体

学外団体とは、本学と高(小・中)大連系にて合同練習を行っている高校生(小・中学生含む)や、本学 2 コースプールが可動床であり、水温が年間通して 32℃前後で調整していることから、身障者施設団体である。

以上のようにいずれの利用者も年々増加していることから、プール施設の状況は変化し続けており、安全に気持ちよく利用していただくためには、十分な管理が必要であることが分かる。また、以下に 2016 年度施設改善の内容を記す。

## 3. 施設管理について

### ・水質管理

水温に関しては、2 月に行った 2 コースプールと 6 コースプールのオーバーフロー槽のタンクを別々に分ける工事によって、各プールの温度調整がしやすくなった。その後温度管理は順調である。

残留塩素濃度については、本学プールの特徴で一部水深が 3m であるところから、水面と最深部では塩素濃度が大きく異なることが分かった。現場で測定する値である水面近くの塩素濃度は高く、機械室で管理している塩素濃度は、底引きから配管を通り塩素計測しているため、機械は塩素が薄いと判断し、多くの塩素を注入してしまう。

これが繰り返し起こると塩素濃度は急上昇する。この対策として、機械室の塩素注入濃度設定を今までは、0.7mg/l 設定であっ

表1. 2014年度～2016年度 アクアセンター総利用表

		2014年度	2015年度	前年比	2016年度 (3/16時点)	前年比
学生	利用者(名)	10,284	13,544	131.7%	14,462	106.8%
一般開放	利用者(名)	1,502	1,525	101.5%	1,634	107.1%
	開放日数(日)	112	105	93.8%	88	83.8%
	1回平均利用者(名)	13.4	14.5	108.3%	18.6	127.8%
公開講座	延べ利用者(名)	299	811	271.2%	853	105.2%
	受講登録者数(名)	36	128	355.6%	126	98.4%
	講座数(回)	15	59	393.3%	56	94.9%
その他(学外団体)	利用者(名)	1848	2403	130.0%	2593	107.9%
計利用者数(名)		13,982	18,426	131.8%	19,687	106.8%

たが、0.4mg/lに変更した。

この変更により塩素濃度は安定するようになった。

pH値はBTB液を使用し6.6～6.8で安定している。

#### ・施設管理

今年度アクアセンターの施設に関わる主な施設の改善を表2の内容で行った。

表2. 2016年度 アクアセンター施設改善一覧

5月	6コース グレーチング張り替え
9月	2コースプールFRP板の貼り替え
10月	機械室配管部品交換
2月	*オーバーフロー槽の仕切り

また、来年度は吸気口の工事及び清掃、天井裏の点検を行う予定である。

このように多くの改善・修繕を行っているが、冬場のプールサイドの結露状況は異常

である。これによって天井の結露、壁の破損、錆の増加がある。これらの対策として、吸気口清掃及び工事によってプール内空気循環の改善があれば多少は改善するであろう。この状況変化は十分な観察が必要であり、今後の対策として最重要課題である。

#### 4.まとめ

プール内は湿気・塩素が及ぼす施設の劣化からは逃れることはできない。日常の変化に気付くことが最も重要であり、気付く為の専門的知識が必要である。

一歩遅れると大きな事故が起こると思い観察行動していくべきである

### 1. トレーニングルームの管理体制

トレーニングルームの管理として、施設管理(備品管理など)、利用者管理(学生利用者、一般開放利用者、)、授業対応、部活動対応などの施設運営を実施している。

### 2. 利用者について

#### ・学生利用

トレーニングルームの学生の利用は、各部活動の学生が多く利用している。また授業では、体カトレーニング法や、トレーニング・健康コース関連の授業、卒業研究などでも利用され、一般学生もリハビリテーションなど多岐において利用している。

今年度の学生利用者数が最多利用者数となり、昨年に比べ約 1.15 倍の利用人数となった。この要因は、学部の定員増や雨天時でのトレーニング利用者増によるものではないかと考える。実際、天候の崩れやすい 5, 6, 7, 12, 1, 2 月の利用者は、前年度に比べ約 1.25 倍増加している。

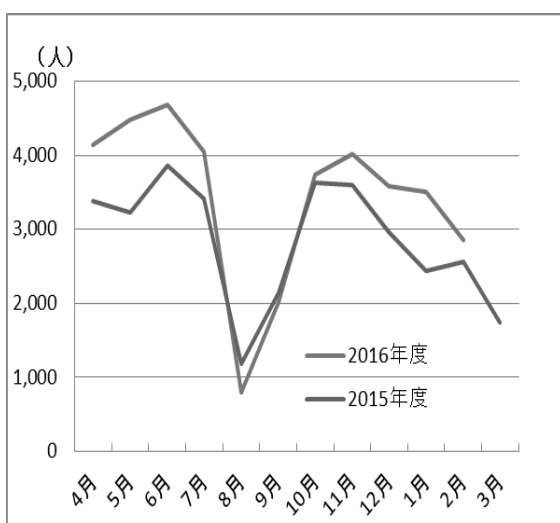


図 1. 利用人数推移

また、2016 年度学年別利用者の割合では、全体の中で1年生が 32%、2年生 33%、3年生 24%、4年生 11%となり、今後在学生の人数が増えることで利用人数も増加する可能性が考えられる。

#### ・地域貢献事業(一般開放)

表 1 は、一般開放の開放日数や利用者数を表している。2016 年度の年間開放日数は昨年度に比べ少ない日数であったが、年間利用者数は、2015 年度と比べると約 1.2 倍増加した。開放日数に対する利用者数として1回開放平均利用者数を調べたところ、2015 年度は約 12 人/回、2016 年度は約 16 人/回と増加していることが分かる。2016 年度の開放日数は 2015 年度と比べ少ないにも関わらず、利用者が増えたのは、開放曜日が昨年と同じであったことが影響している。一般開放利用者は、決まって同じ曜日に来ていることから昨年度と変わらない開放曜日により一般開放利用が習慣化しやすくなり、利用者が増えたと考えられる。

一般開放の利用が高まってきていることは、地域住民のへの体力・健康維持に大きく貢献していると考えられる

表 1. 一般開放日数及び利用者数

	開放日数(日)	利用者数(人)	平均利用者数(人)
2015年度	115	1,404	12
2016年度	108	1,716	16





スポーツ開発・支援センター

# 2016年度 事業一覧



## 2016年度 スポーツ開発・支援センター事業一覧

### 【自主事業】

#### びわスポキッズプログラム事業

事業名	開催日	場所	指導回数	全参加者数	派遣学生数
巡回指導	通年	保育園・幼稚園 小学校 他	58回	延べ2,210名	延べ225名

事業名	開催日	場所	累積開催回数	参加動員数	指導学生数
びわスポキッズ フェスティバル	9月3日	神照運動公園	32	161名	37名
	10月8日	布引グリーンスタジアム	33	243名	49名
	10月30日	びわこ成蹊スポーツ大学	34	230名	62名
	11月27日	三ツ池運動公園	35	雨天中止	雨天中止
合計				延べ634名	延べ148名

事業名	開催日	場所	対象KF会場	参加学生数	担当
びわスポキッズ フェスティバル 事前・事後研修 及び 打合せ	8月18日	支援センター会議室	長浜市会場	7名	スポーツ開 発・支援セン ター
	9月1日	第2講義棟第2ホール	長浜市会場	39名	
	9月27日	支援センター会議室	東近江会場	8名	
	10月6日	第2講義棟第2ホール	東近江会場	49名	
	10月18日	支援センター会議室	大津市会場	10名	
	10月27日	第2講義棟第2ホール	大津市会場	62名	
	11月14日	支援センター会議室	草津市会場	8名	
	11月24日	第2講義棟第2ホール	草津市会場	50名	
	12月8日	支援センター会議室	長浜・東近江・ 大津・草津会場	10名	
合計				延べ243名	

事業名	開催日	開催場所	内容	参加者数	担当
びわスポキッズプロ グラムキッズリー ダー研修会	4月21日	第2講義棟大ホール	巡回指導における こころえ	320名	中山 亮
	6月2日	第2講義棟大ホール	キッズ年代の指導にお ける基本知識	50名	山田 庸
	2月27日	真野幼稚園	メインリーダー育成 実技・講義指導	11名	リーベ 阪田隼也
合計				延べ381名	

事業名	開催日	担当	開催場所	全参加者数
びわスポ キッズプログラム 運営会議	6月8日	スポーツ開発・ 支援センター	大阪成蹊学園セミナー ハウス2階 会議室	びわスポ キッズプログラム 運営委員 25名

事業名	開催日	担当	開催場所	参加者数
びわスポ自然体験 スポーツフェスティ バル	7月10日	スポーツ開発・ 支援センター	びわ湖バレイ山頂	参加者67名

## 公開講座事業

講座名	参加人数	開催日・開催期間	担当者
「ホノルルマラソンを目指そう！！ ランニング教室」	23名	6月4日～12月3日 全12回	藤松 典子 他
前期 びわスポ水中ウォーキング教室	22名	5月6日～7月8日 全10回	白木 孝尚
後期びわスポ水中ウォーキング教室	21名	10月21日～1月13日 全10回	白木 孝尚
前期びわスポ水泳教室	11名	5月10日～6月28日 全8回	波多 遥
後期びわスポ水泳教室	10名	10月25日～12月13日 全8回	波多 遥
前期びわスポキッズ水泳教室	20名	4月27日～7月13日 全5回	波多 遥
後期びわスポキッズ水泳教室	22名	10月25日～12月13日 全8回	波多 遥
前期びわスポアクアビクス教室	19名	5月19日～7月14日 全5回	波多 遥
合計	148名		

## オリンピック出場の伊勢田愛選手を応援する会

寄附金総額	680,178円
-------	----------

## 【共同事業】

### 2016年度 長浜ジュニアアスリート育成プログラム

#### 1.長浜市ジュニアアスリートトレーニング

開催日	場 所	担当教員	参加者数	補助学生など
6月29日	長浜市民体育館 アリーナ	藤林 献明	約34名	6名
7月13日	長浜市民体育館 アリーナ	北村 哲	約34名	2名
7月27日	長浜市民体育館 アリーナ	柴田 俊和	約34名	2名
8月17日	長浜市民体育館 アリーナ	仲宗根 森敦	約34名	1名
8月24日	長浜市民体育館 アリーナ	藤林 献明	約34名	2名
9月28日	長浜市民体育館 アリーナ	仲宗根 森敦	約34名	2名
10月26日	長浜市民体育館 アリーナ	北村 哲	約34名	3名
11月16日	長浜市民体育館 アリーナ	山田 庸	約34名	2名
12月21日	長浜市民体育館 アリーナ	山田 庸	約34名	2名
1月25日	長浜市民体育館 アリーナ	藤林 献明 北村 哲	約34名	9名
合 計		11名	340名	31名

## 【受託事業】

### 産学官連携事業

受託研究 研究名	研究期間	企業・団体等	担当教員	受託費
Jリーグが主催する硬式試合のスタジアム観戦者に関する調査	4月1日～ 3月31日	社団法人日本プロサッカーリーグ	吉田 政幸	¥ 291,600
「運動後の食欲変化に関する硬式試合のスタジアム観戦者に関する調査」	4月28日～ 3月31日	佐渡市	武田 哲子	¥ 339,405
障害者スポーツ推進事業「障害者スポーツボランティア育成事業」	11月2日～ 3月31日	滋賀県	河西 正博	¥ 279,968

## 【地域事業】

### 指導者提供、学生派遣事業

期日・期間	事業内容	内 容	担当教員・学生
6月6日	講師派遣	小野ローズタウン高齢者健康体操指導	藤松 典子先生
6月8日	講師派遣	甲賀市 青少年の自然体験活動を考えるつどい基調講演	講師 中野友博先生
6/11-8/28 8回	学生派遣	滋賀レイキッズ第3期生選考会測定補助員	学生延べ30名
8月17日～23日	学生派遣	スポーツボランティア実習「熊本地震ボランティア」	学生数 26名 教員山田庸先生他 3名
9月10日・11日	学生派遣	おごと温泉・びわ湖パノラマウォーク	学生延べ62名 水泳部他
10月1日	学生派遣	秋のスポーツイベント2016運動会 比良駅前ひらりと新宅ゼミ	新宅ゼミ 新宅 幸憲先生
10月3日	学生派遣	RAN伴 大学付近コース	ボランティアサークル (39レンジャーズ)
10月17・18日	学生派遣	滋賀のくすりと健康フェア2016(滋賀県薬業協会主催) 水口平和堂 のびのび健康体操	藤松ゼミ学生 延べ10名
2月2日	講師派遣	大津市立田上中学校 学校保健委員会研修会	高橋佳三先生
12月22日	学生派遣	和邇中子ども会レクリエーション	学生4名
2月28日	学生派遣	2016びわこレイクサイドマラソン	陸上部・野球部・ サッカー部 180名
3月26日	講師派遣	堅田ウォーキングイベント 大津北商工会管内大学連携委員	新宅憲幸先生 新宅ゼミ学生

### 研修会・施設見学

事業名	対象人数	期日・期間	内 容	担当者
さざなみ学園 中高生12名(施設見 学及び体験)	約12名	9月4日	施設見学・体験	ボランティア学生2名
甲賀市・スポーツ推進委員研修会	約12名	10月25日	講演・実技	鳥羽賢二先生 田中 忍先生

### 施設開放事業

事業名	期間	担当者
スポーツ開発・支援センター	通年	江見 亮輔(トレーニングルーム担当) 清水 春花(トレーニングルーム担当) 波多 遥(アクアセンター 担当)

# 2017年度 事業報告





スポーツ開発・支援センター  
アスリートプログラム

課外活動強化事業



# 課外活動強化事業





## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	アスリート寮「MUSASHI」書道教室
担当	書師 秀蓮(外部指導者)
実施日	2017年 10月 16日(月)
対象者数	アスリート寮「MUSASHI」寮生(サッカー一部, 硬式野球部)約40名
場所	アスリート寮「MUSASHI」
費用	—
実施形態	講義・実技
概要 (活動内容)	<p>アスリートとしての心構えを「書の道」から学び、今後のびわこ成蹊スポーツ大学を牽引するアスリートとして、4年間の誓いを「書」に表現し、発表を行った。</p> <p>また、書師 秀蓮氏のエキシビジョンを実施し、一筆にかける集中力・プロの技を学生は目の前で体感した。</p> <p>【授業内容】</p> <p>1部 アスリートと書(講義) 書写から書道へ(実技)</p> <p>2部 書師 秀蓮によるエキシビジョン</p> <p>3部 志の書(実技)</p>

記録(写真)



## スポーツ開発・支援センター事業報告書




事業名	アスリート寮「MUSASHI」栄養講座
担当	武田 哲子
実施日	2017年5月19日(金)
対象者数	37名
場 所	第1講義棟 中講義室
費 用	—
実施形態	講義
概要 (活動内容) 成 果	<p>寮生に対して、寮での食事のとり方、昼食や補食のとり方について講習を行った。寮の食堂で提供される食事については事前にアスリートとして必要な食事の量・質についてを管理人に情報提供している。価格等諸々の制限がある中、完璧とはいかないまでもある程度考慮した食事が提供されている中、学生の意識・知識が十分とは言えず、食事摂取状況の改善が必要であることから今回の講習を行った。</p> <p>具体的には、現在朝食や夕食のとり方で気をつけていることを書きだしてもらい、自分自身の食生活を振り返らせた上で各競技に必要な食事量の確認を行い、改善点を確認した。また、朝食や夕食だけでは1日に必要な栄養素やエネルギーが補えないことを説明し、昼食の重要性や、補食の選択の仕方についての説明を行った。学生の中には、夕食はしっかりとっていても、朝食がおろそかになっていたり、昼食や補食の選択が価格優先になり十分でない者などもいた。3食+補食をそろえることで初めてアスリートとして必要な食事が完成することを確認した。最後に、今後自分自身で気をつけるべきこと、寮や学校にお願いして改善してもらいたいことを整理させ、今後の食生活改善につなげられるよう意識付けを行った。</p>
記録(写真)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>



## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	壮行会・報告会・祝勝会 (ユニバーシアード@サッカー・バトントワーリング アルティメットU-24世界大会・サッカー部インカレ出場・サッカー部関西学生一部リーグ優勝)
担当	スポーツ開発・支援センター 荒木・石井田・松井・本郷・中山・山田・石間
実施日	①壮行会 2017年 7月 26日(水)・報告会 2017年 10月 4日(水) ②壮行会 2017年 12月 5日(火)・報告会 2018年 1月 29日(月) ③祝勝会 2018年 2月 27日(火)
対象者数	
場 所	①②中央棟2階Z201・Z202 ③中央棟4階レストラン“Lake Crest”
費 用	—
実施形態	
概 要 (活動内容)	<p><b>①ユニバーシアード@サッカー・バトントワーリング世界大会</b>          ◎壮行会 2017年 7月 26日(水)12:20～12:50          サッカー ユニバーシアード大会出場(選出)          女子監督 望月聡教授          男子選手 宮大樹 4年次生          バトントワーリング 世界大会出場 GENESISの一員として          田中絵里奈 1年次生          ◎報告会 2017年 10月 4日(水)12:30～12:50          サッカー ユニバーシアード大会女子準優勝 監督 望月聡教授          サッカー ユニバーシアード大会男子優勝 宮大樹 4年次生          バトントワーリング GENESISの一員として世界大会に出場し優勝          IBTFグランプリ・第9回WBTFインターナショナルカップ 優勝          田中絵里奈 1年次生</p> <p><b>②サッカー部インカレ出場・アルティメットU-24世界大会</b>          ◎壮行会 2017年 12月 5日(火)12:20～12:50          サッカー部関西学生リーグ一部優勝報告・インカレ出場壮行会          アルティメットU-24世界大会出場          石戸君弥、藤原睦、村上峻太郎、松嶋結倭          ◎報告会 2018年 1月 29日(月)12:20～12:50          サッカー部インカレ報告 ベスト8          アルティメットU-24世界大会 ミックス部門 準優勝 村上峻太郎、松嶋結倭          アルティメットU-24世界大会 メン部門 第6位 石戸君弥、藤原睦</p> <p><b>③サッカー部関西学生リーグ一部優勝祝勝会</b>          ◎祝勝会 2018年 2月 27日(火)11:00～13:00          サッカー部員170名(女子部含む)・教職員20名          来賓挨拶…公益社団法人滋賀県サッカー協会 会長 松田 保 様          料理を卓盛りとし、出席者全員着座して実施。</p>
成 果 記録(写真)	<p>壮行会・報告会をセットで確実に開催した。サッカー部の祝勝会については、学内のレストラン(Lake Crest)で開催した。</p> <p>世界大会に出場した学生には、所定の手続きを経て、学園後援会、本学教育振興会から激励金が支給された。</p>

## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	課外活動結果報告(サッカー部・硬式野球部・陸上競技部)
担当	スポーツ開発・支援センター事務課 石間寛人
実施日	—
対象者数	—
場 所	—
費 用	—
実施形態	—
概要 (活動内容) 成 果	<p><b>サッカー部</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第22回滋賀県サッカー選手権大会 優勝</li> <li>・第97回天皇杯全日本サッカー選手権大会 出場</li> <li>・第95回関西学生サッカーリーグ 優勝</li> <li>・第66回全日本大学サッカー選手権大会 ベスト8</li> <li>・第29回ユニバーシアード競技大会 日本代表選出 男子 宮大樹(4年) 優勝 女子 望月聡 準優勝</li> <li>・Jリーグ加入者 宮大樹(ヴェissel神戸) 山本義道(ツエーゲン金沢) 堂安憂(AC長野パルセイロ)</li> </ul> <p><b>硬式野球部</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度京滋大学野球 春季リーグ 4位 秋季リーグ 3位 ベストナイン 鎌田千嘉良(三塁手) 八木友希(遊撃手) 新人賞 山田篤史(投手)</li> </ul> <p><b>陸上競技部</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関西学生陸上競技対校選手権大会 男子 二部2位(関西一部昇格) 走幅跳 1位 小野武蔵(2年) 円盤投 1位 細谷 海人 十種競技 3位 黒田貴稔(4年) 10000m競歩 2位 菅浪裕也(4年) 3位 塩屋陸(2年) 4×100mリレー 3位 萩原(3年) 向井(4年) 福永(2年) 吉田(4年)</li> </ul>
記録(写真)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>

## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	平成29年度滋賀県競技力向上対策事業における対象団体として補助金交付 (陸上競技部・ウエイトリフティング部)
担当	陸上競技部 石井田・渋谷・藤林 ウエイトリフティング部 豊田 事務担当 スポーツ開発・支援センター 荒木・石間
実施日	陸上競技部 2017年4月1日～10月12日 ウエイトリフティング部 2017年4月1日～11月27日
対象者数	—
場所	—
費用	—
実施形態	滋賀県競技力向上対策委員会への申請, 交付決定, 実績報告, 補助金交付
概要 (活動内容)	2017年4月1日付, 「平成29年度滋賀県競技力向上対策事業における対象団体の決定通知」の文書を受理. 対象競技として, 陸上競技, ウエイトリフティングを企業・大学・クラブ支援事業対象に選定され, 補助金額各々10万円が支給されることが示された. 6月14日に認定式が滋賀県庁で開催され, 本学から, 嘉田学長, 黒澤スポーツ開発・支援センター長, 荒木スポーツ開発・支援センター付部長が出席した. 滋賀県スポーツ振興補助金交付要綱に基づき, 補助金の交付申請書を提出し, その後実績報告書を提出し, 補助金が交付された. 補助金は, 大阪成蹊学園に振込入金され, 各団体には大学から12月15日に各部の口座に振り込み, 事業完了とした.
成果	補助金の獲得として, 計20万円

### 記録(写真)



## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	ミズノ(株)との連携協力協定締結
担当	黒澤毅スポーツ開発・支援センター長、望月教授、渋谷教授、山田准教授、藤林講師、北村助手 スポーツ開発・支援センター 荒木、石井田、本郷、山田、石間
実施日	締結式 2018年3月12日(月)
出席者	入口学長、久保常務理事・事務局長、豊田副学長、黒澤スポーツ開発・支援センター長
場所	中央棟 2階 Z201・202
費用	—
実施形態	
概要 (活動内容)	<p>2017年6月より、担当者間で打ち合わせを複数回実施し、連携協力に関するミズノ(株)からの提案がされた。</p> <p>内容を吟味し調整の結果、びわこ成蹊スポーツ大学学長との協定締結をするよう指示があり、2018年4月1日付で、協定書と覚書の調印を行った。</p> <p>他大学においても、スポーツメーカーとの連携が進行しており、ミズノ(株)との協定締結の意義は大きい。</p> <p>今後、協定書に記載されている事業を実現していくことが重要であり、締結を目的とせず、締結したことにより双方の事業を相互に連携強化を進めていくこととする。物品購入に伴う還元がすべてではなく、双方の推進する事業達成のために、相互連携し事業を推進する。</p>





スポーツ開発・支援センター  
タウンプログラム

プログラム提供・調査研究事業

公開講座事業



プログラム提供・調査研究事業





# びわスポキッズプロジェクト事業報告



## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	びわスポキッズプログラム運営会議
担当	スポーツ開発・支援センター事務課 担当 中山亮
実施日	2017年6月8日(木)
対象者数	2017年度 びわスポキッズプログラム運営会議委員および関係者 25名
場所	大阪成蹊学園セミナーハウス2階 会議室
費用	
実施形態	会議
概要 (活動内容)	びわスポキッズプログラムの諮問会議であり、年度内1回実施している。 びわスポキッズプログラム事業に協賛・後援の団体代表者が集まり、2016年度事業実績報告及び2017年度事業計画と今後の運営方針について協議した。 今後の運営方針について会議の中では、①学生リーダーの養成方法の見直し、②JFA公認キッズリーダー等取得者の現場派遣の必要性、③びわスポキッズプログラムの授業への取り込みについて意見があった。この意見を活かし、2017年度以降取り組むことを確認した。
成果	2016年度活動報告と決算、2017年度事業計画と予算の承認。 今後の運営方針の確認。

### 記録(写真)



## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	びわスポキッズフェスティバル in 高島		
担当	スポーツ開発・支援センター 指導者 学生30名		
実施日	2017年 9月30日(土) 10:00~12:00		
対象者数	4歳児6名, 5歳児6名, 1年19名, 2年24名, 3年12名 合計67名 ※申込者70名		
場所	安曇川スポーツセンター 高島市安曇川町青柳1838		
費用	無料		
実施形態	実技		
概要 (活動内容) 成果	<p>開会式列席者: 高島市教育委員会 教育長 上原 重治 様 高島市教育総務部市民スポーツ課 課長 赤水 新次 様 スポーツ開発・支援センター センター長 黒澤 毅</p> <p>今回のフェスティバルは、特別企画として、2024年滋賀国体高島市ソフトボール会場決定を記念し、ソフトボール・野球を取り入れた運動遊びを小学生以上の学年に実施した。開会式では、元プロ野球選手(ダイエーホークス, ロッテ)でピッチャーとして活躍した本学硬式野球部コーチの山田秋親氏がピッチングのデモンストレーションを行い、その制球精度と球の速さに、子どもたちからは驚きの声が上がっていた。小学生以上の学年に実施したソフトボール、野球に繋がる運動遊びでは、本学野球部学生が中心に打つ、投げる、捕るの3要素を取り入れたメニューを実施。小学低学年で打つ事のままならない子どもたちへ、学生キッズリーダーがひも付きボールを高い位置で持って吊るし、子どもたちがそれをバットで打ち、楽しさを感じてもらえるよう工夫したメニューや、セットポジションを取り、ピッチャーになったつもりで学生キッズリーダーに向けて投げるマジ投げと題したメニューまで、普段、ソフトボール、野球等を体験したことのない子どもたちも、その楽しさを感じてもらえたと考えられる。</p> <p>参加された保護者からは、実施後のアンケートの中で「強制ではなく個人を尊重して、個人に合わせて対応して下さってよかった。」「子どもは十分楽しめ親としても安心してみていられました。」「3年間参加させていただきました。学生さんの本当に運動している姿がカッコよかったです。」などのご意見をいただいた。</p> <p>また、今後のびわスポキッズプログラムの発展のために、今回も子どもたちの運動活動量と心拍数を計測させていただいた。計測で得たデータは今後の教育・研究活動に活用予定である。</p>		

### 記録(写真)



## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	びわスポキッズフェスティバル in 草津
担 当	スポーツ開発・支援センター 指導者 学生50名
実施日	2017年 10月15日(日) 10:00~11:30
対象者数	4歳児23名, 5歳児26名, 1年31名, 2年19名, 3年27名 合計126名 ※申込者 230名
場 所	烏丸半島 多目的広場 草津市下物町1091
費 用	無料 ※駐車料金550円
実施形態	実技
概 要 (活動内容) 成 果	<p>・特別ゲスト:陸上選手2名 菅井 洋平 選手(ミズノトラッククラブ所属) ☆自己ベスト 男子走幅跳/8m18 和田 麻希 選手(ミズノトラッククラブ所属) ☆自己ベスト 女子100m/11秒60 女子200m/23秒67</p> <p>・開会式列席者:草津ライオンズクラブ会長・エールコーポレーション株式 会社代表取締役会長 白井 幸則 様 草津ライオンズクラブ 幹事 堀竹 宏彰 様 草津ライオンズクラブ青少年委員長 井上 豊仁 様 ミズノ株式会社 宮武 功二 様 ミズノ株式会社 長谷川 順子 様 スポーツ開発・支援センター センター長 黒澤 毅</p> <p>今回のキッズフェスティバルは、雨天の中の開催となった。ゲストとして、陸上競技界で活躍するトップアスリート菅井洋平選手(男子走幅跳)、和田麻希選手(女子短距離)の2人をお招きし、びわスポキッズプログラム(運動遊び)を子どもたちと一緒に楽しんでいただいた。雨により、足場が悪い中ではあったが、ゲストの2人は関係なしに、一部泥と化した芝の上を、全力で走り、子どもたちとのふれあいを楽しんでいた。また、プログラム実施時間を雨により50分に短縮した。子どもたちとキッズリーダーの顔には、雨の中で楽しく運動できた達成感と満足感が顔ににじみ出ている。閉会式後のミズノ製品・キリンビバレッジ製品のあたる抽選会では、1等賞に陸上選手のサイン入りユニフォームおよびスパイクを用意しており、子どもたちが賞品が当たる事を一生懸命願っている姿が印象的であった。</p> <p>参加された保護者からは、実施後のアンケートの中で「雨のため短くなったと思いますが、身体をもっと動かしてあげたかったので少し残念です」、「分かりやすく、丁寧な指導をしていただきありがとうございました。ゲーム内容も楽しかったです」、「学生さんたちの子どもの扱い方が上手で、このようなイベントは子育ての参考になります」などのご意見をいただいた。</p>

記録(写真)



## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	びわスポキッズフェスティバル in 大津
担 当	スポーツ開発・支援センター 指導者 学生57名
実施日	2017年 11月19日(日) 10:00~12:00
対象者数	4歳児51名, 5歳児41名, 1年63名, 2年46名, 3年29名 合計230名 ※申込者281名
場 所	びわこ成蹊スポーツ大学 大津市北比良1204
費 用	無料
実施形態	実技
概 要 (活動内容) 成 果	<p>・特別ゲスト:近藤岳人(FC大阪所属 元Jリーガー, びわこ成蹊スポーツ大学出身) 田路大樹(FC大阪所属 2013年度-2016年度 びわこ成蹊スポーツ大学在籍) ファミリーレストラン 原田氏, 下林氏 (吉本興業所属, 滋賀県住みます芸人)</p> <p>・開会式列席者:キリンビバレッジバリューベンダー株式会社 近畿圏支社開発推進リーダー 大久保尚一 様 ミズノ株式会社 澤山政義 様 ミズノ株式会社 東 昌輝 様 びわこ成蹊スポーツ大学 学長 入口 豊 びわこ成蹊スポーツ大学 常務理事 事務局長 久保 健 びわこ成蹊スポーツ大学 スポーツ開発・支援センター長 黒澤 毅</p> <p>今回は、「ステキなゲストと一緒に遊ぼう」と題し特別ゲストとして、本学卒業生で初のJリーガーの近藤岳登選手(元ヴィッセル神戸所属)と帯同の田路大樹選手, 滋賀県住みます芸人のファミリーレストラン氏をお招きした。開会式では、近藤, 田路両選手によるサッカーボールのロングフリーキックの披露があり、子どもたちは、そのキックの精度の高さに驚きの声があがっていた。スポーツとお笑いの初コラボイベントとして開催した本フェスティバルは、近藤選手と田路選手には子どもたちと思いっきり遊んでもらうことに専念してもらい、それをお笑い芸人のファミリーレストランのお二人が実況中継する形で、運動遊びに取組む子どもの声, それを見守る保護者の声, また指導にあたる学生キッズリーダーの声を拾いながらの実施となり、会場が一体となり観戦している者にも臨場感のあふれた盛況なイベントとなった。参加保護者からは、実施後のアンケートの中で「広くてきれいなフィールドでとても楽しくすごせ、子どもたちは大満足でした。次回以降もぜひ参加したいです!」、「3年までなのが残念なくらい。次の機会があればと思うくらいです。子どもが「もっと! もっと!」と思える姿が多く見られとても楽しんでいました。」などのご意見をいただいた。</p>

### 記録 (写真)



## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	びわスポキッズプログラム巡回指導
担当	スポーツ開発・支援センター 事務課員 中山 亮
実施日	2017年5月～2018年3月 60回
対象者数	年中(4歳児)～小学3年生 延べ2,155名
場 所	大津市: 志賀北幼稚園, 比良保育園, 志賀南幼稚園, 仰木の里幼稚園, 堅田幼稚園, 仰木幼稚園, 真野幼稚園, 雄琴幼稚園, 真野北幼稚園, 仰木の里東幼稚園, 下阪本幼稚園 高島市: 静里なのはな園, 今津東保育園, 朽木こども園 草津市: さくら坂保育園 甲賀市: 水口西保育園
費 用	無料
実施形態	実技
概 要 (活動内容) 成 果	<p>びわスポキッズプログラムは滋賀県の子どもの運動適応能力の向上と、スポーツを好きになってもらうことを主旨に2009年7月から開始した。</p> <p>2017年度は、滋賀県湖西地域を中心に巡回指導として幼稚園・保育園・こども園等16施設に60回、延べ2,155名の子どもたちを対象に、キッズリーダー延べ256名が指導にあたった。</p> <p>巡回指導では、毎回「バランス」、「リズム」、「タイミング」の3要素をキーワードに本学学生キッズリーダーが運動遊びを中心としたメニューを計画し実施している。また、あいさつや、ルール説明、後片付けの時間を取り入れ「スマイル」、「自律・協調」、「フェアプレー」の3要素をキーワードにスポーツマインドを養う指導を実施している。</p> <p>2017年度で9年目となる巡回指導は、実施対象園の年間行事に組み入れていただいております。地域に根ざした貢献事業としてご理解いただいているものと考えられる。</p>

### 記録（写真）





## 2017年度びわスポキッズプログラム巡回指導実績

NO	日付	実施園名	時間	対象	人数	メイン	サブ
1	5/22(月)	志賀南幼稚園	9:30~11:30	5歳児	39	1	1
2	5/24(水)	堅田幼稚園	9:30~11:30	5歳児	51	1	4
3	5/26(金)	仰木幼稚園	9:30~10:30	5歳児	9	1	1
4	5/31(水)	真野幼稚園	9:30~11:30	4歳・5歳児	53	1	3
5	6/6(火)	仰木の里幼稚園	9:30~11:30	4歳・5歳児	40	1	5
6	6/9(金)	仰木の里東幼稚園	9:30~10:30	5歳児	38	1	3
7	6/12(月)	真野北幼稚園	9:30~11:30	4歳・5歳児	40	1	3
8	6/14(水)	比良保育園	9:30~11:30	4歳・5歳児	54	1	4
9	6/16(金)	志賀南幼稚園	9:30~11:30	5歳児	39	1	2
10	6/19(月)	下阪本幼稚園	9:30~11:30	5歳児	50	1	3
11	6/20(火)	雄琴幼稚園	9:30~11:30	4歳・5歳児	29	1	3
12	6/26(月)	志賀北幼稚園	9:30~10:30	5歳児	32	1	4
13	9/8(金)	堅田幼稚園	9:30~11:30	5歳児	51	1	2
14	10/2(月)	朽木こども園	10:10~11:10	5歳児	14	1	1
15	10/5(木)	今津東保育園	10:00~11:15	4歳児・5歳児	18	1	3
16	10/10(火)	真野北幼稚園	9:30~11:30	4歳児・5歳児	40	1	2
17	10/11(水)	志賀北幼稚園	9:30~10:30	5歳児	32	1	3
18	10/12(木)	仰木幼稚園	10:30~11:30	4歳・5歳児	17	1	2
19	10/13(金)	比良保育園	9:30~11:30	4歳・5歳児	54	1	2
20	10/16(月)	静里なのはな園	9:45~11:30	4歳児	44	1	4
21	10/17(火)	仰木の里幼稚園	9:30~11:30	4歳・5歳児	40	1	3
22	10/30(月)	真野北幼稚園	9:30~11:30	4歳児・5歳児	40	1	2
23	10/31(火)	雄琴幼稚園	9:30~11:30	4歳・5歳児	29	1	2
24	11/1(水)	比良保育園	10:00~11:00	4歳児	27	1	4
25	11/2(木)	静里なのはな園	9:30~11:30	4歳児	44	1	4
26	11/6(月)	志賀北幼稚園	9:30~10:30	5歳児	32	1	3
27	11/9(木)	仰木の里東幼稚園	9:30~11:30	4歳・5歳児	51	1	4
28	11/10(金)	水口西保育園	10:00~11:30	5歳児	35	1	2
29	11/13(月)	堅田幼稚園	9:30~10:30	4歳児	33	1	3
30	11/16(木)	今津東保育園	10:00~10:40	4歳児	10	1	2
31	11/17(金)	水口西保育園	10:00~11:30	5歳児	35	1	2
32	11/21(火)	今津東保育園	10:00~11:15	4歳児・5歳児	18	1	2
33	11/24(金)	朽木こども園	10:10~11:10	5歳児	14	1	3
34	11/27(月)	朽木こども園	10:10~11:10	5歳児	14	1	4
35	11/28(火)	さくら坂保育園	10:00~11:30	4歳児・5歳児	37	1	2
36	12/1(金)	志賀南幼稚園	9:30~11:30	5歳児	40	1	3
37	12/6(水)	志賀南幼稚園	9:30~11:15	4歳児	39	1	4
38	12/7(木)	仰木の里東幼稚園	9:30~11:30	4歳・5歳児	51	1	3
39	12/8(金)	比良保育園	9:30~11:30	4歳・5歳児	54	1	3
40	12/11(月)	真野幼稚園	9:30~11:30	4歳・5歳児	53	1	4
41	12/12(火)	今津東保育園	10:00~10:40	4歳児	10	1	3
42	12/14(木)	仰木幼稚園	11:00~12:00	4歳・5歳児	17	1	3
43	12/15(金)	下阪本幼稚園	9:30~11:30	4歳児	36	1	3
44	12/20(水)	志賀北幼稚園	9:30~10:15	5歳児	32	1	4
45	12/21(木)	雄琴幼稚園	9:30~11:30	4歳・5歳児	29	1	3
46	12/22(金)	さくら坂保育園	10:00~11:30	4歳児・5歳児	37	1	4
47	1/10(水)	真野幼稚園	9:30~11:30	4歳・5歳児	53	1	3
48	1/10(水)	志賀北幼稚園	9:30~11:30	4歳・5歳児	30	0	7
49	1/11(木)	仰木の里幼稚園	9:30~11:30	4歳・5歳児	40	1	2
50	1/15(月)	静里なのはな園	9:30~11:30	4歳児	44	1	3
51	1/17(水)	志賀北幼稚園	9:30~11:30	4歳・5歳児	30	0	7
52	1/19(金)	下阪本幼稚園	9:30~11:30	4歳児	36	1	3
53	2/20(火)	さくら坂保育園	10:00~11:30	4歳児・5歳児	37	1	2
54	2/21(水)	仰木幼稚園	10:30~11:30	4歳・5歳児	17	1	2
55	2/22(木)	雄琴幼稚園	9:30~11:30	4歳・5歳児	29	1	4
56	2/23(金)	仰木の里東幼稚園	9:30~10:00	4歳児	13	1	3
57	2/26(月)	堅田幼稚園	9:30~11:30	4歳・5歳児	84	1	4
58	2/27(火)	真野幼稚園	9:30~11:30	4歳・5歳児	53	1	5
59	2/28(水)	志賀北幼稚園	9:30~10:15	4歳児	20	1	3
60	3/3(土)	野洲B&G海洋センター	14:50~16:00	小学1年~3年	68	3	14
合計					2,155	60	196

## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	びわスポキッズプログラムキッズリーダー研修会
担当	スポーツ開発・支援センター 事務課員 中山 亮
実施日	①2017年4月21日 ②11月30日 ③2018年3月31日
対象者数	本学学生 350名
場所	①大ホール ②大ホール ③メインアリーナ&第1ホール
費用	無料
実施形態	実技
概要 (活動内容) 成果	<p>毎年度、びわキッズプログラムに関わる学生たちが集まり研修会を行っている。ここでは、学生たちの間で受け継いできた運動メニューや指導方法などについて、現場で実践できるように研修している。</p> <p>今年度は①2017年4月21日、②11月30日、③2018年3月31日の日程で開催合計約350名の学生が参加した。</p> <p>研修会では、本学教職員、外部指導者が講師となり、子どもへの運動指導方法や関わり方などを講義と実技を交えて実施した。また、はじめての試みとして第3回目の研修会に日本サッカー協会公認キッズリーダー講習会を実施した。これにより、2018年度から日本サッカー協会公認の有資格者を巡回指導・キッズフェスティバル現場に派遣し指導にあたる予定である。</p>

### 記録（写真）





## 「びわスポキッズプログラム」の開発に向けた取り組み

○秋武 寛, 黒澤毅, 望月聡, 川合英之, 石井智, 藤松典子, 北村哲, 武田智子, 山田庸, 村瀬陽介, 藤林献明(びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ学部, スポーツ開発・支援センター)  
荒木初廣, 松井茂, 中山亮, 本郷宏樹, 山田秋親, 坂本和夫, 神田恵太, 木村陽子  
(びわこ成蹊スポーツ大学 スポーツ開発・支援センター)

### I. はじめに

本学は、2009年より産官学が連携して「びわスポキッズプログラム」を展開し、①キッズリーダー研修(年間3回, 学生延べ約400人), ②幼稚園保育園巡回指導(年間約60回, 約2000人を対象), ③びわスポキッズフェスティバル(年間3-4回, 約800人参加)を展開している。しかし、本学は、これまでに「びわスポキッズプログラム」において科学的データを用いた検証が行われていないのが現状であった。

本学のスポーツ開発・支援センターは、滋賀県の子どもの運動能力、日常の身体活動量、生活習慣との関連性を科学的データから検証することにより、「びわスポキッズプログラム」の開発に向けて資料を得ることを目的として実施した。さらに本取り組みは、「滋賀県の子どもを元気に！」にするため量・質的手法を用いて科学的に発育発達に関する研究を実施し、子どもの運動能力向上のため「楽しい運動あそび」、「スポーツの指導法」を支援する「びわスポキッズプログラム」を開発するための、科学的データを用いた基礎研究を行ったので報告する。

### II. 実施内容

#### 「びわスポキッズフェスティバル」

##### 1. 「びわスポキッズフェスティバル」の日程

表1 「びわスポキッズフェスティバル」の日程

開催回	日時	時間帯	開催地	場所	参加人数
第1回	9月3日	17:15-18:30	長浜市	神照運動公園	198
第2回	9月30日	10:15-11:45	高島市	安曇川スポーツセンター	67
第3回	10月15日	10:15-11:30	草津市	烏丸半島 多目的広場	126
第4回	11月19日	10:15-11:45	大津市	本学 サッカーフィールド	230

表1は、「びわスポキッズフェスティバル」の日程を示した。測定対象は、第1回神照運動公園(長浜市)、第2回安曇川スポーツセンター(高島市)、第4回本学サッカーフィールド(大津市)において測定を行った。なお、第3回烏丸半島多目的広場(草津市)では、小雨の中の開催であったために、安全面および測定機器の故障などを総合的に考慮に入れて、測定の実施を取りやめた(図1)。

##### 2. 倫理的配慮

本研究は、びわこ成蹊スポーツ大学学術研究倫理専門委員会にて倫理審査を受け、承認(成ス第29号)を得て実施した。

「びわキッズフェスティバル」の測定協力は、参加申し込み用紙に研究の目的と意義、個人

情報保護について紙面にて案内を実施し、研究同意欄にチェック項目を設けて、同意を得た。さらに測定当日、測定の目的と意義、個人情報保護、利益、不利益、侵襲、安全管理、データの公表について測定内容をポスターで掲示し、保護者および子どもから同意を得た子どもを対象とした。



図1 びわスポキッズフェスティバル中における研究参加の説明および測定風景

### 3. 身体活動量(運動強度、歩数)の測定

身体活動量(運動強度、歩数)の測定は、3軸方向の加速度計であるActiGraph wGT3X-BT (ActiGraph, Pensacola, FL, USA, 4.6×3.3×1.5cm,19g)を用いた。ActiGraph wGT3X-BTは、専用のベルトに固定し、右腰部に装着した。身体活動量の測定は、運動強度および1分間に歩いた歩数を測定した(図2, 3)。

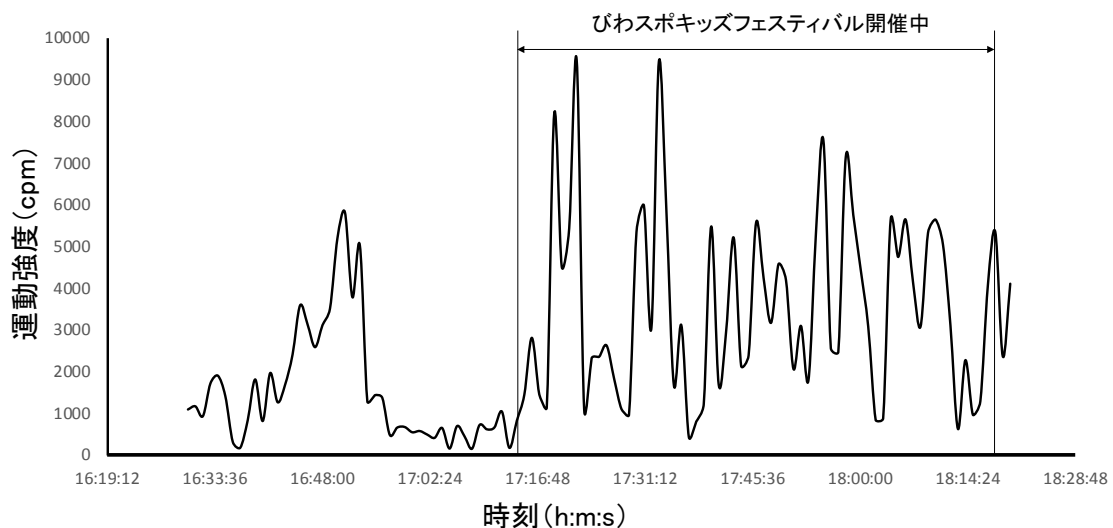


図2 びわスポキッズフェスティバル中における運動強度

### 4. 心拍数の測定

心拍数の測定は、心拍数記録装置(Polar社製, A300, Finland)を用いて、幼児の胸部に装着し、そのデータを左腕の心拍時計に記録した(図4)。または、心拍数記録装置(Polar社製, OH1, Finland)を用いて左上腕部分に固定し、記録した。心拍数のデータは、専用ソフトを用いてPCにデータを保存した後、解析を行った。サンプリング周波数は、1分間に60Hzとした。

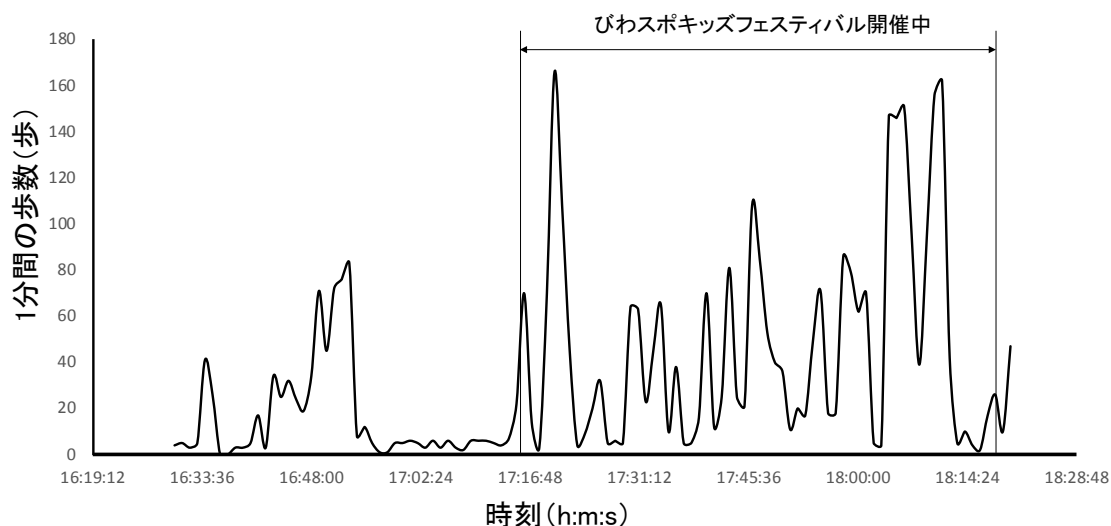


図3 びわスポキッズフェスティバル中における1分間の歩数

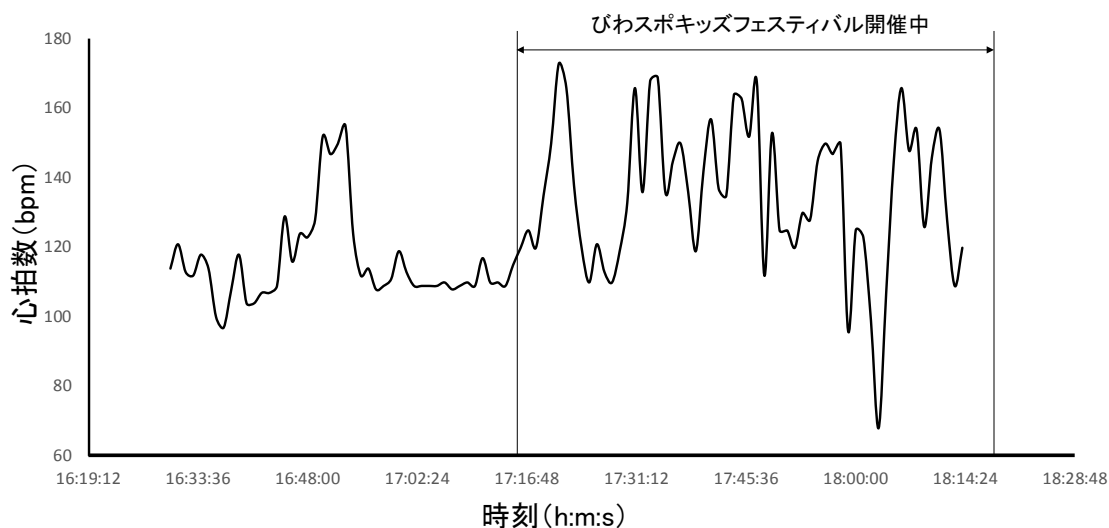


図4 びわスポキッズフェスティバル中における心拍数

### 滋賀県幼児の運動能力, 身体活動量, 睡眠の調査

#### 1. 対象

対象は, 大津市立 S 幼稚園の幼児とした。

#### 2. 研究倫理的配慮

本研究は, びわこ成蹊スポーツ大学学術研究倫理専門委員会にて倫理審査を受け, 承認(成ス第 29 号)を得て実施した。

「滋賀県幼児の運動能力, 身体活動量, 睡眠の調査」の測定協力は, 対象の幼児, 保育士, 幼稚園教諭および保護者には, 本研究の趣旨を説明した。対象の保護者に対して調査内容を書面と対象園の保護者会で説明を行い, 測定の目的と意義, 個人情報保護, 利益, 不利益, 侵襲, 安全管理, データの公表について説明を行い, 保護者から書面にて署名, 捺

印を頂き、同意を得た。

### 3. 量的・質的な評価を用いた運動能力の測定

量的な評価を用いた運動能力測定は、25m走、立ち幅跳び、ボール投げ、両足連続跳び越し、体支持持続時間、捕球の6種目を実施した(文部科学省幼児期運動指針策定委員会, 2012)。測定で得られた値は、保護者および園に測定結果とした紙面にて返却した(図5)。質的な評価を用いた運動能力測定は、移動系運動動作として走る、跳ぶ、横スライド、片足ケンケン、リープ、ギャロップの6種目、操作系運動動作として投げる、ボールキャッチ、バットイング、ボール転がし、ボールを蹴る、まりつきの6種目、合計12種目を実施した(Ulrich, 2000)。

### 4. 日常の身体活動量の測定

身体活動量の測定は、3軸方向の加速度計であるActiGraph wGT3X-BT (ActiGraph, Pensacola, FL, USA, 4.6×3.3×1.5cm,19g)を用いて、入浴、水泳以外24時間一週間連続して測定した。ActiGraph wGT3X-BTは、専用のベルトに固定し、右腰部に装着した。測定で得られた値は、保護者および園に測定結果として紙面にて返却した(図5)。

### 5. 睡眠の測定

睡眠の量的な評価は、保護者に幼児の起床時刻、就寝時刻を1分単位で記録用紙に一週間連続して記入してもらった。また睡眠の質的な評価は、3軸方向の加速度計であるActiGraph wGT3X-BT (ActiGraph, Pensacola, FL, USA, 4.6×3.3×1.5cm,19g)を用いて、睡眠中一週間連続して測定した。ActiGraph wGT3X-BTは、専用のベルトに固定し、非利き手の手首に装着した。睡眠の質的な評価は、入眠潜時(分)、睡眠効率(%), ベット内の合計時間(分)、合計睡眠時間(分)、睡眠後の覚醒時間(分)、覚醒回数(回)、平均覚醒時間(分)を分析した。

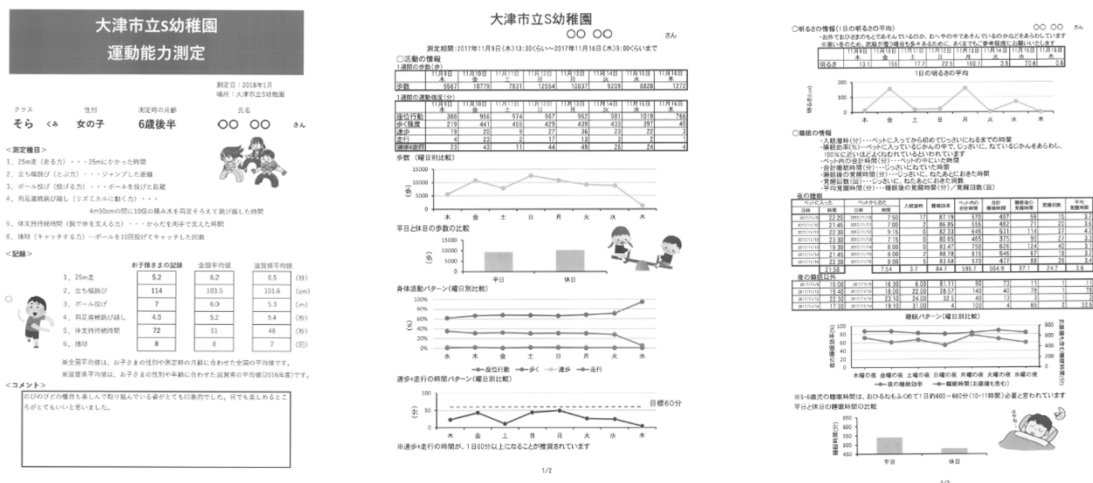


図5 運動能力測定、身体活動量および睡眠結果の返却

## Ⅲ. まとめと今後の課題

スポーツ開発・支援センターは、2017年度、滋賀県の子どもの運動能力、日常の身体活動量、生活習慣との関連性を科学的データから検証することにより、「びわスポキッズプログラム」の開発のための資料を得ることを目的として実施した。「びわスポキッズフェスティバル」

および「滋賀県幼児の運動能力，身体活動量，睡眠」の調査を行い，現状を分析している。スポーツ開発・支援センターは，次年度以降も，継続的，縦断的に科学的データを取得していこうと考えている。本事業は，社会的ニーズも高いことから，「びわスポキッズプログラム」の開発は急務であることが考えられる。

#### 謝辞

本プロジェクト研究に快くご協力頂いた幼稚園，保育所，小学校の子どもたちや保護者，測定にご多大なるご協力頂いた園長先生，主任の先生，先生方の皆様に，この場をお借りして心より感謝いたします。また「びわスポキッズフェスティバル」や「滋賀県幼児の運動能力，身体活動量，睡眠の調査」にご協力頂いた，本学学生にも感謝申し上げます。

#### 付記

本プロジェクト研究は，本学の 2017 年度学内共同研究「「びわスポキッズプログラム」事業の運動能力，身体活動量，生活習慣の効果検証」の研究助成を受けて行われたものである。





# 公開講座 事業 報告



ホノルルマラソンを目指そう!!  
2017びわスポランニング教室  
ノルディックウォーキング教室  
びわスポ水中ウォーキング教室  
びわスポ水泳教室  
びわスポキッズ水泳教室



## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	「第10回ホノルルマラソンを目指そう！！びわスポランニング教室」																																																																												
担当	渋谷俊浩、禰屋光男、佃 文子、武田哲子、坂本和大 藤松典子、藤松ゼミ補助学生																																																																												
実施日	2017年 6月10日(土)～11月25日(土) 全12回																																																																												
対象者数	26名																																																																												
場 所	本学及び本学周辺																																																																												
費 用	参加費 20,000円																																																																												
実施形態	実技、講義、実習																																																																												
概要 (活動内容)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">1</td> <td style="width: 10%;">6月10日(土)</td> <td style="width: 15%;">9:00～12:30</td> <td style="width: 30%;">提供講義 ランニング シューズの基本 ジョギング</td> <td style="width: 15%;">(株)ミズノ 藤松 典子</td> <td style="width: 25%;">講義・実技</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>6月24日(土)</td> <td>9:30～12:30</td> <td>マラソンの生理学・体力 測定</td> <td>禰屋 光男 藤松 典子</td> <td>筋トレと実技</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>7月1日(土)</td> <td>9:30～12:30</td> <td>筋カトレーニング・ジョ ギング</td> <td>坂本 和大 藤松 典子</td> <td>講義・実技</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td>7月15日(土)</td> <td>9:30～12:30</td> <td>マラソン完走のための練 習方法と実際</td> <td>渋谷 俊浩</td> <td>講義・実技</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5</td> <td>7月29日(土)</td> <td>9:30～12:30</td> <td>筋カトレーニング・ジョ ギング</td> <td>坂本 和大 藤松 典子</td> <td>実技</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6</td> <td>8月5日(土)</td> <td>9:30～12:30</td> <td>マラソンのための栄養 学・筋カトレーニング</td> <td>武田 哲子 坂本 和大</td> <td>講義・実技</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7</td> <td>9月2日(土)</td> <td>9:30～12:30</td> <td>ジョギング・マラソンの ためのピラティス</td> <td>藤松 典子</td> <td>実技</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">8</td> <td>9月30日(土)</td> <td>9:30～12:30</td> <td>長い距離を走る</td> <td>渋谷 俊浩</td> <td>講義・実技</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9</td> <td>10月7日(土)</td> <td>9:30～12:30</td> <td>マラソンのコンディショ ニング</td> <td>佃 文子</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">10</td> <td>10月21日(土)</td> <td>9:30～12:30</td> <td>レースペースで走る</td> <td>渋谷 俊浩</td> <td>実技</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">11</td> <td>11月4日(土)</td> <td>9:30～12:30</td> <td>長い時間ゆっくり走る</td> <td>藤松 典子</td> <td>実技</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">12</td> <td>11月25日(土)</td> <td>9:30～12:30</td> <td>ホノルルマラソンのため の栄養・諸連絡</td> <td>武田 哲子 藤松 典子</td> <td>講義・実技</td> </tr> </table>					1	6月10日(土)	9:00～12:30	提供講義 ランニング シューズの基本 ジョギング	(株)ミズノ 藤松 典子	講義・実技	2	6月24日(土)	9:30～12:30	マラソンの生理学・体力 測定	禰屋 光男 藤松 典子	筋トレと実技	3	7月1日(土)	9:30～12:30	筋カトレーニング・ジョ ギング	坂本 和大 藤松 典子	講義・実技	4	7月15日(土)	9:30～12:30	マラソン完走のための練 習方法と実際	渋谷 俊浩	講義・実技	5	7月29日(土)	9:30～12:30	筋カトレーニング・ジョ ギング	坂本 和大 藤松 典子	実技	6	8月5日(土)	9:30～12:30	マラソンのための栄養 学・筋カトレーニング	武田 哲子 坂本 和大	講義・実技	7	9月2日(土)	9:30～12:30	ジョギング・マラソンの ためのピラティス	藤松 典子	実技	8	9月30日(土)	9:30～12:30	長い距離を走る	渋谷 俊浩	講義・実技	9	10月7日(土)	9:30～12:30	マラソンのコンディショ ニング	佃 文子	演習	10	10月21日(土)	9:30～12:30	レースペースで走る	渋谷 俊浩	実技	11	11月4日(土)	9:30～12:30	長い時間ゆっくり走る	藤松 典子	実技	12	11月25日(土)	9:30～12:30	ホノルルマラソンのため の栄養・諸連絡	武田 哲子 藤松 典子	講義・実技
1	6月10日(土)	9:00～12:30	提供講義 ランニング シューズの基本 ジョギング	(株)ミズノ 藤松 典子	講義・実技																																																																								
2	6月24日(土)	9:30～12:30	マラソンの生理学・体力 測定	禰屋 光男 藤松 典子	筋トレと実技																																																																								
3	7月1日(土)	9:30～12:30	筋カトレーニング・ジョ ギング	坂本 和大 藤松 典子	講義・実技																																																																								
4	7月15日(土)	9:30～12:30	マラソン完走のための練 習方法と実際	渋谷 俊浩	講義・実技																																																																								
5	7月29日(土)	9:30～12:30	筋カトレーニング・ジョ ギング	坂本 和大 藤松 典子	実技																																																																								
6	8月5日(土)	9:30～12:30	マラソンのための栄養 学・筋カトレーニング	武田 哲子 坂本 和大	講義・実技																																																																								
7	9月2日(土)	9:30～12:30	ジョギング・マラソンの ためのピラティス	藤松 典子	実技																																																																								
8	9月30日(土)	9:30～12:30	長い距離を走る	渋谷 俊浩	講義・実技																																																																								
9	10月7日(土)	9:30～12:30	マラソンのコンディショ ニング	佃 文子	演習																																																																								
10	10月21日(土)	9:30～12:30	レースペースで走る	渋谷 俊浩	実技																																																																								
11	11月4日(土)	9:30～12:30	長い時間ゆっくり走る	藤松 典子	実技																																																																								
12	11月25日(土)	9:30～12:30	ホノルルマラソンのため の栄養・諸連絡	武田 哲子 藤松 典子	講義・実技																																																																								
成 果																																																																													
記録(写真)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>																																																																												


## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	「ホノルルマラソンを目指そう!! 2017びわスポランニング教室」 in HAWAII
担当	渋谷俊浩, 禰屋光男, 佃 文子, 武田哲子, 坂本和大, 藤松典子, 藤松ゼミ補助学生
実施日	2017年 12月 7日(木)~12月14日(木)
対象者数	14名
場 所	本学及び本学周辺
費 用	各自実費
実施形態	実技, 講義, 本番
概要 (活動内容)	<p>第10回「ホノルルマラソンを目指そう!! びわスポランニング教室」の集大成である「第45回 ホノルルマラソン」に参加出走。</p> <p>ランニング教室参加者の現地練習, 現地下見, コンディショニング, 出走サポート, 完走パーティー, リハビリランニング等のサポートを実施した。</p> <p>参加者14名+1名全員完走することができた。ハイウェイではお互いにハイタッチをしてエール交換が行われた。</p> <p>マラソン当日の夜は全員で完走パーティーを実施, それぞれの感想や課題, 今後の目標等について語った。</p> <p>翌朝はいつもの6時よりリハビリランニングを行いダイヤモンドヘッドまでゆっくりジョギングをした。</p>

### 成 果 記録(写真)



## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	びわスポ健やかストックウォーキング教室
担当	藤松典子
実施日	2017年 10月 19日(木)～ 12月 7日(木) 全7回
対象者数	大学近隣の大津市在住の5名
場 所	本学およびびわこ湖畔, 比良山系付近
費 用	参加費 2,000円
実施形態	実技
概要 (活動内容) 成 果	<p>参加者は、全7回の中で初回と終回に体力測定および血圧、体組成測定を実施した。毎回運動の前後に、血圧を測定し、心拍計を装着し準備運動を実施した。</p> <p>参加者は5名中4名が初心者だったので、ストックの持ち方から指導した。歩行距離は回を重ねるごとに長くなった。参加者が嫌きないようにコースは毎回少しずつ異なるコースを選択した。</p> <p>講座前後に運動への意識、生活習慣、運動習慣についてのアンケートを実施した。</p> <p>講座開始前後で、参加者の体組成にあまり変化はみられなかったが、安静時の心拍数は低下の傾向がみられ、血圧については収縮期血圧、拡張期血圧ともに有意に低下した。</p> <p>体力測定の結果では6分間歩行において歩行距離と歩幅が有意に伸び、歩幅は約10cm広がった。ストックを持って歩くことで歩幅は広がるが、それによりストックを持たなくても歩幅が広がった。また、距離も伸びたのは歩くスピードも速くなったことが考えられる。高齢者においては歩くスピードで体力の有無が推察できる。今回の講座で日ごろの歩行も速くなる効果がみられ、体力がついた事が伺えた。</p> <p>また、アンケートの結果からも「参加してよかった。」「ぎっくり腰が良くなった。」「運動習慣が身につき、運動の頻度も増えた。」「運動の意識が高まった。」という声が多数聞かれた。</p>
記録(写真)	

## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	びわスポ水中ウォーキング教室(前期10回・後期10回)
担当	白木孝尚
実施日	2017年5月12日(金)～2018年1月12日(金)
対象者数	前期 27名 後期 22名
場所	アクアセンター
費用	参加費 8,000円
実施形態	実技
概要 (活動内容)	<p>公開講座「びわスポ水中ウォーキング教室」は、地域貢献を目的とし、地域住民が健やかな生活を送るための健康維持・増進プログラムを提供している。</p> <p>主なプログラムの内容としては、体操(5分)、ウォーミングアップ(5分)、筋力強化・ストレッチ(15分)、ウォーキング(30分)、クーリングダウン・リラクゼーション(5分)であった。ウォーキングの内容は主に股関節周りの可動域を広げるもの、脚筋力の維持・向上を図るもの、運動時のバランスを養うものとした。</p> <p>前期・後期とも約3ヶ月間、参加者(地域住民)と学内の教員・補助学生が同じ教室に参加し、水中ウォーキングのプログラムを実施していく中で、参加者が自主的に自らの健康に気づくことができ、また仲間と交流することができたと考えられた。</p> <p>さらに、参加者の健康への意識が高まったことに加え、本講座を社会的コミュニティーの場としても捉え、仲間との活動を通して、精神的・社会的な健康を獲得できていることも伺えた。</p> <p>本講座はリピーターが多く参加しているため、今後は広報(宣伝)の方法を見直し、多くの新規参加者を募ることが望まれる。</p> <p>本講座が地域住民に浸透することで、多くの人が自らの健康維持・増進のための活動に積極的に参加することができるようになり、地域の活性化につながることを期待できる。</p>
成果 記録(写真)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	びわスポ水泳教室(前期8回・後期8回)
担当	村瀬 陽介, 神田 恵太
実施日	2017年5月18日(火)～2017年12月19日(火)
対象者数	前期4名 後期6名
場所	アクアセンター
費用	参加費 5,000円
実施形態	実技
概要 (活動内容)	<p>本講座は、地域住民に水泳の機会を提供することを主要な狙いとした。主な内容は、クロール、平泳ぎの泳法改善、背泳ぎ、バタフライの体験とした。</p> <p>昨年度までは長く楽に泳ぐことができるように、クロールと平泳ぎのみの指導をしていたが、今年度から背泳ぎとバタフライの体験もプログラムに取り入れた。初心者ではクロールの呼吸方法の習得に時間を要する場合もあるが、背泳ぎでは呼吸が容易である。一方、背泳ぎでは仰向け姿勢でバランスをとることが課題となる。水泳に親しむことを狙いとした場合、個人が習得しやすい泳法を選択できるようにすることは大切なことである。本講座では、数名の参加者ではクロールよりも背泳ぎで長い距離を泳ぐことができるようになった。</p> <p>数年継続して参加されている方からは、より競技志向の練習や、マスターズ大会に参加したいなどの声があった。参加者全体を見ると、継続して参加される方と新規で参加される方が半数ずつであった。今後参加者が多くなれば、それぞれのレベルにあった指導体制を整えられるようにしたい。</p>

成果  
記録(写真)





## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	びわスポキッズ水泳教室
担当	村瀬 陽介, 神田 恵太
実施日	2017年11月8日(水)～2018年1月31日(水)
対象者数	29名
場所	アクアセンター
費用	参加費 3,000円
実施形態	実技
概要 (活動内容) 成果	<p>本講座は、近隣に民間のスイミングスクールがない本学周辺の子供たちに水泳に親しむ機会を提供することを目的とした。小学校低学年以下の子供たちが楽しんで参加できるように、ボールゲームの要素も取り入れたプログラムとするため、水球教室とした。プログラムは大きく泳ぐ練習とボールゲームの二つであった。泳ぐ練習では、伏し浮き、バタ足の練習から、面かぶりクロール、呼吸、クロールの練習へと展開した。ボールゲームではボールの投げ方の練習、ゴールに向かってシュート、二人でボールを運ぶ、チームでボールを運ぶ、半面コートでのゲームなどを行った。</p> <p>初回時から泳ぐことができたグループと、泳ぐことができなかったグループに分け、それぞれのペースで練習を行った。</p> <p>教室の最初には怖くて顔を水に浸けることができない参加者も、友達とボールを追いかけるうちに顔に水がかかると気がなくなり、最後には潜ったり水に浮かんだりできるようになっていた。泳法の練習のみでは、水に対する恐怖心を取り除くことができない場合もあるが、水球を用いることで克服できるケールがあることが分かった。低年齢の参加者は初回時には保護者と離れることが寂しく、泣く子供もいたが、少しずつ慣れて教室を楽しめるようになっていた。教室全体で欠席率は低く、毎回楽しんで参加している様子であった。</p>

記録（写真）



# 地域貢献事業 報告



# 学生派遣事業



## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	びわ湖レイクサイドマラソン 走路員等ボランティア派遣
担当	スポーツ開発・支援センター 荒木初廣
実施日	2018年2月25日(日)
対象者数	レイクサイドマラソン 参加者総数 3000名程度・補助学生147名
場所	大津港・なぎさ公園周辺
費用	—
実施形態	滋賀県県民生活部スポーツ局びわ湖ロードレース実行委員会事務局要請によるボランティアの募集
概要 (活動内容)	<p>2017年12月4日発「第9回びわ湖レイクサイドマラソン2018の開催にかかる出役について(依頼)」文書により、滋賀県県民生活部スポーツ局堀江氏、櫻田氏が来校し、打ち合わせた。陸上競技部90名、サッカー部40名、硬式野球部40名の依頼を受けた。1月12日までに名簿を提出するよう要請を受けた。最終1月16日〆切。説明会は2月16日(金)本学で行うことを確認。交通費は、2,000円。最終的に協力できる人員は、陸上競技部67名、サッカー部40名、硬式野球部40名の計147名。</p> <p>※今後について          今年は雪上実習と日程が重複したこともあり、1年次生の一部が協力できない状況であった。2,000円の交通費で、ボランティアの協力を半ば強制することの限界である。3種目に限定し、各部からは好意的な姿勢で甘えているものの、派遣は難しい状況である。主催者からは、好評を得、また好評価をいただいている。本学の学生の姿勢、一生懸命さが伝わっている。現場での対応はよいものの、出務についての管理をすることも困難である。本年度から、「滋賀県スポーツボランティア支援事業」として、滋賀県スポーツボランティアの登録が必要になった。登録申請用紙を提出せずに、説明会に出席した陸上競技部の学生がいた。事務局につなぎ、当日の役務を指示していただいた。</p>
成果 記録(写真)	学生にとっては、大きな経験になり、意義は大きい。しかしながら、なぜ多人数の派遣をしなければならないのかの理由が不明であり、今後の協力を再検討しなければならない。

## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	第4回びわ湖パノラマウォーキング ボランティア派遣
担当	スポーツ開発・支援センター事務課 松井 茂孝 神田 恵太
実施日	2017年9月9日(土)10日(日)
対象者数	派遣学生各日34名 合計68名
場所	雄琴湖岸緑地公園出発 おごと温泉観光公園ゴール
費用	—
実施形態	走路員 学生派遣
概要 (活動内容) 成果	<p>初心者用の5kmコースから、ウオークマラソン42.195kmコースまで、5km, 10km, 20km, 30km, 42.195kmと様々な距離を2日間にわたって合計8コース。どのコースもびわ湖の展望や大津の歴史を楽しめるコース。</p> <p>参加者数 9日(土) 498名 10日(日) 463名 合計 961名</p> <p>走路員ボランティア 水泳部水球, 水泳部競泳, トレーニング健康コース小松ゼミの学生2日間で延べ68名が, 走路員として協力しました。</p> <p>感想 参加者が通るたびに『ありがとう』や『ご苦労様です』などこちらをすごく気にかけるお言葉をたくさん頂き嬉しかったです。他にも小学生やお年寄りの方が一生懸命頑張っているのを見て励ましの言葉をかけると, みんな笑顔で返してくれたので誘導係というかたちでやっていたよかったですと思いました。 走路員をしながら参加者のゼッケンを確認していると, 滋賀はもちろん, 千葉など全国各地から参加されてるのが一目で分かりました。</p>

### 記録(写真)



# 施設開放事業 報告





## 2017年度施設開放事業 一般開放概要

スポーツ開発・支援センターでは地域貢献の事業の一環として、地域の方を対象に一般開放を実施している。トレーニングルームは週3回一般開放を開室しており、マシンなどを利用したトレーニングや、週に1～2回運動教室を実施している。アクアセンターでも同じく週3回一般の方に開放しており、大学の先生による水泳教室・水中ウォーキング教室も別途行われている。これらの一般開放を利用することにより、運動習慣の定着、健康増進への効果が期待される。

事業名	施設開放事業（大学内スポーツ施設開放）
担当 及び スタッフ	坂本 和大(トレーニングルーム担当) , 神田 恵太(アクアセンター担当) (スポーツ開発・支援センター事務課)
実施日	通年（但し、大学行事等の際は除く）
対象	地域住民
開放時間	(原則) 午前の部9:00～12:00 , 午後の部13:00～16:00
場所	トレーニングルーム, アクアセンター, その他スポーツ施設(グラウンド・体育館 他)
利用料	トレーニングルーム250円/1回, アクアセンター大人:500円/1回・小人:200円/1回 (上記以外の施設については学校法人大阪成蹊学園規程に従い徴収)



# スポーツ開発・支援センター 施設開放事業 利用状況一覧

2018年3月31日

(人)

年間利用者数推移(2009年度～2017年度)			
年度	トレーニング ルーム	アクア センター	計
2009	547	637	1,184
2010	727	1,043	1,770
2011	802	1,126	1,928
2012	963	1,260	2,223
2013	1,932	1,659	3,591
2014	1,826	1,466	3,292
2015	1,568	1,543	3,111
2016	1,858	1,608	3,466
2017	1,638	1,817	3,455
合計	11,861	12,159	24,020

(人)

2017年度 月別利用推移			
月	トレーニング ルーム	アクア センター	計
4月	152	178	330
5月	163	169	332
6月	248	230	478
7月	157	237	394
8月	33	76	109
9月	116	220	336
10月	141	154	295
11月	167	181	348
12月	130	120	250
1月	67	85	152
2月	85	61	146
3月	179	106	285
合計	1,638	1,817	3,455

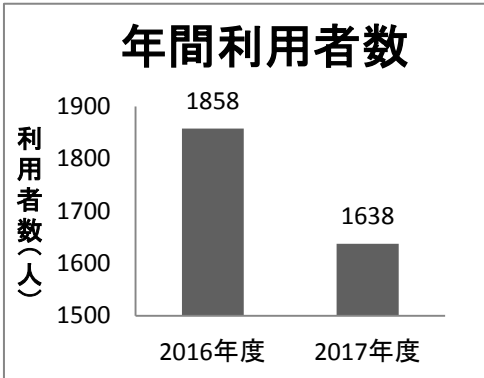

## NPO法人BIWAKO SPORTS CLUB(総合型地域スポーツクラブ) スポーツ教室利用

教室名	使用会場	使用回数
バスケットボール教室	メインアリーナ	47回
フットサル教室	マルチアリーナ	25回
陸上スクール	陸上フィールド	33回
陸上アスリートスクール	陸上フィールド	32回
サッカー教室	サッカーフィールド	11回
サッカー練習	多目的グラウンド	26回

## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	アクアセンター報告																																																											
担当	神田 恵太																																																											
実施日	2017年4月1日（土）～ 2018年3月31日（土）																																																											
対象者数	1,817名																																																											
場所	びわこ成蹊スポーツ大学 アクアセンター																																																											
費用	大人 500円/1回 子ども 200円/1回																																																											
実施形態	地域住民に対して、授業等の空き時間でアクアセンターを開放。																																																											
概要 (活動内容)	<p>平成29年度は、10月に起きた台風被害で約2週間、一般開放が出来なく地域の皆様へご迷惑をおかけした時期もありましたが、これまでどおり事故もなく安全に配慮した円滑な管理運営ができたことにより、利用者数の増加に繋がっていると思います。利用者数については以下のとおりです。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">月</th> <th>2015年度</th> <th>2016年度</th> <th>2017年度</th> </tr> <tr> <th>一般開放人数</th> <th>一般開放人数</th> <th>一般開放人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4</td><td>135</td><td>205</td><td>178</td></tr> <tr><td>5</td><td>90</td><td>180</td><td>169</td></tr> <tr><td>6</td><td>182</td><td>195</td><td>230</td></tr> <tr><td>7</td><td>176</td><td>237</td><td>237</td></tr> <tr><td>8</td><td>107</td><td>58</td><td>76</td></tr> <tr><td>9</td><td>103</td><td>127</td><td>220</td></tr> <tr><td>10</td><td>124</td><td>180</td><td>154</td></tr> <tr><td>11</td><td>115</td><td>160</td><td>181</td></tr> <tr><td>12</td><td>90</td><td>148</td><td>120</td></tr> <tr><td>1</td><td>119</td><td>30</td><td>85</td></tr> <tr><td>2</td><td>154</td><td>42</td><td>61</td></tr> <tr><td>3</td><td>148</td><td>46</td><td>106</td></tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,543</td> <td>1,608</td> <td>1,817</td> </tr> </tbody> </table> <p>毎年、利用数が増加しているが、より良く利用していただくために①プールサイドの高温対策(夏場になると室温が高くなり、熱中症の恐れあり)②更衣室の暖房設備(冬場更衣室の気温が大変低く、プールとの温度差によりヒートショックの危険があり)について対策をしていく必要があると思います。</p>	月	2015年度	2016年度	2017年度	一般開放人数	一般開放人数	一般開放人数	4	135	205	178	5	90	180	169	6	182	195	230	7	176	237	237	8	107	58	76	9	103	127	220	10	124	180	154	11	115	160	181	12	90	148	120	1	119	30	85	2	154	42	61	3	148	46	106	合計	1,543	1,608	1,817
月	2015年度		2016年度	2017年度																																																								
	一般開放人数	一般開放人数	一般開放人数																																																									
4	135	205	178																																																									
5	90	180	169																																																									
6	182	195	230																																																									
7	176	237	237																																																									
8	107	58	76																																																									
9	103	127	220																																																									
10	124	180	154																																																									
11	115	160	181																																																									
12	90	148	120																																																									
1	119	30	85																																																									
2	154	42	61																																																									
3	148	46	106																																																									
合計	1,543	1,608	1,817																																																									
成果	<p>昨年以上に安心・安全に配慮した施設管理を行うことができたことにより、利用人数が増やすことができました。新たな取り組みは少ないですが、日常の点検などを確実に行った結果、大きな事故もなく1年を終えることができました。今後とも気を緩めることなく、安心・安全かつ快適に施設を利用できるよう努めてまいります。</p>																																																											

## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	トレーニングルーム報告						
担当	坂本 和大						
実施日	2018年4月～2019年3月						
対象者数	1,638名						
場 所	トレーニングルーム						
費 用	250円/1回						
実施形態	地域住民に対して、学生の利用の少ない時間帯を開放						
概 要 (活動内容)	<p>トレーニングルームの一般開放は月・水・金の週三回(午前9:00～12:00, 午後13:00～16:00)で開室しており, 地域の一般会員の方が利用するには, 初心者講習会を受講する必要がある.</p> <p>本年度の利用者推移をみると, 年間で1638人が利用し, 授業期間中は約153人/月, 長期休暇期間中は約103人/月が利用している. 総利用者数の前年度比は88%と低下している. これは①授業の関係上, 水曜日が午後のみ開館もしくは一日閉館したことや②台風の影響により中期的に閉室していたこと③長期休暇期間中の開室日数が前年度に比べ, 減少したことが利用者数の低下の原因と考えられる. また9月から初心者講習会を毎月から2ヶ月に一回に変更したため, 新規一般会員があまり増加しなかった.</p> <p>本年度の新たな取り組みとして2月から一般開放会員を対象とした運動教室をダンス場で週に1回を目処に実施した. これは, 学生利用と一般利用が混雑し安全を確保できないという問題を改善するためや一般利用の方の健康増進を目的に開始した. 開始して間もなく, 多くの利用者が参加し, 高い評判を得ている. 教室参加率は, トレ室利用者の約8割が参加している. 来年度も継続する予定ではあるが授業期間中は授業との兼ね合いもあり, 調整が必要である.</p>						
成 果	一般開放会員を対象とした, 運動教室を新たに企画し, 2月から実施した.						
記録(写真)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p><b>年間利用者数</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>利用者数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2016年度</td> <td>1858</td> </tr> <tr> <td>2017年度</td> <td>1638</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="text-align: center;">  <p>運動教室の様子</p> </div> </div>	年度	利用者数(人)	2016年度	1858	2017年度	1638
年度	利用者数(人)						
2016年度	1858						
2017年度	1638						

スポーツ開発・支援センター  
アカデミックプログラム

産官学連携事業



# 産学官連携事業 報告





# 自治体連携事業



## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	大津市運動部活動外部指導者(大学生)活用事業
担当	スポーツ開発・支援センター 荒木初廣
実施日	2017年4月1日～2018年3月31日
対象者数	当初 17名の派遣であったが、最終的に20名となった。別添名簿のとおり、志賀中学校より要請があり、ソフトテニスの指導者3名を追加で派遣した。
場所	大津市立 中学校
費用	—
実施形態	大津市との連携協定に基づく、運動部活動外部指導者活用事業
概要 (活動内容)	<p>大津市教育委員会からの要請を受け、中学校推薦とは別に、大津市内の中学校から要請のあった種目の外部指導者を募った。葛川中学校への派遣は困難であり、派遣学生の交通手段として、最寄り駅からの移動手段がないため、派遣を見送ることとした。また、派遣することとなった学生を集め、事前研修として、川合学校スポーツコース主任にレクチャーを担当いただいた。</p> <p>学生の派遣の掌握が困難であり、前期終了時点で学生を集めて、懇談する必要性を感じた。派遣することは重要であるが、派遣したあとのフォローアップが重要であると認識した。</p> <p>派遣先でトラブルが生じないように、学生とコンタクトを密にして、問題が生じないために対策が必要である。</p>
成果 記録(写真)	



## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	長浜市ジュニアアスリート育成プログラム 講師派遣																																								
担当	北村哲, 山田庸, 藤林献明, 藤松典子, 大西祐司, 高松靖																																								
実施日	「長浜ジュニアアスリートトレーニング」 6/28, 7/12, 7/26, 8/9, 9/13, 10/11, 11/8, 12/13, 1/10, 2/14の計10回 「長浜ジュニアアスリート選考体験会」 6/7, 6/14, 8/2の計3回																																								
対象者数	長浜ジュニアアスリートトレーニング: 31名 長浜ジュニアアスリート選考体験会: 12名																																								
場所	長浜市民体育館および木之本体育館																																								
費用	長浜市予算																																								
概要 (活動内容)	<p><b>【事業および活動の説明】</b>          本事業は、長浜市と本学の連携事業の一環として、2015年度から実施されており、2017年度で3年目の取り組みとなる。この2017年度の連携事業に際して、スポーツ開発・支援センターでは、長浜市からの要請を受け、主に2つの取り組みを実施した。1つ目は、長浜市の小学校3・4年生を対象に月1回のペースで年10回のトレーニングを行う「長浜ジュニアアスリートトレーニング」、もう1つは、滋賀県体育協会が主催するレイキッズ選考会での合格を目指し、小学校5年生を対象とした短期教室の「長浜ジュニアアスリート選考体験会」である。長浜市としては、前者のプログラムにおいて参加者の運動能力・体力について幅広く向上を目指し、その中でも有望である対象者が、翌年(もしくは翌々年)の5年生次にレイキッズ選考会の合格に向けて後者のプログラムを受講し、合格を目指すといった一連の流れをイメージしている。本事業は、この長浜市の取り組みに、本学各教員が各専門領域を活かして協力するだけでなく、アカデミックな取り組みを通して、新たなジュニアの運動能力の向上と評価といった一連のプログラム構築を目指す事業である。</p> <p><b>【長浜ジュニアアスリートトレーニングについて】</b>          1. これまでの展開と2017年度の取り組み          一昨年度は、スポーツスキルの基礎となる走運動と跳躍運動に特化し、昨年度はコーディネーションの要素を含め、多くのスポーツ種目で必要となるフットワーク能力に特化した内容であった。いずれも参加者の運動能力の向上が見られ、月1回でありながらもプログラムの効果を実証されている(2016年度の効果について、「運動時間を考慮した前方・側方・上方への伸張-短縮サイクル運動の遂行能力と各種フットワーク能力との関係: 小学校3・4年生を対象として」という題目で2017年度本学の研究紀要に掲載予定)。          2017年度の狙いは、さらに運動能力の範囲を拡げ、「巧みなスポーツ動作のベースとなる多様な運動を体験し、優れたスポーツ選手に必要な調整能力(コーディネーション能力)を育む」であった。最近のジュニアは、特定種目への専門化が早まり、できる運動とできない運動のスキル差が大きい子が多いこと、またそのようなジュニアは後々運動スキルの乏しさにより、成長期以降、伸び悩むことが多いといった昨今のスポーツ環境を鑑み、長浜市担当者との協議から、豊富な運動スキルを獲得により、このような状況を打破しようという狙いを立てた。以上から、2017年度は運動能力の基礎全般にわたる内容を体験方式にて8回実施した。主な担当者とテーマは、図のプログラム内容の概要の通りであるが、自身の身体のコントロールを徐々に複雑化し、後半では道具の操作や外的環境への対応といった認知判断の伴うものへ発展させるプログラム構成とした。</p>																																								
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">回数</td> <td style="width: 20%;">2</td> <td style="width: 20%;">3</td> <td style="width: 20%;">4</td> <td style="width: 20%;">5</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>藤松</td> <td>大西</td> <td>高松</td> <td>藤林</td> </tr> <tr> <td>テーマ</td> <td>自分の身体を意識的にコントロールできる</td> <td>自分の身体を意識的にコントロールできる</td> <td>自分の身体をダイナミックにコントロールできる</td> <td>自分の身体をダイナミックにコントロールできる</td> </tr> <tr> <td>テーマキーワード</td> <td>リズム</td> <td>複合的、応用的</td> <td>体操的、重心コントロール</td> <td>走、跳</td> </tr> <tr> <td>回数</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>北村</td> <td>北村</td> <td>山田</td> <td>山田</td> </tr> <tr> <td>テーマ</td> <td>上肢や用具を自由にコントロールできる</td> <td>複合運動において自由にコントロールできる</td> <td>下肢の自由なコントロールと複合運動ができる</td> <td>集団の中で課題に合わせてコントロールできる</td> </tr> <tr> <td>テーマキーワード</td> <td>投、グレーディング、用具</td> <td>方向変換、複合的</td> <td>方向変換、複合的</td> <td>状況判断</td> </tr> </table>	回数	2	3	4	5	担当	藤松	大西	高松	藤林	テーマ	自分の身体を意識的にコントロールできる	自分の身体を意識的にコントロールできる	自分の身体をダイナミックにコントロールできる	自分の身体をダイナミックにコントロールできる	テーマキーワード	リズム	複合的、応用的	体操的、重心コントロール	走、跳	回数	6	7	8	9	担当	北村	北村	山田	山田	テーマ	上肢や用具を自由にコントロールできる	複合運動において自由にコントロールできる	下肢の自由なコントロールと複合運動ができる	集団の中で課題に合わせてコントロールできる	テーマキーワード	投、グレーディング、用具	方向変換、複合的	方向変換、複合的	状況判断
回数	2	3	4	5																																					
担当	藤松	大西	高松	藤林																																					
テーマ	自分の身体を意識的にコントロールできる	自分の身体を意識的にコントロールできる	自分の身体をダイナミックにコントロールできる	自分の身体をダイナミックにコントロールできる																																					
テーマキーワード	リズム	複合的、応用的	体操的、重心コントロール	走、跳																																					
回数	6	7	8	9																																					
担当	北村	北村	山田	山田																																					
テーマ	上肢や用具を自由にコントロールできる	複合運動において自由にコントロールできる	下肢の自由なコントロールと複合運動ができる	集団の中で課題に合わせてコントロールできる																																					
テーマキーワード	投、グレーディング、用具	方向変換、複合的	方向変換、複合的	状況判断																																					

## スポーツ開発・支援センター事業報告書

概 要  
(活動内容)

### 2. 活動の成果および検証から

8回のトレーニングの成果として(年間プログラムの前後でトレーニングの効果検証のためのテストを実施している), 上手く自分の身体をコントロールできるかの指標である「身のこなしテスト」の横方向および前方向へのくぐり区間のタイムが有意に速くなった。これらのテストに直接関わるプログラムは実質なかったものの, 多様な運動体験が『しゃがむ』『立ち上がる』『かわす』といった動きに転化されたことが伺える。幅広い運動能力を段階的に体験させる一連のプログラムは「身のこなし」という運動要素の向上に対して一定のトレーニングの効果を与えたと考えられる。同じ内容を反復するのではなく, 各運動要素1回の体験型のプログラム展開は, 低年齢へのトレーニングにおいて有用であり, 今後活用できることを実証できたことは非常に有意義であった。

一方で競技スポーツの基礎となる走・跳に関するテストのほとんどで変化が見られなかった(低下しているものも見られる)。昨年度までは, これらの能力には向上が見られていた(成長の要因か, トレーニング効果であるかの判別はできていない)。2017年度については, 走・跳に関するトレーニングが1回のみであったことが影響したと推察される。また2017年度はプログラムがどの程度効果的であったかを検証するために各プログラムを指導者自身にVAS(視覚的アナログ尺度)を用いてプログラム開始時前半と後半の出来栄えについて記録してもらったところ, 「滑らかな動き」「弾みながらの移動」「高く跳ぶ」「二人組でのトレーニング」において学習効果が顕著に低かった。以上を踏まえると, トレーニング効果や学習効果が低い運動能力の要素については複数回の反復したトレーニングが必要であると考え。それに加え, 効果が低い要因について, 長浜ジュニア参加者の運動経験との関連性も含め今後検証することが必要である。

本年度の効果と昨年度までの効果を考慮すると, 今後の方策として, 学年別にトレーニング内容を分けることが有用ではないかと考える。脳が柔らかく, より神経系の刺激を受けやすいとされる3年生には今年度と同じような豊富な運動経験を求め, 多くのジュニアにおいて種目の専門化が始まる4年生については, スポーツ競技のベースとなる走・跳また投などの向上を求めるといった流れで進めることは効果的ではないだろうか。


### 【長浜ジュニアアスリート選考体験会について】

滋賀県レイキッズ選考会と同様のテスト種目について, テストに含まれるコツの指導やテストの反復練習を実施した。選考体験会を受講した12名の内, 1次選考会を通過した者が5名, 2次を通過したものが3名であった。効果については検証が難しいものの, 次年度以降についても受講者の運動の特徴とテスト種目のギャップを把握したプログラム展開が必要である。

記録(写真)



## スポーツ開発・支援センター事業報告書

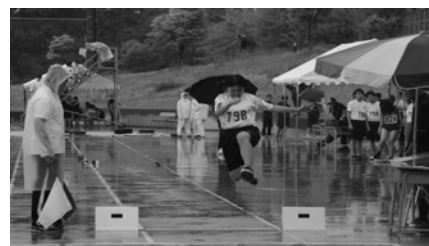
事業名	ながはまスポーツキッズフェスティバル報告
担当	スポーツ開発・支援センター 指導者 学生57名
実施日	2017年 9月3日(日) 17:00~19:00
対象者数	4歳児46名, 5歳児64名, 1年44名, 2年23名, 3年21名 合計198名 ※211名
場所	神照運動公園 長浜市神照町208-1
費用	無料
実施形態	実技
概要 (活動内容) 成果	<p>・開会式参列者:長浜市市長 藤井勇治 長浜市教育委員会教育長 北川貢造 長浜市体育協会会長 有木重夫 スポーツ少年団本部長 八田忠士 スポーツ振興課課長 伊藤治仁 びわこ成蹊スポーツ大学学長 嘉田由紀子 びわこ成蹊スポーツ大学 スポーツ開発・支援センター副センター長 望月聡</p> <p>9月3日(日), 長浜市委託事業として, 「ながはまスポーツキッズフェスティバル」を開催した。 今回のフェスティバルでは, 「びわスポキッズプログラム」と「長浜市スポーツ少年団体験教室」を同時開催。年中(4歳児)~小学3年生までのキッズが198名が集まり, 盛大なフェスティバルとなった。当日はナイターでの実施に加え, 台風が過ぎ去った影響もあり, とても涼しく, 爽やかな空気の中で子どもたちは笑顔いっぱい芝の上を走り回っていた。 また, 藤井長浜市長様ほか, 長浜市各関係団体からも多くのご来場をいただき, 大盛況のうちに終了することができた。 参加された保護者からは, 実施後のアンケートの中で「子どもがいきいき活動していてよかった」「学生さんにも優しくしてもらったようでとても喜んでいました」「来年は4年生で参加できないのが残念です」といったご意見をいただいた。 また, 今後のびわスポキッズプログラムの発展のため, 一部の子どもたちの運動活動量と心拍数を計測させていただいた。計測で得たデータは今後の教育・研究活動に活用予定である。</p>
記録(写真)	



## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	第70回滋賀県中学校夏季総合体育大会 第1ブロック陸上競技の部兼学年別選手権大会
担当	スポーツ開発・支援センター 陸上競技部学生 29名
実施日	2017年6月7日(水)
対象者数	高島市中学生 250名
場所	びわこ成蹊スポーツ大学陸上フィールド
費用	無料
実施形態	陸上競技大会
概要 (活動内容) 成果	<p>雨の降りしきる中、滋賀県中学校夏季総合体育大会第1ブロック陸上競技の部兼学年別選手権大会を、びわこ成蹊スポーツ大学陸上フィールドで開催した。本大会は2017年で70回目を迎える歴史ある大会ではある。昨年までは高島市立今津中学校で開催していたが、2016年12月26日に「高島市とびわこ成蹊スポーツ大学との連携・協力に関する協定」の締結により、今回の大学開催にいたった。</p> <p>開会式では、高島市上原重治教育長および大会長中村久昭朽木中学校校長、本学学長嘉田由紀子から挨拶があり、雨の中での開催に生徒たちへ激励の言葉がかけられていた。当日は250名の高島市中学生が参加し、高島市中学校教諭ほか本学29名の学生陸上部員が、補助員および審判にあたった。また、大勢の中学生の保護者も応援にかけつけ、大会記録等も生まれ、雨を感じさせない大変活気のある盛況な大会であった。</p>

### 記録(写真)



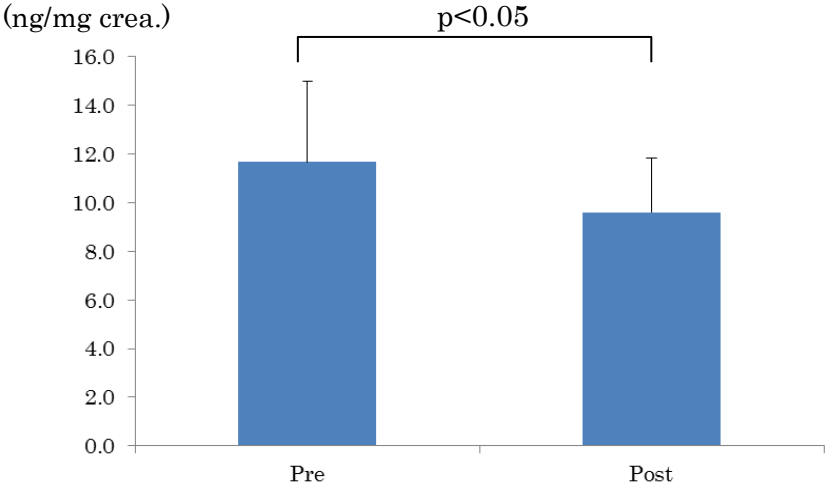
# 受託研究



## スポーツ開発・支援センター事業報告書

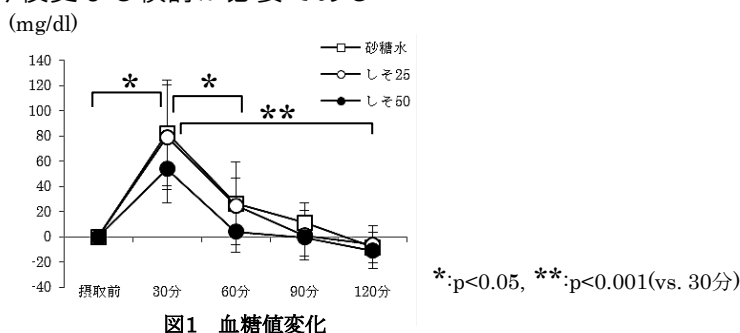
事業名	「インソールの違いが体幹及び下肢の動作と筋活動に及ぼす影響について」
担当	高橋佳三
実施日	2017年7月3日(月)～2018年2月4日(日)
対象者数	15名
場所	B101
費用	470,000円
実施形態	委託研究, 三次元動作分析
概要 (活動内容)	<p>モリト株式会社の制作する「is-fit 腰痛予防」インソールの有無により、膝・腰への負担が軽減されるかどうかを検討した。</p> <p><b>【方法】</b> 被験者15名に、モリト社製インソールと通常インソールを装着した靴で5mほどの通常歩行、ゆっくり歩行、軽いジョグを行わせた。三次元モーションキャプチャーシステム(Qualysis社製赤外線モーションキャプチャーシステム)、筋電図計(Biometrics社製EMGアンプSX230-1000)、地面反力計(AMTI社製BP600-1200)を用いて歩行動作を計測した。さらに、主観的努力度を試技毎に被験者に問い、口頭で回答させた。</p> <p><b>【結果】</b></p> <p>1. ゆっくり歩行 ゆっくり歩行において、モリト社製インソール装着によって7つの筋肉で筋電位が減少したのが1名、6つの筋肉で減少が見られたのが3名であった。ゆっくり歩行では、主に腓腹筋外側、大殿筋、外側広筋において筋電位の減少が見られた。 地面反力では、モリト社製インソール装着時の方が接地時間がやや長い被験者が14名中8名であった。地面反力の大きさ及び立ち上がり(衝撃)については統一的な傾向は見られなかった。</p> <p>2. 通常歩行 通常歩行において、モリト社製インソール装着によって7つの筋肉で筋電位が減少したのが1名、6つの筋肉で減少が見られたのが1名であった。すべての筋肉において筋電位の減少が見られなかった被験者はいなかった。通常歩行では、主に外側広筋、大殿筋において筋電位の減少が見られた。 モリト社製インソール装着により、主観的努力度が有意に減少する傾向が示された(<math>p &lt; 0.1</math>) 地面反力では、モリト社製インソール装着によって接地時間がやや長くなった被験者が14名中7名であった。地面反力の大きさ及び立ち上がり(衝撃)については統一的な傾向は見られなかった。</p> <p>3. 軽いジョグ 軽いジョグにおいて、モリト社製インソール装着によって6つの筋肉で筋電位が減少したのが1名、5つの筋肉で減少が見られたのが2名であった。軽いジョグでは、主に腓腹筋外側、大殿筋において筋電位の減少が見られた。 地面反力では、モリト社製インソール装着によって接地時間がやや長くなった被験者が14名中6名であった。地面反力の大きさ及び立ち上がり(衝撃)については統一的な傾向は見られなかった。</p> <p><b>【結論】</b> モリト社製インソール装着により特定の筋肉において筋電位の減少が見られ、さらに通常歩行では主観的努力度が有意に低値を示す傾向が示された。このことから、「モリト社製インソール装着により被験者の負担が軽減する」という仮説は支持されたといえるだろう。また、地面反力には統一した傾向は見られなかったものの、それぞれの試技で地面反力が大きくなるという変化はほとんど見られなかった。そのため、モリト社製インソールによって、主に腓腹筋外側、大殿筋、外側広筋の負担が軽減する可能性は示された。さらに、地面反力が通常のインソールに比べて大きくなることはないことが示された。 しかし、5%を超えるほどの変化の見られた被験者は少なく、またゆっくり歩行と軽いジョグでは主観的運動強度には差が見られなかったため、実験方法等、今後検討する必要があるだろう。</p> <p>本研究の成果は、2018年2月4日(日)、モリト株式会社に報告書として提出した。モリト株式会社の販売するインソールのパッケージに、本研究で得られた地面反力のデータと本学大学名が記載されることとなった。</p>
成 果	

## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	「ロズマリン酸サプリメントの抗酸化作用の検証」						
担当	武田哲子						
実施日	2018年 2月 13日(火)～2018年 3月 31日(土)						
対象者数	9名						
場所	びわこ成蹊スポーツ大学						
費用	200,000円						
実施形態	委託研究, サプリメントの摂取効果検証実験						
概要 (活動内容)	<p>【方法】実験は2018年2月～3月に行った。被験者は40～50歳代の健康な女性9名とした。被験者にはロズマリン酸含有サプリメント（DHC社製「シソの葉エキス」）を1ヶ月継続的に摂取してもらい、活性酸素による生体損傷を尿中8-OHdGをマーカーとし、サプリメント摂取前後に尿検査を実施して測定した。</p> <p>【結果】サプリメント摂取前後の尿中8-OHdG（クレアチニン補正）の変化を図1に示した。サプリメント摂取前と比較して摂取後の値は有意な低値を示した（<math>p &lt; 0.05</math>）。先行研究においてもロズマリン酸による抗酸化作用が報告されていることから1), 本実験の対象者においても1ヶ月のサプリメント摂取において生体の酸化損傷が抑えられたと考えられる。</p> <div style="text-align: center;">  <p>(ng/mg crea.)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Condition</th> <th>Mean Value (ng/mg crea.)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Pre</td> <td>~11.8</td> </tr> <tr> <td>Post</td> <td>~9.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>図1 尿中8-OHdG</p> </div>	Condition	Mean Value (ng/mg crea.)	Pre	~11.8	Post	~9.6
Condition	Mean Value (ng/mg crea.)						
Pre	~11.8						
Post	~9.6						
成果 記録 (写真)	赤しそジュースに多く含まれるロズマリン酸の抗酸化作用を明らかにした。						

## スポーツ開発・支援センター事業報告書

事業名	「赤しそジュースの血糖上昇抑制効果の検証」
担当	武田哲子
実施日	2018年 2月 13日(火)～2018年 3月 31日(土)
対象者数	7名
場所	びわこ成蹊スポーツ大学
費用	76,000円
実施形態	委託研究, 飲料摂取の効果検証実験
概要 (活動内容)	<p>【方法】被験者は糖代謝異常のない健康な大学生7名とした。対象者には実験前日に指定された時間(21時)までに夕食をとってもらい、以降実験までは水以外の飲食を控えてもらった。実験当日の朝、血糖値を測定後、指定した飲料を飲んでもらいその後30分ごと、2時間後まで合計4回血糖値を測定した。血糖値測定は自己血糖測定装置を用いて行った。試験飲料は3種類とし、①砂糖水(グラニュー糖使用, 合計500ml)、②赤しそジュース25ml含有砂糖水(以下、しそ25, 合計500ml)、③赤しそジュース50ml含有砂糖水(以下、しそ50, 合計500ml)をそれぞれランダムに摂取してもらった。各飲料には糖分が75g含まれるように調整した。</p> <p>【結果】摂取前の血糖値からの変化量を図1に示した。2要因の分散分析の結果、飲料に有意傾向の主効果が認められ、しそ50の飲料がしそ25の飲料よりも低値傾向(<math>p=0.075</math>)を示した。また、時間要因に有意な主効果が認められ、血糖の変化値は飲料摂取後30分に有意な高値を示し、その後30分以降有意な低値を示した。先行研究では、ラットにおいてローズマリン酸多含量シソ抽出物希釈液摂取が食後血糖値上昇抑制作用を示すことが報告されている。本研究の結果においても、赤しそジュースを最も多く含む飲料において血糖上昇が緩やかな傾向が示されたことは、赤しそに含まれるローズマリン酸の糖吸収抑制作用を示唆している。一方で、本研究で用いた赤しそジュースは糖分に甜菜糖を用いている。甜菜糖にはオリゴ糖が5%以上含まれており、オリゴ糖は難消化性の生理効果が確認されつつあることから、本研究の結果も、赤しそジュースに含まれるオリゴ糖の効果である可能性も考えられ、今後更なる検討が必要である。</p>
成果 記録(写真)	赤しそジュース摂取による血糖上昇抑制効果の可能性を示唆した。





# 2017年度 事業報告





2017年度 スポーツ開発・支援センター事業一覧

【自主事業】

びわスポキッズプログラム事業

事業名	開催日	場所	指導回数	全参加者数	派遣学生数
巡回指導	通年	保育園・幼稚園 こども園 他	60回	延べ1143名	延べ196名

事業名	開催日	累積開催回数	開催場所	参加動員数	指導学生数
びわスポキッズ フェスティバル	9月3日	第36回	神照運動公園	198名	57名
	9月30日	第37回	安曇川スポーツセンター	67名	30名
	10月15日	第38回	三ツ池運動公園	126名	50名
	11月19日	第39回	びわこ成蹊スポーツ大学	230名	57名
合計				延べ621名	延べ194名

事業名	開催日	担当	場所	対象KF会場	参加学生数
びわスポキッズ フェスティバル 事前研修 及び 打合せ	7月28日	中山 亮	支援センター会議室	長浜市会場	4名
	8月29日		第2ホール	長浜市会場	56名
	9月25日		支援センター会議室	高島市会場	6名
	9月28日		第2ホール	高島市会場	28名
	10月3日		支援センター会議室	草津市会場	7名
	10月12日		第2ホール	草津市会場	49名
	11月7日		支援センター会議室	大津市会場	10名
	11月16日		第2ホール	大津市会場	57名
合計					延べ217名

事業名	開催日	担当	開催場所	参加者数
キッズリーダー 研修会	4月21日	山田 庸	大ホール	270名
	11月30日	原口淳次 BIWAKO SPORTS CLUB	大ホール	11名
	3月31日	滋賀県サッカー 協会	メインアリーナ 第1ホール	80名
合計				延べ361名

2017年度 スポーツ開発・支援センター事業一覧

公開講座事業

講座名	参加人数	開催日・開催期間	担当者
「ホノルルマラソンを目指そう！！ ランニング教室」	24名	6月10日～11月25日 全12回	藤松 典子他
「ホノルルマラソンを目指そう！！ ランニング教室」in HAWAII	14名	12月7日～12月14日	藤松 典子
前期 水中ウォーキング教室	27名	5月16日～6月13日 全5回	白木 孝尚
前期びわスポ水泳教室	4名	10月20日～12月15日 全8回	村瀬 陽介他
びわスポストックウォーキング教室	5名	10月19日～12月7日 全5回	藤松 典子
後期 水中ウォーキング教室	27名	10月13日～1月12日 全10回	白木 孝尚
後期びわスポキ水泳教室	6名	10月17日～11月28日 全8回	村瀬 陽介他
後期びわスポキッズ水球教室	29名	11月8日～1月31日 全7回	村瀬 陽介他
合計	136名		

2017年度 スポーツ開発・支援センター事業一覧

【共同事業】

2017年度(平成29年度) ジュニアアスリート育成プログラム

1.長浜市ジュニアアスリートトレーニング

開催日	場 所	参加動員数	担当	内容 キーワード/テーマ
6月7日	長浜市民体育館 アリーナ	12名	山田 庸 藤林 献明	滋賀県次世代アスリート発掘育成プロジェクト 1次試験対策教室
6月14日	木之本運動広場体育館	6名	北村 哲 藤林 献明	滋賀県次世代アスリート発掘育成プロジェクト 1次試験対策教室
8月2日	木之本運動広場体育館	8名	北村 哲 山田 庸	滋賀県次世代アスリート発掘育成プロジェクト 2次試験対策教室
合 計		26名	6名	

2.長浜市ジュニアアスリートトレーニング

開催日	場 所	参加動員数	担当	内容 キーワード/テーマ
6月28日	長浜市民体育館 アリーナ	33名	藤林 献明 大西 祐司 北村 哲	クイックネステスト測定
7月12日	木之本運動広場体育館	31名	藤松 典子	リズム/自分の身体を意識的にコントロールできる
7月26日	木之本運動広場体育館	31名	大西 祐司	複合的、応用的/自分の身体をダイナミックにコントロールできる
8月9日	木之本運動広場体育館	26名	高松 靖	体操的、重心コントロール/自分の身体をダイナミックにコントロールできる
9月13日	長浜市民体育館 アリーナ	30名	藤林 献明	自分の身体をダイナミックにコントロールできる
10月11日	長浜市民体育館 アリーナ	26名	山田 庸	方向変換、複合的/下肢の自由なコントロールと複合運動ができる
11月8日	長浜市民体育館 アリーナ	29名	北村 哲	投、グレーディング、用具/上肢や用具を自由にコントロールできる
12月13日	長浜市民体育館 アリーナ	25名	北村 哲	方向転換、複合的/複合運動において自由にコントロールできる
1月10日	長浜市民体育館 アリーナ	32名	山田 庸	状況判断/集団の中で課題に合わせてコントロールできる
2月14日	長浜市民体育館 アリーナ	30名	藤林 献明 大西 祐司 北村 哲	クイックネステスト測定
合 計		293名	14名	



2017年度 スポーツ開発・支援センター事業一覧

【受託事業】

産学官連携事業

受託研究 研究名	研究期間	企業・団体等	担当教員	受託費
「インソールの違いが体幹及び下肢の動作と筋活動に及ぼす影響について」	7月28日 ～ 3月31日	モリト株式会社	高橋 佳三	¥473,000
「赤しそジュースの血糖上昇抑制効果の検証」	2月13日 ～ 3月31日	一般社団法人比良里山クラブ	武田 哲子	¥83,600
「ロズマリン酸サプリメントの抗酸化作用の検証」	2月13日 ～ 3月31日	一般社団法人比良里山クラブ	武田 哲子	¥473,000

【地域事業】

学生派遣事業

期日・期間	事業内容	場所	内容	担当教員 ・学生
6月10日(土) ～8/13(日) 全8回 午前午後	学生派遣	滋賀県各地区 体育館	レイキッズ選考会 測定補助員	延べ94名
7月24日(月)～ 8月25日(金) 午前中	学生派遣	唐崎小学校 唐崎中学校	未来サポート教室 (寺子屋プロジェクト)	3名
8月18日(金) 午前9時～11時30分	学生派遣	和邇小学校体育館	わにっ子広場 (寺子屋プロジェクト)	5名
9月9日(土)10日(日) 担当場所により異なる	学生派遣	浜大津から琵琶湖 大橋間の担当場所	第5回びわ湖 パノラマウォーク	各日約30名
9月27日(水)～30日 (土) 3泊4日通学合宿	学生派遣	長浜市 湯田まちづくり センター	浅井中・湯田小学校通学合宿 学習・生活指導、歌やゲームの企画と実施	9名
10月15日(日)	学生派遣	比良げんき村	第39回チャレンジ比良登山&志賀ウォー キング大会にかかる競技役員の派遣につ いて	6名
11月19日(日)	学生派遣	高島市内	第3回びわ湖ウォータートレイルSUP駅伝 レース	14名
2月25日(日)	学生派遣	大津市内・ 草津市内	第9回びわ湖 レイクサイドマラソン2018	147名
3月3日(土)	学生派遣	野洲市中主B&G 海洋センター体育館	野洲市中主B&G海洋センターオープン記 念事業	16名

## 指導者派遣事業

期日・期間	事業内容	場所	内容	担当教員・学生
5月1日(月)～ 3月31日(土)	教員派遣	高島地域雇用創造 協議会	雇用創出実践メニュー（発 酵関係）のアドバイザー	武田 哲子
10月16日(月)	教員派遣	仰木の里学区人権 推進委員会	仰木の里学区人権推進委員 会の研修会	藤松 典子
10月26日(木)	講師派遣	一般財団法人 滋賀県高等学校 野球連盟	監督者研修講師	本郷 宏樹
11月13日(月)	講師派遣	彦根市立 稲枝中学	彦根市立稲枝中学 進路学習の講師	本郷 宏樹
11月26日(日)	教員派遣 学生派遣	大津北商工会 管内大学連携委員 会	堅田・健康観光・ウォーキン グ 大津北商工会と成安造形大 学・びわこ成蹊スポーツ大学 が合同で取り組んできた「観 光・健康マップ」と「ウォーキン グBOOK」を手に、堅田の歴 史を学びながら歩き、新しい 発見を楽しむ	村瀬 陽介 松井 茂孝 留学生3名
11月28日(火)	教員派遣	滋賀県総務事務 厚生課	滋賀県共済組合 組合員研 修会	武田 哲子
12月1日(金)	教員派遣	京都府立鳥羽高校	オリンピック・パラリンピック推 進教育1～3年生226名への 講習会	山田 秋親
12月10日(土) 1月13日(土)	教員派遣	滋賀陸上競技協会	平成29年度滋賀陸上競技協 会冬季強化事業指導者	藤林 献明
1月24日(木)	教員派遣	㈱ビバ・スポーツ におの浜ふれあい スポーツセンター	超高齢化社会を元気にする 健康情報の発信1日当たりの 「歩数」「中強度活動時間」と 「予防できる病気・病態」 ウォーキングフォームチェック と正しいウォーキング指導	藤松 典子
1月30日(火)	講師派遣	大津市立 青山小学校	6年生総合的な学習の時間 「働く人に学ぶ」についての講 習	本郷 宏樹
2月1日(木)	教員派遣	大津市立 小松小学校	学校保健委員会講和「成長 期における食生活と運動-リ オ五輪選手を支えた食事から-	武田 哲子

## 研修会・施設見学

事業名	対象人数	期日・期間	内容	担当者
さざなみ学園 中高生12名	14名	10月22日	施設見学・体験	松井 茂孝・坂本和大 ボランティアサークル
社会福祉法人禅心福祉社会 永興藤尾保育園	25名	11月1日	施設見学・体験	中山 亮
高島市スポーツ推進委員研修会	21名	12月3日	施設見学・体験	松井 茂孝・坂本 和大

## 施設開放事業

事業名	期間	担当者
スポーツ開発・支援センター	通年	坂本 和大(トレーニングルーム担当) 神田 恵太(アクアセンター担当)





## 2017年度 スポーツ開発・支援センター事業一覧

### 参画会議・協議会・フォーラム 他

会議・協議会名	期日	主催団体等	出席者
大津・草津地域産業活性化協議会	5月7日	大津市・草津市	若吉 浩二
NPO法人BIWAKO SPORTS CLUB 運営会議・総会	6月6日	NPO法人 BIWAKO SPORTS CLUB	松井 茂孝
大津市北商工会・管内大学連携委員会	8月26日	大津市北商工会	松井 茂孝
大津市北商工会・管内大学連携委員会	9月14日	大津市北商工会	松井 茂孝
大津市北商工会・管内大学連携委員会	10月2日	大津市北商工会	松井 茂孝
大津市北商工会・管内大学連携委員会	10月18日	大津市北商工会	松井 茂孝
大津市北商工会・管内大学連携委員会	10月27日	大津市北商工会	松井 茂孝
オリンピック・パラリンピック 連携大学 地域巡回フォーラム in 奈良	11月5日	一般財団法人 東京オリンピック・パラリンピック 競技大会組織委員会	吉村 太造 松井 茂孝
NPO法人BIWAKO SPORTS CLUB 運営会議	11月21日	NPO法人 BIWAKO SPORTS CLUB	松井 茂孝
大津市北商工会・管内大学連携委員会	11月22日	大津市北商工会	松井 茂孝
NPO法人BIWAKO SPORTS CLUB 運営会議	12月12日	NPO法人 BIWAKO SPORTS CLUB	松井 茂孝
NPO法人BIWAKO SPORTS CLUB 運営会議	2月6日	NPO法人 BIWAKO SPORTS CLUB	松井 茂孝
大津市北商工会・管内大学連携委員会	3月24日	大津市北商工会	松井 茂孝